

授業科目名	日本史Ⅰ
教員の免許状取得のための科目	必修科目
担当形態	単独
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 日本史・外国史
担当教員名	大隅亜希子
単位数	2単位
到達目標	自国の歴史を学ぶことは、自身の生きる環境を知ることでもあり、本学が掲げる教育目標「たくましく生きる力」を育成することにつながる。本講義の到達目標として以下の3点をかかげる。(1)大学全体DP1「実践的な知識と技術」の獲得のために、日本の歴史を教える立場として必要な基礎知識の習得をめざす。(2)高校課程までの教科書的理解ではなく、資料・史料から歴史的事象を考え、より実践的な力の養成をめざす(大学全体 DP3)。(3)グループ活動、プレゼンテーション等を通じて、教える技術として必要とされる「説明する力」を身につける(法学部、経営学部 DP3④⑤)「想像力と行動力」。
授業概要	自身が生活する日本の成り立ちを通史的に理解するために、本講義では、教科書ではなく実際の歴史史料・資料をよみときながらすすめていく。そのため、事前にLMSにおいて、講義資料を配付する。受講に際しては、必ず一読しておいて欲しい。あわせて、最近では各出版社(角川書店、講談社、小学館)からマンガ日本の歴史が出版されている。大まかな日本史の流れを理解する一助となるであろう。本講義では、自らが生活する地域の特色を、歴史的背景をふまえてみつめるために、甲斐国の古代史を学ぶ。そして、地域の具体的な事象を、中学校までの義務教育で得た知識と結びつけながら、歴史学という学問の方法や考え方を習得することをめざす。このことはアクティブラーニングなどの体験型学習の糸口ともなるであろう。この授業は、「日本史」の一般的包括的な内容を含むものである。

授業計画					
回数	内容				
第1回	日本史教育の目標:歴史を学び未来を創造する。歴史観を鍛えるをテーマに考察する。なお、教科としての「日本史」のなりたちについても考察する。				
第2回	縄文時代と山梨:教科書的な縄文時代の理解にあわせて、山梨県内における遺跡・遺物を解説する。あわせて、地方自治体教育委員会の授業支援事業、歴史系博物館の授業支援事業、埋蔵文化財センターの授業支援事業について解説する。				
第3回	弥生時代と山梨:日本列島における大変革期を理解した上で、山梨にはどのような変化がもたらされたのかを解説する。通史的な理解と地域史とのちがいについても解説する。あわせて、地方自治体教育委員会の授業支援事業、歴史系博物館の授業支援事業、埋蔵文化財センターの授業支援事業について解説する。				
第4回	古墳時代と山梨:古墳の出現の意味を理解した上で、県内の古墳を紹介しながら、古墳時代における山梨の特質を考える。史跡見学の有効性について、おもにスライドを利用しながら紹介する。				
第5回	大化の改新・壬申の乱と甲斐:「大化の改新」「壬申の乱」という7世紀の大きな事件を『日本書紀』の購読を中心に考察する。「山梨」に関わる記述に注目し、古代の大きな事件と地域がどのように関わっているのかを考える。				
第6回	古代甲斐国にまつわる伝承:ヤマトタケルと酒折宮、甲斐黒駒など、『日本書紀』等にみられる古代甲斐国にまつわる伝承について考察し、歴史史料を扱う上での注意点などを解説する。				
第7回	地域学習:第6回の講義を踏まえて、酒折神社とその周辺を見学する。				
第8回	奈良時代の甲斐国のヒトとモノ:正倉院文書・木簡等の史料・資料からわかる甲斐国の特質について考える。				
第9回	山梨の史跡を調べよう(1):各自、山梨県内の遺跡をインターネット、博物館のHPなどを利用しながら調べ、紹介文を作成する。				
第10回	山梨の史跡を調べよう(2):第9回の講義で作成したレポートを紹介し、授業内で共有する。				
第11回	東アジアからの文化の伝播:中国・朝鮮半島・日本への仏教の伝播過程について解説する。東アジアと日本文化との関係について考えたい。				
第12回	古代の仏教と甲斐国:教科書に描かれる古代の仏教のあり方と、地域社会への仏教の浸透について比較する。歴史の授業の中で宗教の問題をどのように扱うべきかについても紹介する。				
第13回	古代甲斐国の自然災害:おもに富士山の問題についてとりあげ、近年注目されている歴史分野における「災害史」を紹介する。				
第14回	第1-13回までの講義をふまえた上で「日本史」を中学校で教えることの意味を考える。その中で、各国における歴史教科書、歴史の授業について紹介する。				
第15回	まとめと確認				
学生に対する評価					
評価方法	評価割合			評価基準など	
論述形式のテストを第15回授業内で実施				40%	事前に出題テーマを提示する予定。
LMS小テストを講義後に実施。				40%	各回の講義直後から週間を掲示・回答期間とする。各回3問出題。
LMS小レポート				10%	課題は、講義期間の中盤に、授業の中で提示。LMS小レポートで出題・回収。
授業態度				10%	小テスト、小レポートや期末テスト課題への取り組み状況、回答の有無を総合的に評価。
書名	著者	出版社	ISBN	備考	
『山梨県史』通史編 1、2					
中学社会歴史		教育出版	978-4-316-20311-9		
参考資料・URL	なし				

授業科目名	日本史Ⅱ			
教員の免許状取得のための科目	選択科目			
担当形態	単独			
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 日本史・外国史			
担当教員名	大隅亜希子			
単位数	2単位			
到達目標	自国の歴史を学ぶことは、自身の生きる環境を知ることであり、本学が掲げる教育目標「たくましく生きる力」を育成することにつながる。そして、教職課程として必要な「歴史を教える技術」の習得を到達目標としている。具体的には、大学全体DP1に掲げる「実践的な知識と技術」の獲得のために、日本の歴史を教えるための基礎知識の習得をめざす。教科書的理解にあわせて、資料・史料から歴史的事象を考えることで、より実践的な力を養成する(大学全体 DP3)。グループ活動、プレゼンテーション等を通じて、教える技術として必要とされる「説明する力」を身につける(法学部、経営学部DP③④⑤「想像力と行動力」)。			
授業概要	自身が生活する日本の成り立ちを通史的に理解するために、本講義では、教科書ではなく実際の歴史史料・資料をよみときながらすすめていく。そのため、事前に LMS において、講義資料を配付する。受講に際しては、必ず一読しておいて欲しい。あわせて、最近では各出版社(角川書店、講談社、小学館)からマンガ日本の歴史が出版されている。大まかな日本史の流れを理解する一助となるであろう。 本講義では、中世～近代(昭和前期)の通史を俯瞰することに加えて、日本史Ⅰと同様に地域の歴史についても考察する。鎌倉政権が確立して以降の甲斐国の歴史の歩みは、現代の我々の生活につながっているものも多い。一国史の理解に加えて、近年の義務教育過程において注目されている地域学習の方法を習得することを目的として、各時代における山梨県の特質を考えていく。 なお、近代史の内容については、2022年度高校の社会科新科目である「歴史総合」の内容を紹介する。中学課程の社会科「歴史分野」との比較をしながら、近年の歴史教育の動向についても解説する。			
授業計画				
回数	内容			
第1回	ガイダンス: 講義の方針について。日本史Ⅰ(前期開講)の第1回講義と一部重複する内容となるが、教科としての「日本史」のなりたちについても考察する。			
第2回	中世: 院政期から足利政権誕生までについて教科書的理解の解説をおこなう。			
第3回	中世: 第2回の講義をふまえて、地域史的な視点から、甲斐源氏の発祥と武田氏の歴史について解説する。			
第4回	地域学習: 武田神社の見学			
第5回	織豊政権: 戦国時代から豊臣政権成立までを通史的に辿る			
第6回	織豊政権: 戦国大名について調べてみよう(グループ学習)			
第7回	〃 オジの戦国大名を紹介しよう(各グループ、プレゼンテーション形式にて実施)			
第8回	徳川政権: その成立と意義について、教科書的な解説をおこない、さらに「鎖国」についても考える。			
第9回	徳川時代の甲府: 身近な歴史をどのように調べればよいのか。博物館の紹介をしながら解説する。			
第10回	開国と文明開化: ベリー来航から明治政府成立までを世界史的な視点から考察する。			
第11回	明治時代: 欧米列強の進出と日本の近代化(産業革命、帝国主義をキーワードに近代化の意味を解説する)			
第12回	大正時代: 国際秩序の変化や大衆化(第一次世界大戦によって、世界と日本を取り巻く環境がどのように変化したのかを考察する)			
第13回	大正～昭和初期: 世界恐慌以降の経済構造の変化と日本の動向			
第14回	昭和: 第2次世界大戦と日本			
第15回	まとめと確認			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合			評価基準など
論述形式のテストを第15回授業内で実施	40%			事前に出題テーマを提示する予定。
LMS小テストを講義後に実施	40%			各回の講義直後から1週間を提示・回収機関とする。各回3問を出題。
LMS小レポート	10%			授業内にて提示。
授業態度	10%			小テスト、小レポート期末テスト課題への取り組み状況。回答の有無を総合的に評価。
書名	著者	出版社	ISBN	備考
甲府歴史ものがたり	こうふ開府500年記念誌編集委員会			甲府開府500年記念誌
中学社会歴史		教育出版	978-4-316-20311-9	
参考資料・URL	なし			

授業科目名	世界史
教員の免許状取得のための科目	必修科目
担当形態	単独
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 日本史・外国史
担当教員	中島幹人
単位数	2単位
到達目標	現代社会における基本的な社会のあり方(主権国家)や価値観(自由・平等)がどのような過程を経てヨーロッパにおいて形成されたのかを理解することを目指します。法学科DPの全ての能力向上が求められるが、より具体的には、 (1)西洋の歴史を概観し、基礎的な歴史的知識を習得する(法学部DPI-①:把握する力)。 (2)西洋の言語・宗教・社会について歴史的に認識することができる(法学部DPI-②:考え抜く力)。 (3)歴史的認識に基づいて、歴史的背景から現代社会の諸問題を考察することができる(法学部DPI-④:挑戦する力)。
授業概要	現代社会の基本的価値観である自由や平等、および社会システムとしての国民国家といったものは、近代ヨーロッパに由来します。そこで、本講義では現代世界を理解するうえで重要な近代のヨーロッパの歴史の源泉である古代から中世にかけての歴史的事項に関する基本的素養を身につけることで、現代世界の諸問題を歴史的に理解する能力を養うことを目指します。具体的な講義内容としては、古代ローマから中世末のルネサンスおよび宗教改革までの歴史を取り扱います。より長いスパンでヨーロッパの歴史を理解するために中島担当の「近代ヨーロッパの社会」を受講することを強く推奨します。 この授業は、「世界史」の一般的包括的な内容を含むものである。

授業計画				
回数	内容			
第1回	ガイダンス:授業内容・成績評価などの説明、および導入 本授業の成績評価基準を、左記[配付資料]に掲載しているため、授業計画に際し必ず確認すること。			
第2回	古代ローマの歴史(1):ローマの拡大と共和政の変質			
第3回	古代ローマの歴史(2):帝政の成立と帝政の崩壊			
第4回	古代ローマの歴史(3):ローマ帝国とキリスト教			
第5回	中世の歴史(1):ゲルマンの移動と諸国家の建設			
第6回	中世の歴史(2):カロリング帝国の発展と衰退			
第7回	中世の歴史(3):封建社会・中世国家とキリスト教の発展			
第8回	中世の歴史(4):封建制の変質と終焉			
第9回	ルネサンス期の社会(1):ルネサンス概念の変遷			
第10回	ルネサンス期の社会(2):イタリア都市社会の政治体制			
第11回	ルネサンス期の社会(3):イタリア都市社会の人間関係			
第12回	宗教改革(1):改革前夜の諸情勢			
第13回	宗教改革(2):プロテスタントの拡大(「印刷革命」と情報戦争)			
第14回	宗教改革(3):カトリックの動向			
第15回	まとめと習熟度判定考査・解説:講義内容の全体的確認と習熟度判定考査、およびその解説			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合		評価基準など	
学習態度			10%	出席
習熟度考査(1)			20%	各授業のプチテスト
習熟度考査(2)			70%	論述形式
書名	著者	出版社	ISBN	備考
教養のための西洋史入門	中井義明・佐藤専次他	ミネルヴァ書房		
大学で学ぶ西洋史(近現代)	小山哲・山田史郎他	ミネルヴァ書房		
西洋の歴史(近現代編)増補 I	大下尚一・西川正雄他	ミネルヴァ書房版		
参考資料・URL	なし			

授業科目名	地理学Ⅰ
教員の免許状取得のための科目	必修科目
担当形態	単独
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 地理学(地誌を含む。)
担当教員名	茗荷保
単位数	2単位
到達目標	地理学に関わる歴史や基本概念について、具体例を通して地理学がいかなる学問であるかを理解し、説明できるようになることが第一の目的である。また、人間の生活・活動・行動が展開する空間、場所、環境に対する深い認識と説明力を習得し、地理学の見方で身近の空間を理解できるようになることを期待する。
授業概要	地理学とは世界を把握するための学問である。従ってその領域は極めて学際的でありいわゆる理系・文系の枠にとらわれない、ある意味非常に自由な学問分野であると言える。本講義は「『地理』から『地理学』へ」と移行するための基礎的知識を学ぶことを目的とする。地理学の歴史と発展を紹介し、現代地理学の知識体系及び地図、フィールドワーク、地理情報システムなどの地理学研究の基本的手法を講義する。この講義においては、高校の地歴科地理で学習する地理的知識を再確認し、高校の教科である「地理」と学問の一分野である「地理学」との違いを理解することで自然地理学の導入部分を学ぶことができる。この授業は、「地理学」の一般的包括的な内容を含むものである。

授業計画		
回数	内容	
第1回	ガイダンス 授業内容の概要、受講の注意事項など。高校地理の教科書を熟読しておくことが望ましい。	
第2回	はじめにー「地理学とはどのような学問か」地理学で何ができるのか。	
第3回	「地理学史の概略」 地理学の始まりと発展。地理学は世界をどのように把握してきたか。	
第4回	「地理情報と地図」 地球儀と地図。地形図を読む。主題図を読む。地域の変化を読む。	
第5回	「地理学と自然地理学」 地理学と自然地理学、地球惑星科学について。	
第6回	「気候 1：大気大循環と気候要素・因子」大気大循環、気候要素、気候因子について。	
第7回	「気候 2：世界の気候区分と日本の気候区分」 ケッペンをはじめとした様々な気候区分、日本の気候の特色や気候区分、局地風や都市気候などについて。	
第8回	「世界と日本の大地形」 大地形、地帯構造、プレートテクトニクスなどについて	
第9回	「平野と海岸の地形」 平野と海岸、台地と扇状地、沖積平野の地形について。	
第10回	「変動地形」 地殻変動と変動地形、火山地形、第四紀、気候変動と地形、水河・周水河地形等について。	
第11回	「水循環と流域、陸水、海洋」 水循環と水収支、流域の水循環と物質循環、地下水学の基礎と湖沼学の基礎について。	
第12回	「土壌と植生」 土壌学の基礎を植生景観や文化景観と関連させながら、日本と世界について。	
第13回	「自然環境と人間生活 1」 自然と風土、自然災害。さまざまな自然災害について、自然地理学に関連して。	
第14回	「自然環境と人間生活 2」 地球環境問題。地球環境問題の経緯とこれからの地球環境について。	
第15回	「フィールドワーク」 地域の調べ方とフィールドワーク。現地に臨んで地域の特色を理解する方法について。夏季課題への準備。	
学生に対する評価		
評価方法	評価割合	評価基準など
試験	70%	
小テスト	15%	
レポート	15%	
参考資料・URL	講義ごとに資料を配布する。	

授業科目名	地理学Ⅱ
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	単独
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 地理学(地誌を含む。)
担当教員	若荷保
単位数	2単位
到達目標	地理学に関わる歴史や基本概念について、具体例を通して地理学がいかなる学問であるかを理解し、説明できるようになることが第一の目的である。また、人間の生活・活動・行動が展開する空間、場所、環境に対する深い認識と説明力を習得し、地理学の見方で身近の空間を理解できるようになることを期待する。前期講義の内容をふまえて自ら地域を把握する実践力を磨き、わかりやすく伝えることが出来るようプレゼンテーション能力を涵養することも併せて目的とする。
授業概要	地理学とは世界を把握するための学問である。従ってその領域は極めて学際的でありいわゆる理系・文系の枠にとらわれない、ある意味非常に自由な学問分野であると言える。本講義は「『地理』から『地理学』へ」と移行するための基礎的知識を学ぶことを目的とする。後期は人文地理学的視点から地理学的物事の見方を学習する。

授業計画		
回数	内容	
第1回	夏季レポート提出・発表準備 グループディスカッション	
第2回	夏季レポート提出・発表準備 グループディスカッション	
第3回	夏季レポート提出・発表	
第4回	夏季レポート提出・発表	
第5回	夏季レポート提出・発表	
第6回	夏季レポート提出・発表	
第7回	夏季レポート提出・発表	
第8回	「地理学的とはどういうことか」地域差の存在について。	
第9回	「地域差の説明と解釈」 多様な現象の考え方について。	
第10回	「資源と産業3」 農業・工業・流通と交通	
第11回	「都市と村落1」都市の構造と成長	
第12回	「都市と村落2」村落の構造と課題	
第13回	「社会と環境1」 コミュニティと構造、地域格差	
第14回	「社会と環境2」 生活文化と移民・外国人・マイノリティ	
第15回	「社会と環境3」 身近な環境・エネルギー問題 町づくりと地域振興	
学生に対する評価		
評価方法	評価割合	評価基準など
試験	70%	
小テスト	10%	
レポート	20%	
参考資料・URL	講義ごとに資料を配布する。	

授業科目名	地誌学
教員の免許状取得のための科目	必修科目
担当形態	単独
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 地理学(地誌を含む。)
担当教員	茗荷傑
単位数	2単位
到達目標	「地理学」において、「系統地理学」と並んで重要な分野である「地誌学」の歴史や方法論などについての基礎知識を習得する。また、国内の事例に接することで主として社会科学的に地理的現象をとらえる力を習得する。
授業概要	地理学は地誌学と系統地理学とに大別され、そのうちの地誌学は地理的条件の多様さを構造的に把握することで地域現象を解釈する分野である。本講義では、地理学の中での地誌学の位置づけを学び、その視点と方法を身につけたのち、日本国内の事例を取り上げ地域ごとの特徴についての理解を深める。さらに近隣諸国の中における日本のかわり方を学習する。 この授業は、「地誌」の一般的包括的な内容を含むものである。

授業計画		
回数	内容	
第1回	ガイダンス 講義内容の概略	
第2回	地理学の中の地誌学 地誌学の目的とアプローチ	
第3回	地誌学の歴史 地誌学はどのように始まったか	
第4回	身近な地誌 1 津波に襲われた地区はどの様に存続しえたのか。広川町の事例。	
第5回	身近な地誌 2 火山災害で壊滅した村はいかにして復興したのか。楳法華村の事例。	
第6回	身近な地誌 3 火山災害で壊滅した村はいかにして復興したか。青ヶ島の事例。	
第7回	身近な地誌 4 火山災害で壊滅した村はいかにして復興したか。諏訪之瀬島の事例。	
第8回	身近な地誌 5 火山災害で壊滅した村はいかにして復興したか。浅間山の事例。	
第9回	身近な地誌 6 資源を喪失した地域はなぜ存続しえたのか。瀬戸の事例。	
第10回	身近な地誌 7 廃村に至る理由。谷中村の事例。	
第11回	身近な地誌 8 ある部落の繁栄と消滅。角海浜の事例。	
第12回	身近な地誌 9 沖縄の持つ諸問題とその背景。	
第13回	世界と日本 グローバル化と日本地誌	
第14回	近隣国と日本朝鮮半島	
第15回	近隣国と日本台湾	
評価方法	評価割合	評価基準など
試験	70%	
小テスト	20%	
通常点	10%	講義への参加
参考資料・URL	講義ごとに資料を配布する。	

授業科目名	法学概論
教員の免許状取得のための科目	必修科目
担当形態	単独
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「法学、政治学」
担当教員名	勝亦藤彦
単位数	2単位
到達目標	いわゆる「法学概論」の主要な内容とともに、憲法、民法および刑法に関する基本的事項を十分に理解することを目標とします。
授業概要	法学部1年生を対象に、「法」という学問対象の位置づけから考えた上で、具体的な学び方を指導しつつ、社会における「法」のあり方を考察してゆきます。大学生として身につけるべき「法」に関する知識や意識は、高等学校の「現代社会」や「倫理」で学んだ「法」のそれとは違うかもしれませんが、多くの将来、社会人として触れなければならない様々な法現象や、公務員試験その他の試験の対策としての法律科目の学習など、法とのかかわりは多岐にわたります。それらの基礎となる知識を、じっくりと身につけてゆきましょう。 なお、授業の形式については、対面授業を原則としますが、Zoomによる同時双方向授業を併用するハイフレックス形式を用意します。 この授業は、「法律学」の一般的包括的な内容を含むものである。

授業計画				
回数	内容			
第1回	講義の概要—法学の学び方六法とは？ 法令の構造			
第2回	法とは何か 法と道徳の関係法思想史			
第3回	法源論 1 日本における成文法			
第4回	法源論 2 日本における不文法			
第5回	法の分類1 公法・私法・社会法強行法・任意法			
第6回	法の分類 2 普通法・特別法実体法・手続法その他の分類			
第7回	法の効力1 時に關する法の効力			
第8回	法の効力 2 人に關する法の効力 場所に關する法の効力			
第9回	法の解釈 1解釈とは？有権解釈			
第10回	法の解釈 2 学理解釈のいろいろ			
第11回	日本国憲法近代憲法とは立憲主義とは人權と統治			
第12回	民法と刑法 民事訴訟法と刑事訴訟法			
第13回	司法制度 1 法曹とは 現行の裁判システム			
第14回	司法制度 2 日本の司法制度の歴史と問題点			
第15回	講義のまとめと補充			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合		評価基準など	
テストまたはレポート	100%			
書名	著者	出版社	ISBN	備考
法学概論（第二版）	霞信彦編・原禎嗣ほか著	慶應義塾大学出版会	978-4-7664-2814-8	
参考資料・URL	なし			

授業科目名	政治学概論Ⅰ
教員の免許状取得のための科目	必修科目
担当形態	単独
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「法学、政治学」
担当教員名	劉星
単位数	2単位
到達目標	本授業は、政治思想、政治理論、現実の政治、現代政治など様々な視点から、政治学について履修生の皆さんと議論していきたい。授業の目標は、下記のように設定する。 1、政治学の学説史、政治思想史、基本概念など政治学の基礎知識を身に付けること。 2、政治学理論を利用し、現実政治各分野の現状と問題点を理解すること。 3、グローバル化時代における現代政治が直面する新たなチャレンジとチャンス、そして新課題を理解すること。 4、日本政治、中国政治など各国の政治的諸課題に対する明確な問題意識を持って、複数の視点から考えることができる。以上は法学部 DPI-②「考え抜く力」に特に密接に関連する。
授業概要	政治学は、その範疇が非常に広く、政治自体も現実にはほど遠いようにみえるが、現代社会では、政党、選挙、行政、ガバナンス、社会福祉など日常的に目に見える活動のほとんどは、政治的なものであろう。さらに、国内政治だけでなく、人、資本、生産、貿易の世界的な流れに伴い、国際政治と国内政治との繋がりも日々重要になっている。かつては、国内政治（人権、性別、人種差別など）に属した分野も、環境問題、ウェブ・サイトなど政治に属さなかった分野も、政治学の研究対象になってしまっているのである。 また、日米欧の政治システム（民主主義＋市場経済）が最も合理的で成熟したものだという主張が多い一方、欧米ではナショナリズムと孤立主義的な動向が浮上し、民主主義制度自体が衰退していくという批判も少なくはない。しかし、民主主義体制は大きな問題が存在したとしても、ほかの政治システムがより有望だと断言できるか。これらの問題を念頭に置き、政治学を学び始めましょう。 本授業では、下記のようなテーマに分けて、政治学の歴史的変遷と現状、政治学と政治の諸概念と相互関係について説明する。 一、政治学と政治思想史の基本概念と歴史的変遷を説明する。 二、権力、制度、選挙、行政、社会福祉など政治の構成要素と、自由主義、民主主義、保守主義、全体主義、共産主義などの思想を紹介し、比較する。 三、国家に関わる諸問題（国家の形成、国と個人との関係、国際関係など）を説明する。 四、急速に変化している国際社会の中、グローバル化、AIの進歩など新たな要因が、政治学と現代政治に与えている影響について説明する。 五、日本及び日本と最も深い関係をもつ中国、アメリカの政治をケーススタディとし、政治が直面する問題を提起する。以上の学習内容を踏まえて、国際と国内変動における日本政治をより深く理解していきましょう。 この授業は、「政治学」の一般的包括的な内容を含むものである。

授業計画		
回数	内容	
第1回	政治学の諸問題 政治学を学ぶことの意義とその課題について説明する。	
第2回	政治と政治学の起源 政治思想の源流、政治システムの形成などについて説明する。	
第3回	権力と権力政治 国家（組織、個人も）が、なぜ、そしてどのように権力を獲得・維持・拡大するかについて説明する。	
第4回	軍と政治 軍などの暴力装置が、政治的な役割を果たすべきか、そしてどのように果たせるかについて説明する。	
第5回	国家（1）国家主権 国家主権の意味、歴史的変遷などについて説明する	
第6回	国家（2）国家間の協力 国際政治の視点から、権力政治を重要視する国家は、なぜ共同利益を探し出せるし、協力をも推進できるかについて説明する。	
第7回	国家（3）国家間の紛争と衝突 国際政治の視点から、国家は、なぜ莫大な財産や人的な害を冒しながら、紛争に巻き込んで、戦争に突入したかについて説明する。	
第8回	権利 権利が如何に定義され、確保されるかについて説明する	
第9回	人権 政治学研究、現実の政治における人権の位置づけは、益々に重要になっていくが、人権のあり方と行方について説明する。	
第10回	国家と個人との関係 国が国民のために存在するか、それとも、国民は国に奉仕すべきかについて説明する。	
第11回	イデオロギー 価値観ともいうこの概念は、時に政治・政策を左右できる。その形成、特徴、そして政治・日常生活との関係について説明する。	
第12回	民主主義 民主主義の形成と主な主張を紹介し、その強い生命力とパワーについて説明する。	
第13回	資本主義と自由主義 自由主義の主な特徴、民主主義と共に資本主義への影響などについて説明する。	
第14回	マルクス主義と共産主義 一時的に資本主義と対峙できるほどマルクス主義が、その理想が政治・政策現実とかけ離れたことについて説明する。	
第15回	ナショナリズムと愛国主義 どの国と政府であっても、どの政治制度であっても、ナショナリズムと愛国主義は、いつも効果のある政策手段の一つであろうが、その合理性と非合理性について説明する。	
学生に対する評価		
評価方法	評価割合	評価基準など
期末レポート	70%	
レポート課題		
参考資料・URL	テキストはなし。 参考書、参考資料などは、授業の進行中、随時、配布を行う。	

授業科目名	政治学概論Ⅱ
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	単独
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「法学、政治学」
担当教員名	劉星
単位数	2単位
到達目標	本授業は、政治思想、政治理論、現実の政治、現代政治など様々な視点から、政治学について履修生の皆さんと議論していきたい。授業の目標は、下記のように設定する。 1、政治学の学説史、政治思想史、基本概念など政治学の基礎知識を身に付けること。 2、政治学理論を利用し、現実政治各分野の現状と問題点を理解すること。 3、グローバル化時代における現代政治が直面する新たなチャレンジとチャンス、そして新課題を理解すること。 4、日本政治の諸課題に対する明確な問題意識を持って、複数の視点から考えることができる。以上は法学部 DPⅠ-②考え抜く力と特に密接に関連する。
授業概要	政治学は、その範疇が非常に広く、政治自体も現実にはほど遠いように見えるが、現代社会では、政党、選挙、行政、ガバナンス、社会福祉など日常的に目に見える活動のほとんどは、政治的なものであろう。さらに、国内政治だけでなく、人、資本、生産、貿易の世界的な流れに伴い、国際政治と国内政治との繋がりが日々重要になっている。かつては、国内政治（人権、性別、人種差別など）に属した分野も、環境問題、ウェブ・サイトなど 政治に属さなかった分野も、政治学の研究対象になってしまっているのである。 また、日米欧の政治システム（民主主義＋市場経済）が最も合理的で成熟したものだという主張が多い一方、欧米ではナショナリズムと孤立主義的な動向が浮上し、民主主義制度自体が衰退していくという批判も少なくはない。しかし、民主主義体制は大きな問題が存在したとしても、ほかの政治システムがより有望だと断言できるのか。これらの問題を念頭に置き、政治学を学び始めましょう。 本授業では、下記のようなテーマに分けて、政治学の歴史の変遷と現状、政治学と政治の諸概念と相互関係について説明する。 一、政治学と政治思想史の基本概念と歴史の変遷を説明する。 二、権力、制度、選挙、行政、社会福祉など政治の構成要素と、自由主義、民主主義、保守主義、全体主義、共産主義などの思想を紹介し、比較する。 三、国家に関わる諸問題（国家の形成、国と個人との関係、国際関係など）を説明する。 四、急速に変化している国際社会の中、グローバル化、AI の進歩など新たな要因が、政治学と現代政治に与えている影響について説明する。 五、日本及び日本と最も深い関係をもつ中国、アメリカの政治をケーススタディとし、政治が直面する問題を提起する。以上の学習内容を踏まえて、国際と国内変動における日本政治をより深く理解していきましょう。

授業計画		
回数	内容	
第1回	全体主義 人類の歴史の中、民主主義より遥かに早く存在した全体主義は政治学的に否定されているようだが、現実政治には、未だに「活躍」している、これはなぜかについて説明する。	
第2回	政治と差別 人種差別、宗教差別、性差別的言動とそれに対する抵抗と修正が、政治運動と政治学の進歩に与える影響について説明する。	
第3回	政治システム 様々な政治システムの歴史、特徴と進化について説明する。	
第4回	政党政治 政党政治は、現代政治の重要な構成要素であり、政党の変遷と役割、そして政党と国民との関係について説明する。	
第5回	選挙制度 選挙は政治権利であり、自ら政治を主張する場でもある。選挙の様々な形と性質について説明する。	
第6回	政治と行政 「良い政治」を実現するには、い行政が不可欠である。行政は如何に政治を反映し、政治に 影響を与えるかについて説明する。	
第7回	政治と社会福祉 社会福祉は、国が国民から支持を得る重要な手段でありながら、財政的負担にもなりうるため、良いバランスをとれた社会福祉が可能かどうかについて説明する。	
第8回	現代政治の課題（一）：政治制度とガバナンスをめぐる競争 国家が「成功」する原因は、政治制度によるものなのか、政府運営、つまりガバナンスによるものかについて説明する。	
第9回	現代政治の課題（二）：ポリテイ カル・コレクトネス 人種・宗教・性別などの違いによる偏見・差別を含まない中立的な表現は勿論必要だが、「乱用」という恐れもあるかについて説明する。	
第10回	政治制度のグローバル化 経済のグローバル化が進んでいるが、政治制度のグローバル化は可能でしょうか、そもそも必要でしょうかについて説明する。	
第11 回	AI 時代の政治 人工知恵（AI）とネット時代では、人々の暮らしが 便利になっていくものの、プライバシーを保てるかどうかについて説明する。	
第12回	アメリカ政治 アメリカ政治の現状と課題について説明する。	
第13回	日本政治 日本政治の現状と課題について説明する。	
第14回	中国政治 中国政治の現状と課題について説明する。	
第15回	現代政治と政治学の行方	
学生に対する評価		
評価方法	評価割合	評価基準など
期末レポート	70%	期末レポートの成績は、レポート課題と授業参加回数とを参照しながら決められま す。
レポート課題	30%	
参考資料・URL	テキストはなし。 参考書、参考資料などは、授業の進行中、随時、配布を行う。	

授業科目名	国際法 I
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	単独
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「法学、政治学」
担当教員名	高崎理子
単位数	2単位
到達目標	この科目は、学生が社会で必要な国際法の知識を習得し、社会における国際法の役割を理解して、法学科ディプロマ・ポリシー（DP）中の1-①「把握する力」、②「考え抜く力」、③「挑戦する力」を修得することを目的としています。具体的には、以下を到達目標とします。 ・国際法の基本原則、概念、制度、国際法と国内法の関係および相違点について理解することができる（DP1-①に関連）。 ・主な国際裁判所判例について、その背景を含めて判旨を説明することができる（DP1-①②に関連）。 ・各回の授業内容を踏まえて、国際的な事例問題について国際法上の観点から分析・検討し、自らの見解を論理的に提示することができる（DP1-②③に関連）。
授業概要	国際法は、国際社会を構成する約200の主権国家が相互に良好な関係を維持するための基準となり得るルールです。国際航空、国際郵便、外交領事関係、国家間の輸出入、国際金融など国家間の日常的な接触において生じやすい問題を処理する法的道具として、国際法は特に有効に機能しています。そして、グローバル化の進んだ現代社会では、法律の専門家のみならず公務員や企業に勤める人にも国際法に関する知識が求められる場面が想定されます。 本講では、国際法とはどのような法であるか、その全体像を把握できるような主要な制度と基本的な原則について説明します。具体的には、国際法の特徴、国内法との関係および相違点はいくつか、国際法上、国家はどのような行為をどこまで行うことが許されるかといった点に関し、実際の事例や国際裁判所判例を取り上げつつ解説していきます。 各回の講義では、受講生の皆さんから寄せられたその日のテーマに関連する質問にも回答し、双方向の授業を展開します。

授業計画				
回数	内容			
第1回	ガイダンス ・本講の概要 ・国際法の特徴			
第2回	国際社会と国際法 ・現代国際法の発展状況 ・国際法主体の多元化 ・国際司法裁判所 コルフ海峡事件			
第3回	国際法規則の存在形態 ・国際法の具体的存在形式 ・国際法規の効力と適用関係 ・国際司法裁判所 北海大陸棚事件			
第4回	条約法 ・条約の締結、終了 ・条約の留保 ・条約の適用、効力 ・国際司法裁判所 アイスランド漁業管轄権事件			
第5回	国際法と国内法 ・国際法体系における国内法の取扱い ・国内法体系における国際法の地位			
第6回	現代国際法の基本的法原則 ・国家主権の原則、国家平等の原則 ・国内問題不干渉の原則 ・人民の自決権 ・カナダ最高裁判所 ケベック分離事件			
第7回	国家(1) 国家成立の要件 ・国家性の要件 ・国家承認 ・政府承認			
第8回	国家(2) 国家承継 ・条約の承継と適用規則 ・境界と領域の制度的特例 ・国家承継と国際機構への加盟			
第9回	国家(3) 主権免除 ・絶対免除から制限免除主義へ ・制限免除主義と行為の区分 ・強制執行の免除			
第10回	地球空間の地位ー領域(1) ・領域主権の法概念 ・国家領域の構成単位 ・領域の取得			
第11回	地球空間の地位ー 領域(2) ・領土紛争 ・国際司法裁判所 ブレア・ビビア寺院事件			
第12回	地球空間の地位ー海洋 ・海洋の法的地位 ・海洋の境界画定 ・海洋紛争の解決			
第13回	地球空間の地位ー宇宙 ・宇宙法の形成 ・宇宙の地位と利用			
第14回	地球空間の地位ー環境 ・国際環境法の発展 ・近隣諸国の環境存在の防止 ・地球環境の保護			
第15回	到達度確認 ・国際法の基本原則と基礎的な概念			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合		評価基準など	
定期試験（課題レポート）			70%	知識の定着、法的思考力を問う。
授業内ミニ・テスト			30%	知識の定着を問う。
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『基礎国際法』（第3版）	杉原高嶺	有斐閣	978-4-641-04682-5	2,100円＋税（購入必須）
参考資料・URL	【条約集】 授業の各回のテーマに関連する条約については unipa「授業資料管理」に予習用教材として アップする予定ですが、下記の条約集のうちどれか 1冊所持していると役に立つでしょう。 ・岸田健太郎編集代表『コンパクト学習条約集 』（信山社） ・岩沢雄司編集代表『国際条約集』（有斐閣） ・栗師寺公夫・坂元茂樹・浅田正彦（編集代表）『ベージック条約集』（東信堂） 【参考書】 自学用の参考文献は下記の他、随時、授業中にご紹介する予定です。 ・加藤信行、植木 俊哉、森川幸一、真山全、酒井 啓亘、立松 美也子編著『ビジュアルテキスト国際法』（有斐閣、2020年）ISBN-13: 978-4641046863（2,400円＋税） ・杉原高嶺、酒井啓亘編『国際法基本判例50』（第2版）（三省堂、2014年）ISBN: 978-4-385-32327-5（2,200円＋税） ・山形英郎編著『国際法入門 逆から学ぶ』（法律文化社、2018年）第2版、ISBN- 13：978-4589039606			

授業科目名	国際法Ⅱ
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	単独
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「法学、政治学」
担当教員名	高崎理子
単位数	2単位
到達目標	この科目は、学生が社会で必要な国際法の知識を習得し、社会における国際法の役割を理解して、法学科ディプロマ・ポリシー（DP）中の1～①「把握する力」、②「考え抜く力」、③「挑戦する力」を修得することを目的としています。具体的には、以下を到達目標とします。 ・国際法の基本原則、概念、制度、国際法と国内法の関係および相違点について理解することができる（DP1～①に関連）。 ・主な国際裁判所判例について、その背景を含めて判旨を説明することができる（DP1～①②に関連）。 ・各回の授業内容を踏まえて、国際的な事例問題について国際法上の観点から分析・検討し、自らの見解を論理的に提示することができる（DP1～②③に関連）。
授業概要	国際法は、国際社会を構成する約200の主権国家が相互に良好な関係を維持するための基準となり得るルールです。国際航空、国際郵便、外交領事関係、国家間の輸出入、国際金融など国家間の日常的な接触において生じやすい問題を処理する法的道具として、国際法は特に有効に機能しています。そして、グローバル化の進んだ現代社会では、法律の専門家のみならず公務員や企業に勤める人にも国際法に関する知識が求められる場面が想定されます。 そこで、本講では、国際法とはどのような法であるか、その全体像を把握できるよう主要な制度と基本的な原則について説明します。具体的には、国際法の特徴、国内法との関係および相違点のほか、国際法上、国家はどのような行為をどこまで行うことが許されるかといった点に関し、実際の事例や国際裁判所判例を取り上げつつ解説していきます。各回の講義では、受講生の皆さんから寄せられたその日のテーマに関連する質問にも回答し、双方向の授業を展開します。

授業計画				
回数	内容			
第1回	ガイダンス ・ 本講の概要 ・ 国際法Ⅰの復習			
第2回	個人の地位(1) 国籍 ・ 国籍付与の一般原則 ・ 国籍の得喪、抵触 ・ 船舶、航空機の国籍			
第3回	個人の地位(2) 犯罪人の引渡し ・ 犯罪人引渡の基本原則			
第4回	個人の地位(3) 国籍 ・ 外国人の地位 ・ 難民の保護			
第5回	国際人権法(1) 国連憲章と人権 ・ 国連憲章 ・ 世界人権宣言 ・ 国際人権規約			
第6回	国際人権法(2) 個別的人権条約 ・ ジェノサイド条約 ・ 女性差別撤廃条約 ・ 子どもの権利条約			
第7回	国際人権法(3) 国際人権法の実施制度と地域的人権条約 ・ 人権条約上の実施制度 ・ 国連による人権の実施制度 ・ 欧州人権条約、米州人権条約			
第8回	外交・領事関係法 ・ 外交使節団・領事の任務 ・ 外交使節団・領事の特権、免除			
第9回	国家責任法 ・ 国際違法行為の成立要件 ・ 外交的保護権 ・ 国際違法行為と賠償			
第10回	国際社会における平和の維持(1) 国際紛争の平和的解決 ・ 国際連合の組織と機能 ・ 平和的解決の方法 ・ 国際司法裁判所			
第11回	国際社会における平和の維持(2) 国際安全保障 ・ 勢力均衡と国際連合の集団安全保障体制 ・ 自衛権 ・ 平和維持活動			
第12回	武力紛争法(1) 戦闘手段と方法の規制 ・ 戦闘手段の規制 ・ 戦闘方法の規制			
第13回	武力紛争法(2) 戦争犠牲者の保護 ・ 武力紛争の犠牲者の保護 ・ 捕虜の待遇			
第14回	武力紛争法(3) 戦争犯罪と裁判制度 ・ 国際軍事・刑事裁判所による裁判 ・ 旧ユーゴスラビア国際刑事裁判所 ・ 国際刑事裁判所			
第15回	総括 ・ 国際法の基本原則と主要な制度			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合		評価基準など	
定期試験(課題レポート)			70%	知識の定着、法的思考力を問う。
授業内ミニ・テスト			30%	知識の定着を問う。
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『基礎国際法』(第3版)	杉原高嶺	有斐閣	978-4-641-04682-5	2,100円＋税(購入必須)
参考資料・URL	【条約集】 授業の各回のテーマに関連する条約についてはunipa「授業資料管理」に予習用教材としてアップする予定ですが、下記の条約集のうちどれか 1冊所持していると役に立つでしょう。 ・ 芹田健太郎編集代表『コンバクト学習条約集』(信山社) ・ 岩沢雄司編集代表『国際条約集』(有斐閣) ・ 薬師寺公夫・坂元茂樹・浅田正彦(編集代表)『ベーシック条約集』(東信堂) 【参考書】 自学用の参考文献は下記の他、随時、授業中にご紹介する予定です。 ・ 加藤信行、植木 俊哉、森川幸一、真山 全、酒井 啓亘、立松 美也子編著『ビジュアルテキスト国際法』(有斐閣、2020年)ISBN-13: 978-4641046863 (2,400円＋税) ・ 杉原高嶺、酒井啓亘編『国際法基本判例50』(第2版)(三省堂、2014 年)ISBN: 978-4-385-32327-5 (2,200円＋税) ・ 山形英郎編著『国際法入門 逆から学ぶ』(法律文化社、2018年)第2版、ISBN- 13 : 978-4589039606			

授業科目名	国際政治Ⅰ			
教員の免許状取得のための科目	選択科目			
担当形態	単独			
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「法律学、政治学」			
担当教員名	原口幸司			
単位数	2単位			
到達目標	本課目では法学部DPI-① 把握する力、1-② 考え抜く力、1-③ 協調する力の育成を目標とする。現代の国際社会が抱える政治問題の中から主要なものを把握し、その原因を究明することで考え抜く力を鍛える。加えて、多様な価値観や時には対立する国益を有する国家が、問題解決のためにいかに合意形成に至るかを学ぶことで協調する力を育成する。本科目の履修後には国際政治の主要課題、特に安全保障問題に対して自らの意見や立場を表明しできるようにすることを目指す。			
授業概要	私たちが生きる 21世紀の世界は戦争、核兵器の拡散、気候変動、難民、貧困、感染症など多種多様な問題を抱える一方で、技術革新と市場経済の世界的広がり民主化の進展により、より多くの人が繁栄と自由を享受できるようになった。さらに グローバル化した世界では一國で起きたことが遠く離れた他の国に重大な影響を与えることも増え、国内政治と国際政治の 区別がより困難になった。このように複雑化する国際政治をできるだけ整理して理解するために、本科目では第一に主要な理論や概念を学び、体系的かつ大局的な国際政治の理解を目指す。第二部では戦争、核兵器の拡散など主要な安全保障の問 題を取り上げ、第一部で学んだ理論や概念の応用の機会とする。なお、気候変動、難民、貧困、感染症、貿易、国際金融 など国際政治における経済・社会問題は後期に開講する「国際政治Ⅱ」で取り上げることとします。			
授業計画				
回数	内容			
第1回	導入 国際政治の特徴、主体、課題 国際政治とは？ 国際政治の特徴とは？ 国際政治の主体とは？ 国際政治の研究手法とは？ ＊授業概要並びに成績評価方法と基準も説明します（配布資料を参照のこと）履修希望者が教室の収容人数を超過する場合、履修者選抜のための課題を発表するので必ず出席して下さい。			
第2回	国際政治の歴史 主権国家体制の成立と変容			
第3回	国際政治の理論 1 リアリズム モーゲンソー、ウォルト、ミアシャイマーを中心に冷徹に国際政治の現実を分析する客観的理論か？ 大国の悲劇を生む思想的元凶か？			
第4回	国際政治の理論 2 リベラリズム カント、コヘンとナイ、ラセッ、アイケンベリーを中心に平和と繁栄の理論が実現不可能な理想主義か？			
第5回	国際政治の理論 3 コンストラクティヴィズム ウェント、カツェンスタイン、アイデンティティー、文化、規範に注目すれば世界的課題は理解可能か、？			
第6回	国際政治の理論 4 マルクス主義とフェミニズム労働者や女性の視点から見る国際政治			
第7回	国際政治の理論 5 政策決定論 国際政治における政治家、官僚、財界、メディア、圧力団体の役割とは			
第8回	安全保障問題 1 大国の興亡			
第9回	安全保障問題 2 勢力均衡、同盟、集団安全保障			
第10回	安全保障問題 3 戦争			
第11回	安全保障 4 民族紛争とテロリズム			
第12回	安全保障 5 通常兵力			
第13回	安全保障 6 大量破壊兵器と軍備管理			
第14回	安全保障 7 無人機、AI、サイバー			
第15回	総括			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合		評価基準など	
クイズ	40%		教科書と参考書に基づくオープンブック式のクイズをLMS 上で数回実施します	
レポート	30%		関心のある国際政治の問題を選んでその解決方法を提示してもらいます	
グループディスカッション＆プレゼンテーション	30%		グループで話し合った内容をスライドに纏めて発表してもらいます	
書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる国際政治	広瀬、小笠原、小尾（編）	ミネルヴァ書房	978-4-623-09269-7	本体価格3,000円（＋税） ＊購入必須
現代の国際政治	長谷川、金子（編）	ミネルヴァ書房	978-4623085613	参考書
国際紛争――理論と歴史	ロナイ Jr.	有斐閣	978-4641149175	参考書
大国政治の悲劇	J. ミアシャイマー	五月書房新社	978-4909542175	参考書
参考資料・URL	なし			

授業科目名	国際政治Ⅱ
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	単独
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「法学、政治学」
担当教員名	原口幸司
単位数	2単位
到達目標	本課目では法学部DPI-① 把握する力1-② 考え抜く力、1-③ 協調する力の育成を目標とする。現代の国際社会が抱える政治問題の中から主要なものを把握し、その原因を究明することで考え抜く力を鍛える。加えて、多様な価値観や時には対立する国益を有する国家が、問題解決のためにいかに合意形成に至るかを学ぶことで協調する力を育成する。本科目の履修後には国際政治の主要課題、特に経済・社会問題に対して自らの意見や立場を表明しできるようになることを目指す。
授業概要	私たちが生きる 21世紀の世界は戦争、核兵器の拡散、気候変動、難民、貧困、感染症など多種多様な問題を抱える一方で、技術革新と市場経済の世界的広がりや民主化の進展により、より多くの人が繁栄と自由を享受できるようになった。さらにグローバル化した世界では一国で起きたことが遠く離れた他の国に重大な影響を与えることも増え、国内政治と国際政治の区別がより困難になった。前期開講科目である国際政治Iで学んだ国際政治の分析枠組み、理論、概念を利用して現代国際社会における主要な経済・社会問題に焦点をあて、その原因とその解決に向けた関係各国、国際機関、民間、個人の取り組みを学びます。

授業計画				
回数	内容			
第1回	導入 *授業概要並びに成績評価方法と基準も説明します(配布資料を参照のこと)履修希望者が教室の収容人数を超過する場合、履修者選抜のための課題を発表するので必ず出席して下さい。			
第2回	国際政治経済の理論 1 リベラリズム			
第3回	国際政治経済の理論 2 重商主義			
第4回	国際政治経済の理論 3 マルクス主義			
第5回	国際政治経済の理論 4 国際レジーム論			
第6回	貿易			
第7回	国際金融			
第8回	地域統合			
第9回	移民と難民			
第10回	感染症			
第11回	気候変動			
第12回	開発と南北問題			
第13回	持続可能な開発目標 (SDG)			
第14回	IT革命とグローバルカルチャー			
第15回	総括 国際政治の未来			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合		評価基準など	
クイズ	40%		教科書と参考書に基づくオープンブック式のクイズをLMS上で数回実施します	
レポート	30%		関心のある国際政治の問題を選んでその解決方法を提示してもらいます	
グループディスカッション & プレゼンテーション	30%		グループで話し合った内容をスライドに纏めて発表してもらいます	
書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる国際政治	広瀬、小笠原、小尾(編)	ミネルヴァ書房	978-4-623-09269-7	本体価格3,000円(+税) *購入必須
グローバル資本主義：危機か繁栄か	R. ギルピン	東洋経済	978-4492442807	参考書
国家と市場：国際政治経済学入門	SI ストレンジ	筑摩書房	978-4480510143	参考書
国際政治経済学	田所昌幸	名古屋大学出版	978-4-8158-0587-6	参考書
参考資料・URL	なし			

授業科目名	国際関係論(概論)Ⅰ
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	単独
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「法律学、政治学」
担当教員名	高蘭
単位数	2単位
到達目標	1. 国際関係論に関する基礎的な知識を習得すること(法学部 DPI-①「把握する力」と関連) 2. テーマ討論、資料データに基づき、合理的な判断ができること(法学部 DPI-②「考え抜く力」と関連)
授業概要	この授業では、国際関係論に関する資料を理解し、活用することができるようにするため、まず、参考書文献阅读、資料収集の心構え、基礎的な分析について学びます。次に、資料に基づく資料収集方法、資料整理、資料分析について学びます。そして最後に、小論文作成について学びます。 また、履修者の皆さんには、講義を聴くだけでなく、討論会を通じて、資料収集する上で国際関係論の基礎理論及び日中関係史への理解を更に深めてもらいたいと考えています。

授業計画				
回数	内容			
第1回	ガイダンス: 講義概要説明 講義全体内容、また講義方法、予習復習要求について説明する。			
第2回	国際関係論理論; 権力政治をめぐる(一)国際関係論の基本理論知識を紹介する			
第3回	国際関係論理論; 権力政治をめぐる(二)国際関係論の基本理論知識を紹介する			
第4回	日本の国際関係論の生成と展開(一) 日本の国際関係論の内容、展開状況などを紹介する			
第5回	日本の国際関係論の生成と展開(二) 日本の国際関係論の内容、展開状況などを紹介する			
第6回	日中関係史1 (1868年以前) 1868年(明治期)以前の日中関係史を紹介する			
第7回	日中関係史2 (1868 年以前) 1868年(明治期)以前の日 中関係史を紹介する			
第8回	日中関係史 (1868-1918年) 1868-1918 年の日中関係史を紹介する			
第9回	日中関係史 (1918-1945年) 1918-1945 年の日中関係史を紹介する			
第10回	日中関係史 (1945-1972年) 1945- 1972年の日中関係史を紹介する			
第11回	日中関係史 (1972-1990年) 1972 - 1990年の日中関係史を紹介する			
第12回	日中関係史 (1990- 2000) 1990- 2000年の日中関係史を紹介する			
第13回	21世紀の日中関係1 2000 年以降の日中関係史を紹介する			
第14回	21世紀の日中関係2 2000 年以降の日中関係史を紹介する			
第15回	全体総括 講義全体内容を再略説し、重点課題をめぐって深く討論し、レポートの提出修正を要求する。			
学生に対する評価				
評価方法		評価割合		評価基準など
授業内課題				50% 日本語
レポート				50% 日本語
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『国際関係論の生成と展開』	初瀬龍平(編集)、戸田真紀子(編集)	ナカニシヤ出版	9784779511479	
『日本の国際関係論』	内矢根聡	勁草書房	9784326302536	
『日中関係1945-1990』	田中明彦	東京大学出版会	9784130020640	
『日中関係史』	国分良成、添谷芳秀他	創斐閣	978-4641220065	
参考資料・URL	『「帝国」の国際政治学—冷戦後の国際システムとアメリカ』、山本吉宣高坂正党と戦後日本』、五百旗頭真、中西寛 『国際政治事典』猪口孝、田中明彦他 『文明が衰亡するとき』(新潮選書)高坂正彦 『国際的相互依存』山本吉宣 『人間・国家・戦争:国際政治の3つのイメージ』、ケネス ウォルツ、Kenneth N. Waltz 他、渡邉昭夫・岡垣知子訳 『紛争の戦略—ゲーム理論のエッセンス(ポリティカル・サイエンス・クラシックス4)』、トーマス・シェリング、河野勝 『国際関係理論』第2版(勁草テキスト・セレクション)、吉川直人、野 口和彦 『現代中国内政と外交』毛里和子 『記録と考証 日中国交正常化・日中平和友好条約締結交渉 』、石井明、朱建栄他			

授業科目名	国際関係論(概論)Ⅱ
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	単独
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「法律学、政治学」
担当教員名	高蘭
単位数	2単位
到達目標	1. 国際関係論に関する基礎的な知識を習得すること（DP①「把握する力」と関連） 2. テーマ討論、資料データに基づき、合理的な判断ができること（DP②「考え抜く力」と関連）
授業概要	この授業では、国際関係論に関する資料を理解し、活用することができるようにするため、まず、参考書文献閱讀、資料収集の心構え、基礎的な分析について学びます。次に、資料に基づく資料収集方法、資料整理、資料分析について学びます。そして最後に、小論文作成について学びます。 また、履修者の皆さんには、講義を聴くだけでなく、討論会を通じて、資料収集する上で国際関係論の基礎理論及び日米関係史への理解を更に深めてもらいたいと考えています。 ご注意事項：「計画段階では、対面実施を計画していましたが、直近の状況を踏まえ前期と同様にオンラインにて実施いたします。」

授業計画				
回数	内容			
第1回	ガイダンス:講義概要説明 講義全体内容、また講義方法、予習復習要求について説明する。			
第2回	国際関係論理論; 対外政策決定過程 国際関係論の基本理論知識を紹介する			
第3回	国際関係論理論; 国際紛争とその処理、解決国際関係論の基本理論知識を紹介する			
第4回	安全保障と同盟 日本の安全保障政策の概況、日米同盟状況などを紹介する			
第5回	国際政治経済 国際政治経済学理論 (IPE) を紹介する			
第6回	第一次世界大戦 第一次世界大戦と日本の状況を紹介する			
第7回	第二次世界大戦 第二次世界大戦と日本の状況を紹介する			
第8回	日米関係史(明治期) 明治期の日米関係史を紹介する			
第9回	日米関係史(第二次世界大戦まで) 明治期から第二次世界大戦までの日米関係史を紹介する			
第10回	日米関係史(戦後占領期) 戦後占領期の日米関係史を紹介する			
第11回	日米関係史(冷戦期) 冷戦期の日米関係史を紹介する			
第12回	日米関係史(冷戦後) 冷戦後の日米関係史を紹介する			
第13回	日米経済関係 戦後以来の日米経済関係を紹介する			
第14回	日米軍事関係 戦後以来の日米軍事関係を紹介する			
第15回	全体総括 講義全体内容を再略説し、重点課題をめぐって深く討論し、レポートの提出修正を要求する。			
学生に対する評価				
評価方法		評価割合		評価基準など
授業内課題		50%		日本語
レポート		50%		日本語
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『日本政治史―外交と権力』	北岡伸一	有斐閣	978-4641149199	
『不思議の日米関係史 』	高坂正亮	PHP 研究所	978-4569553207	
『日米関係史』	五百旗頭真	有斐閣	978-4641183575	
『日米戦争と戦後日本 』	五百旗頭真	講談社	978-4061597075	
『国際政治と分析枠組 』	岡部達味	東京大学出版会	978-4130090520	
参考資料・URL	『国際政治学』(New Liberal Arts Selection)、中西寛、石田淳他 『日本政治外交史』(放送大学教材)、2019/3/20、五百旗頭 薫(著)、奈良岡 聰智(著) 『戦後日本外交史』第3版補訂版(有斐閣アルマ)、五百旗頭真 『グローバル社会の国際関係論』新版山田高敏、大矢根聡 『スタンレー・ホフマン国際政治論集』、スタンレー・ホフマン、中本義彦他 『国際政治の理論(ポリティカル・サイエンス・クラシックス 3)』、ケネス・ウォルツ、河野勝他			

授業科目名	社会学Ⅰ			
教員の免許状取得のための科目	必修科目			
担当形態	単独			
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「社会学、経済学」			
担当教員名	保坂克洋			
単位数	2単位			
到達目標	「社会学とはどのような学問なのか」について理解を深めるとともに、日常的な事象に対して社会学的な視点をもって考えられるようになることを目標とする。			
授業概要	私達が生きている現在の社会では、「多様性」、「格差」などのキーワードのもと、社会の様々な次元において問題を抱える者への支援が求められるようになってきている。こうした、いわゆる、社会的マイノリティの抱える問題は、社会の「当たり前」とされる常識や価値観によって作られている。そこで、本授業では、私達が何気なく生きている日常を問い直すことを通して、社会的マイノリティの抱える問題を理解し、他者との関わり方を考えていく。この授業は、「社会学」の一般的包括的な内容を含むものである。			
授業計画				
回数	内容			
第1回	オリエンテーション授業内容・受講方法などの確認			
第2回	社会学とはなにかー社会学の2つの視点			
第3回	部落差別の今は？			
第4回	当事者は差別や排除のことを語るのか？ー〈ジモト〉の在日コリアンとともに感じたこと			
第5回	「身体」をあたりまえに生きるためにー「マタニティ・ハラスメント」という問題			
第6回	「ひきこもり」からの問題提起			
第7回	学校空間における排除と差別			
第8回	解放の政治から生成の政治へー「ゲイ」というカテゴリーの意味転回			
第9回	女性カップルの子育て願望への反発に見る排除のかたちー「子どものがかわいそう」をめぐるポリティクス			
第10回	モザイクとしての「障害者問題」			
第11回	「ユニークフェイス」から「見た目問題」へ			
第12回	「民族」との向き合い方ー在日コリアンの歴史と日本社会の対応			
第13回	「復興災害」の空間と多文化的現実ー21年目の被災地を歩きなおす／見つめなおす			
第14回	原爆問題について自由に思考をめぐらすことの困難			
第15回	まとめ			
学生からの評価				
評価方法	評価割合			評価基準など
授業内課題(リアクションペーパー)	40%			
学期末試験	60%			
書名	著者	出版社	ISBN	備考
新版排除と差別の社会学	好井裕明編	有斐閣	978-4-641-28140-0	
参考資料・URL	なし			

授業科目名	社会学Ⅱ			
教員の免許状取得のための科目	選択科目			
担当形態	単独			
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「社会学、経済学」			
担当教員名	保坂克洋			
単位数	2単位			
到達目標	「社会学とはどのような学問なのか」について理解を深めるとともに、日常的な事象に対して社会学的な視点をもって考えられるようになることを目標とする。			
授業概要	私達が生きている現在の社会では、「多様性」、「格差」などのキーワードのもと、社会の様々な次元において問題を抱える者への支援が求められるようになってきている。こうした、いわゆる、社会的マイノリティの抱える問題は、社会の「当たり前」とされる常識や価値観によって作られている。そこで、本授業では、私達が何気なく生きている日常を問い直すことを通して、社会的マイノリティの抱える問題を理解し、他者との関わり方を考えていく。			
授業計画				
回数	内容			
第1回	オリエンテーション授業内容・受講方法などの確認			
第2回	社会学とはなにかー社会学の2つの視点			
第3回	女性差別を身体論から考える			
第4回	障害者とともに生きる			
第5回	外国籍の子どもと向き合うー学校におけるマイノリティと地域			
第6回	異民族を売り物にするーエスニック・マイノリティの観光商品化			
第7回	日系ブラジル人の30年を考えるー家族と居住地			
第8回	在日コリアン・差別・ヘイトスピーチー歴史から問いなおす			
第9回	越境するチャイニーズとともに生きる			
第10回	部落差別から日本社会を見つめ直す			
第11回	ハンセン病者へのまなざし			
第12回	「被爆者」と「被曝者」から差別を考える			
第13回	環境と難民の問題をドイツに学ぶ			
第14回	社会運動でマイノリティの存在を知らせる			
第15回	まとめ			
学生に対する評価				
評価方法		評価割合	評価基準など	
授業内課題(リアクションペーパー)		40%		
学期末試験		60%		
書名	著者	出版社	ISBN	備考
マイノリティ問題から考える社会学・入門	西原和久・杉本学編	有斐閣	978-4-641-17463-4	
参考資料・URL	なし			

授業科目名	経済学概論
教員の免許状取得のための科目	必修科目
担当形態	単独
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「社会学、経済学」
担当教員名	今井久
単位数	2単位
到達目標	1. 経済学に関する知識を習得し、経済学に関して体系的に把握する。また、これらを用いて多面的に経済社会を捉えることができるようになる。(DP①～① 把握する力に関連) 2. 現代の社会における諸課題を発見し、経済学の視点から課題解決に向けた論理的・批判的・創造的判断ができるようになる。・政府財政に関する基礎概念を理解する。 3. 地域社会の特徴や地域社会が抱える課題に関心をもち、積極的に自己・組織・地域社会を改善する意欲をもつことができる。(DP①～③ 挑戦する力に関連)
授業概要	現在、我々の日常生活は、経済活動とは切っても切れない関係にあります。近年においては、我々の経済活動はますます肥大化し、我々の生活はいつそ経済の動向に左右されるようになってきました。また、このような経済活動は、日本経済のみならず世界経済と密接に関係しています。新聞、テレビ、雑誌等で、学生諸君も経済活動に関する様々な情報を得ているでしょう。しかし、それらの情報を正確に理解し、ましてや分析するということは、専門的な知識をなくしてはなかなか困難なことです。 この授業では、このような経済活動に関する情報をより正確に理解、分析するため、経済学の基礎的な理論が講義されます。 (注意)授業開始後、約30分間はオンラインで講義を行います。その後、40分間で、LMSにアップした小テスト(正誤問題10問、穴埋め問題10問、記述問題1問)を各自行い提出します。最後の20分間で小テストの説明、及び質疑応答を行います。 この授業は、「経済学」の一般的包括的な内容を含むものである。

授業計画				
回数	内容			
第1回	オリエンテーション経済学とは？			
第2回	ポイント整理 ① 経済学の役割と基本的な考え方			
第3回	ポイント整理 ② ミクロ経済学の「需要」と「供給」とは？			
第4回	ポイント整理 ③ 効用を最大化しようとする家計の経済行動とは？			
第5回	ポイント整理 ④ 企業が利潤を最大化するための判断基準とは？			
第6回	ポイント整理 ⑤ 理想と現実。格差や独占、駆け引きの現実をどう見る？			
第7回	ポイント整理 ⑥ 市場に任せても現実がうまくいかないのはなぜか？			
第8回	ポイント整理 ⑦ マクロ経済学とは何を見て、どうしたい経済学なのか？			
第9回	ポイント整理 ⑧ ケインズ経済学とはどんな経済学なのか？			
第10回	ポイント整理⑨ 政府の財政政策はどんな効果をもたらすのか？			
第11回	ポイント整理⑩ 政府の金融政策はどんな効果をもたらすのか？			
第12回	ポイント整理⑪ インフレ、経済と政治、グローバル経済を振り返る			
第13回	行動経済学 行動経済学とはどんな学問か、そして、なぜ注目されるようになってきたかを講義する			
第14回	これからの社会を考えてみよう VUCA 時代と言われている現代において、将来に向けてどのようなことを考える必要があるのか、また、どのように対応していく必要があるのかを講義する			
第15回	全体のまとめ			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合		評価基準など	
小テスト	80%		正答率	
レポート課題	20%		授業中に提示するルーブリック	
書名	著者	出版社	ISBN	備考
大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる	井堀利宏	KADOKAWA	978-4046040572	
大学4年間の経済学がマンガでざっと学べる	井堀利宏	KADOKAWA	978-4046017208	
参考資料・URL	なし			

授業科目名	公共経済学
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	単独
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「社会学、経済学」
担当教員名	倉澤一孝
単位数	2単位
到達目標	1. 日本の政府財政の現状と課題を説明することができる。(DP①-1 把握する力に関連) 2. 「市場の失敗」の原因と政府が市場に介入することの意義を理解し、新たな解決策を提案することができる。(DP①-2 考え抜く力に関連) ・所得格差が生じる原因と是正するための諸制度について説明することができる。(DP①-1 把握する力に関連)
授業概要	私たちが生活している市場経済は、経済成長を促して人々の生活水準を向上させる一方、環境問題や所得格差など、様々な問題を生み出しています。この授業では、このような問題に対する解決策を、経済学の理論を使って考えます。まず、政府の機能と日本財政の現状について学びます。次に、市場経済が機能しないケース「市場の失敗」の原因、それに対する対応策について学びます。地球温暖化や渋滞など、身近な事例をケーススタディーを通じて学びます。また、所得格差が生じる原因、社会保障制度や累進課税制度など格差を是正する制度について学びます。各回の授業では、自分で調べたり、作業をする時間を多く取ります。また、グループで活動することもあります。したがって、受講者の積極的な参加が必要とされます。

授業計画				
回数	内容			
第1回	ガイダンス 公共経済学の全体像について学びます。			
第2回	ミクロ経済学の復習 その1 需要供給分析とその応用			
第3回	ミクロ経済学の復習 その1 ゲーム理論と戦略的行動			
第4回	財政の機能と日本財政の現状・課題 その1 市場経済で政府が果たす役割と日本財政の現状・課題について学びます。			
第5回	財政の機能と日本財政の現状・課題 その2 市場経済で政府が果たす役割と日本財政の現状・課題について学びます。			
第6回	第1～5回のまとめ コンセプトマップを作成し、これまでの授業の内容を整理します。			
第7回	市場の失敗と政府の政策 その1 独占、寡占と競争政策について、ケーススタディーを通じて学びます。 ケース① 石油危機 ケース② ロックフェラーとスタンダードオイル			
第8回	市場の失敗と政府の政策 その2 外部性とフリーライダー問題について、ケーススタディーを通じて学びます。 ケース① ごみのポイ捨て ケース② 地球温暖化と炭素税			
第9回	市場の失敗と政府の政策 その3 情報の非対称性をもたらす問題について、ケーススタディーを通じて学びます。 ケース① ぐるなびや Amazonの「レビュー」 ケース② アタリ・ジョック			
第10回	第7～9回のまとめ コンセプトマップを作成し、これまでの授業の内容を整理します。			
第11回	所得格差と再分配政策 その1 所得格差の測定方法、発生する原因、および、政府の政策について学びます。			
第12回	所得格差と再分配政策 その2 所得格差の測定方法、発生する原因、および、政府の政策について学びます。			
第13回	第11～12回のまとめ コンセプトマップを作成し、これまでの授業の内容を整理します。			
第14回	「認知バイアス」と「ナッジ」 人間の認知の歪み(バイアス)がもたらす問題、および、それを是正する政策「ナッジ」について学びます。			
第15回	全体のまとめ 今学期学んだことをまとめます。			
評価方法	評価割合		評価基準など	
学修ポートフォリオ評価	60%			
期末レポート	40%		授業でルーブリックを配布する	
書名	著者	出版社	ISBN	備考
私たちと公共経済	寺井公子, 肥前洋一	有斐閣	978-4641150201	
参考資料・URL	なし			

授業科目名	国際貿易
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	単独
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「社会学、経済学」
担当教員名	劉 曙麗
単位数	2単位
到達目標	1. 経済学に関する知識を習得し、経済学に関して体系的に把握する。また、これらを用いて多面的に経済社会を捉えることができるようになる。(経営学科DP①把握する力に関連) 2. 現代の社会における諸課題を発見し、経済学の視点から課題解決に向けた論理的・批判的・創造的判断ができるようになる。(経営学科DP②考え抜く力に関連) 3. 地域社会の特徴や地域社会が抱える課題に関心をもち、積極的に自己・組織・地域社会を改善する意欲をもつことができる。(経営学科DP③挑戦する力に関連)
授業概要	授業形態:基本的には、対面授業を行う。 コロナの状況により、オンラインに切り替える場合がある。その時、Zoomでの双方向型講義。 使用ツール: Zoom、UNIPA 近年、世界的にグローバル化が急速に進展する中で、一部に内向きの志向もみられる。米中間の通商問題は、米国と中国での生産者と消費者にそれぞれにどのような影響を与えるのか？さらに、日本経済にどのような大きな影響を与えているのか？また、中国に進出している日系企業にどのような影響をもたらすのか？を、うまく説明できる人は少ないのではないだろうか。また自由貿易の促進に関する国際的な取組が進んでゆくに従い、近年、なぜ反グローバルリズムと保護主義が台頭してきているのか？ この授業では、このような国際経済活動に関する現象をより正確に理解、分析するため、国際経済学の基礎的な理論と応用について講義する。リカードやヘクシャー＝オリンなどの伝統的理論から、産業内貿易、関税の政治経済学、地域貿易協定などの新しいトピックスまでを丁寧に解説し、理論が現実の貿易取引をうまく説明できるか一緒に検証しよう。 (注意)①毎回受講後、UNIPAにアップした小テスト(正誤問題、記述問題など)を各自行い提出しなければなりません。 ②本講義は、前期は中国語で、後期は中国語での開講です。

授業計画				
回数	内容			
第1回	オリエンテーション国際経済学とは？ 本授業の成績評価基準を、左記(配布資料)に掲載しているため、授業計画に際し必ず確認すること。			
第2回	比較優位① 比較優位と分業の利益：交換の利益と特化の利益授業内小テスト			
第3回	比較優位② 比較優位と国際貿易：リカードモデル授業内小テスト			
第4回	部分均衡分析① 貿易の利益：消費者余剰と生産者余剰授業内小テスト			
第5回	部分均衡分析② 比較優位の決定要因：生産要素と生産技術授業内小テスト			
第6回	産業内貿易と規模の経済 ①産業間貿易と産業内貿易 授業内小テスト			
第7回	産業内貿易と規模の経済② 規模の経済、製品差別化とフラグメンテーション授業内小テスト			
第8回	貿易政策の基礎① 関税・輸入割当はどのような効果があるのか？授業内小テスト			
第9回	貿易政策の基礎② 保護貿易政策の主張とその効果は？授業内小テスト			
第10回	貿易政策の応用① 戦略的な貿易政策とは？その活用と限界は？授業内小テスト			
第11回	貿易政策の応用② 動学的規模の経済と幼稚産業保護論の評価授業内小テスト			
第12回	貿易政策の応用③ 増加するアンチダンピングの発動と日本のセーフカードの背景と狙いは？授業内小テスト			
第13回	貿易政策の応用④ アンチダンピングとセーフカードの経済効果は？授業内小テスト			
第14回	貿易政策の応用⑤ 日米貿易摩擦と米中貿易摩擦及び米国の貿易政策は？			
第15回	全体のまとめ ミニツツ・ペーパー			
学生に対する評価				
評価方法		評価割合		評価基準など
定期試験(レポート)				50% 講義中説明
複数回の小レポート				50% 講義中説明
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『国際経済学をつかむ』第2版	石川城太・椋寛・菊地徹	有斐閣		
参考資料・URL	参考資料： 「はじめて学ぶ国際経済学」 浦田秀次郎・小川英治・澤田康幸(著) 有斐閣 「国際経済学入門」 木村福成(著) 日本評論社 「国際経済学理論と政策」〔原書第10版〕上：貿易編 Paul R. Krugman(著), Maurice Obstfeld(著), Marc J. Melitz(著), 山形浩生(翻訳) 丸善出版			

授業科目名	国際金融
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	単独
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「社会学、経済学」
担当教員名	深澤 竜人
単位数	2単位
到達目標	この科目は以前は「国際経済 II」であり、それを継承して、広くは第二次世界大戦までの国際経済を扱い、貿易面や金融面についても触れていく。 単に貿易構造や輸出入品目だけの理解ではなく、日本経済は歴史的にどのように国際経済・世界経済と関係してきたのか、どのように世界経済の中で誕生し構成され、国際的影響をどのように受けてきたのか。これらの推移を見定め、どのような方向に日本経済は進もうとしているのか、通史的な理解を中心に、広く国際経済・世界経済・国際貿易・国際金融のあり方を理解していくことを目標とする。 ディプロマポリシーとの関連では、この講義では【把握するか・考え抜く力・挑戦する力】を育成します。
授業概要	現実の今ここで生きている、この日本経済を中心にして、国際経済あるいは世界経済を見ていきます。それも単に貿易構造がこうで、輸出入品目がどうでという説明ではなく、歴史的にどのように日本経済は国際経済・世界経済と関係してきたのか、日本経済はどのように世界経済の中で誕生し構成され、国際的影響をどのように受けてきたのか。ある国の経済的事象がどのように国際経済・世界経済へ影響し展開していくのか。これらの推移を見定め、さらに長い歴史と国際化の中で、なぜ今このような深刻な不況の中にあるのか、そして今この国際経済・世界経済の中でどのような方向へと日本経済は進もうとしているのか、これらを説き明かしていくことを中心とします。その中で必要に応じ、関連した国際経済の専門的な理論やターム、また貿易構造、それらとの国際金融の関係を説明していきます。 このように国際経済・世界経済の一見歴史物語的・通史的な講義を考えているので、歴史等々（特に世界史、経済史、政策史、現代史）に興味のある者なら、国際経済に疎くとも理解できるよう心がけています。 「国際貿易」は第二次世界大戦までが対象となり、「国際金融」は第二次世界大戦後から現代までを取り扱います。

授業計画		
回数	内容	
第1回	ガイダンス 受講に当たっての注意事項 試験・レポート・出欠等々の説明 後期の全体的な内容 質問に答える (成績評価基準(ルーブリック)を資料に掲載してあるので参照して下さい。)	
第2回	第二次世界大戦後の国際経済 戦後世界経済の変化と再編 社会主義圏の拡大と植民地の縮小 資本主義国内での民主化	
第3回	社会主義の理論① マルクス主義の論理唯物史観唯物弁証法経済社会構成体論	
第4回	社会主義の理論② マルクス経済学の論理	
第5回	社会主義経済の建設 ソビエトを例に 形成と発展 計画経済の下での急成長	
第6回	戦後の東西冷戦構造戦後日本の大変革戦後改革 高度成長の準備	
第7回	日本を例に 高度経済成長 このメカニズム 推移と国内的要因	
第8回	高度成長の国際的要因 IMF・GATT体制 戦後資本主義国の国際的な枠組み・構造 安定的な為替(金融)相場制度	
第9回	日本の追い上げ 上記の構造の解体 アメリカの国際競争力の低下と貿易赤字・財政赤字 安定的な為替(金融)相場制度の終焉 ニクソン・ショックとオイル・ショック	
第10回	1970年代のアメリカの苦悩 日米関係の変化 日米貿易摩擦 1980年代のレーガノミクスの発動と政策転換 アメリカの対日要求と内需拡大要請	
第11回	日本の内需拡大策とバブル経済の発生	
第12回	日本のバブル経済の崩壊と平成大不況 デフレスパイラル	
第13回	社会主義のその後① ソビエトの解体 指令型経済の終焉	
第14回	社会主義のその後② 中国の急成長 社会主義市場経済の展開	
第15回	資本主義のその後 グローバル化する現在の国際経済 その渦中に置かれた日本経済の有様と今後 新自由主義の興隆と終焉 1990年代のアメリカの発展とその後 サブラインショックとリーマンショック 世界的な不況自国優先主義の考え イギリスのEU離脱	
学生に対する評価		
評価方法	評価割合	評価基準など
学期末の試験	50%	
レポート	30%	
出席	20%	
参考資料・URL	講義に近い参考書・資料集として、①深澤竜人『マルクス経済学簡易入門』丸善雄松堂、2020年(電子書籍)。②宮崎犀一他『近代国際経済要覧』東京大学出版会、1981年。 ③大内力『世界経済論』東京大学出版会、1991年。④長岡新吉他『世界経済史入門』ミネルヴァ書房、1992年。⑤伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』日本経済新聞社、1996年。⑥井村喜代子『現代日本経済論』有斐閣、2000年。⑦宮崎勇他『世界経済読本』東洋経済新報社、2002年。⑧小泉祐一郎『世界経済のニュースが面白いほどわかる本』中経出版、2002年。	

授業科目名	哲学 I
教員の免許状取得のための科目	必修科目
担当形態	単独
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「哲学、倫理学、宗教学」
担当教員	田中凌
単位数	2単位
到達目標	・哲学という学問の概略と意義を説明できる。（大学全体 DPI ①に関連） ・哲学の基本問題を把握した上で、標準的な議論を説明できる。（大学全体 DPI ①に関連） ・論理的・批判的思考法を身に付けることで、自己反省・他者との対話などの実践的場面に、より堅実かつ柔軟な態度で臨めるようになる。（大学全体 DPI ②に関連）
授業概要	哲学と言うと、どこか深遠な響きを感じ、縁遠く思われるかもしれない。とりえず私の人生には関係なさそうだと。では、その人生について少し反省してみよう。どうせ生きるのであれば、自分なりに納得のいく人生を生きたいものだろう。だから色々考える必要がある。どういう将来が望ましいか。自分と世界の現状はどうなっているか。どういう目標を立てるべきか。どういう予測の下に、いかなる手段を採用すべきか。他の人々どう折り合いを付けるか。人生は判断と選択に満ちている。常に正しい判断を下し、よりよい選択肢を選びたいものだ。できることなら、そうした判断・選択の確かな基準を知りたいだろう。しかし、本当にそんなものを知ることができるのだろうか。私たちは何を知ることができるのか。そもそも何かを知るとは一体どういうことなのか。これは既に立派な哲学の問いである。 本講義では、このように私たちの身近に潜んでいて、人生の問題と深く関わっている哲学的問題のうち、とくに理論的な問題（知識、存在、自由、心など）について扱う。どれも簡単に答えの示せるものではないが、少なくとも標準的な考え方というものはある。そうした従来の学説・論争を紹介・吟味することを通じて、哲学という学問のあり方や、特有の思考法を示していく。この授業は、「哲学」の一般的包括的な内容を含むものである。

授業計画				
回数	内容			
第1回	ガイダンス：履修方法と講義概要			
第2回	認識論（１）：「知っている」とはどういうことか			
第3回	認識論（２）：何かを信じるに足る根拠などあるのか			
第4回	認識論（３）：何かが真実であるとはどういうことか			
第5回	存在論（１）：知覚されることと存在すること			
第6回	存在論（２）：何かが「存在する」とはどういうことか			
第7回	人の同一性（１）：同一性の種類			
第8回	人の同一性（２）：誰かが誰かと同一人物であるとはどういうことか			
第9回	愛（１）：人を愛するとはどういうことか			
第10回	愛（２）：個体への愛の謎			
第11回	自由論（１）：自由な行為とはどういうものか			
第12回	自由論（２）：人に自由などあるのか			
第13回	心の哲学（１）：心とは何か			
第14回	心の哲学（２）：唯物論の問題点			
第15回	全体のまとめと理解度の確認（実力テスト）			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合		評価基準など	
確認テスト			70%	毎回授業にて小テストを実施
実力テスト			30%	最終授業日に総復習のテストを実施
書名	著者	出版社	ISBN	備考
哲学ってどんなこと？	トマス・ネーゲル	昭和堂		
哲学のすすめ	岩崎武雄	講談社		
哲学入門	バートランド・ラッセル	筑摩書房		
参考資料・URL	なし			

授業科目名	哲学Ⅱ
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	単独
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「哲学、倫理学、宗教学」
担当教員名	田中凌
単位数	2単位
到達目標	・哲学という学問の概略と意義を説明できる。（大学全体DPI①に関連） ・哲学の基本問題を把握した上で、標準的な議論を説明できる。（大学全体DPI①に関連） ・論理的・批判的思考法を身に付けることで、自己反省・他者との対話などの実践的場面に、より堅実かつ柔軟な態度で臨めるようになる。（大学全体DPI②に関連）
授業概要	哲学と言うと、どこか深遠な響きを感じ、縁遠く思われるかもしれない。とりあえず私の人生には関係なさそうだと。では、その人生について少し反省してみよう。どうせ生きるのであれば、自分なりに納得のいく人生を生きたいものだろう。だから色々考える必要がある。どういつ将来が望ましいか。自分と世界の現状はどうなっているか。どういつ目標を立てるべきか。どういつ予測の下に、いかなる手段を採用すべきか。他の人々どう折り合いを付けるか。人生は判断と選択に満ちている。常に正しい判断を下し、よりよい選択肢を選びたいものだ。できることなら、そうした判断・選択の確かな基準を知りたいだろう。しかし、本当にそんなものを知ることができるのだろうか。私たちは何をを知ることができるのか。そもそも何かを知るとは一体どういうことなのか。これは既に立派な哲学の問いである。 本講義では、このように私たちの身近に潜んでいて、人生の問題と深く関わっている哲学的問題のうち、とくに実践的・倫理的な問題（多様な価値の本質や、道徳判断の基準など）について扱う。どれも簡単に答えの示せるものではないが、少なくとも標準的な考え方というものはある。そうした従来の学説・論争を紹介し・吟味することを通じて、哲学という学問のあり方や、特有の思考法を示していく。

授業計画				
回数	内容			
第1回	ガイダンス：履修方法と講義概要			
第2回	価値の分析（1）：「役に立つ」とはどういうことか			
第3回	価値の分析（2）：「面白い」とはどういうことか			
第4回	価値の分析（3）：「正しい」と「合法的」の比較			
第5回	価値の分析（4）：「よい」と「好き」の比較（1）対立と否定			
第6回	価値の分析（5）：「よい」と「好き」の比較（2）同意と理由			
第7回	補論：言葉の意味と指示対象			
第8回	価値の相対性と絶対性（1）：価値観は人それぞれ（1）3つのレベル			
第9回	価値の相対性と絶対性（2）：価値観は人それぞれ（2）限界と実態			
第10回	価値の相対性と絶対性（3）：価値観は人それぞれ（3）不寛容さの背景			
第11回	自分の価値観と人生			
第12回	価値とは何か			
第13回	道徳の基準（1）：道徳判断と理由			
第14回	道徳の基準（2）：主な道徳理論			
第15回	全体のまとめと理解度の確認			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合		評価基準など	
確認テスト	70%		毎回授業にて小テストを実施	
実力テスト	30%		最終授業日に総復習のテストを実施	
書名	著者	出版社	ISBN	備考
哲学ってどんなこと？	トマス・ネーゲル	昭和堂		
哲学のすすめ	岩崎武雄	講談社		
ブレッツ倫理学	柘植尚則	弘文堂		
入門・倫理学	赤林朗・児玉聡編	勁草書房		
参考資料・URL	なし			

授業科目名	倫理学 I			
教員の免許状取得のための科目	必修科目			
担当形態	単独			
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「哲学、倫理学、宗教学」			
担当教員名	桑名法晃			
単位数	2単位			
到達目標	日本の倫理思想史を講義する。日本の倫理思想史についての基礎知識を身につけ(全学DP①把握する力との関連)、現代日本人の行動の基礎にある価値観を理解することを目指す(全学DP④協調する力との関連)。また、日本倫理思想史を学ぶことを通して、現代における自分自身の生き方・あり方を考えるヒントとしていく(全学DP②考え抜く力との関連)。講義内容をノートにまとめさせることで、学生に論理的思考能力や文章能力を身につけさせる(全学DP①把握する力との関連)。			
授業概要	倫理学とは何かについて概観する。まず、本講義における視点を明確にした上で、日本の倫理思想史をたどり、日本人の倫理意識の形成を学んでいく。前期の倫理学Iでは、古代における神をめぐる思想から、仏法をめぐる思想と、中世における思想までを中心として時代を追って概説していく。この授業は、「倫理学」の一般的包括的な内容を含むものである。			
授業計画				
回数	内容			
第1回	講義ガイダンス			
第2回	倫理学とは何か(1) 倫理学と日本倫理思想史			
第3回	倫理学とは何か(2) なぜ日本倫理思想史を学ぶのか、倫理の重層性			
第4回	神をめぐる思想(1) 風土と神			
第5回	神をめぐる思想(2) 日本の神の特徴			
第6回	神をめぐる思想(3) 神と景観、祭祀			
第7回	神をめぐる思想(4) 日本神話の発生と展開			
第8回	神をめぐる思想(5) 古事記神話① 上巻神話の概要			
第9回	神をめぐる思想(6) 古事記神話② 上巻神話の世界観			
第10回	仏法をめぐる思想(1) インド・中国仏教			
第11回	仏法をめぐる思想(2) 日本における仏教の受容、聖徳太子			
第12回	仏法をめぐる思想(3) 国家仏教、本地垂迹説			
第13回	仏法をめぐる思想(4) 修験道			
第14回	仏法をめぐる思想(5) 鎌倉仏教			
第15回	全体のまとめ			
評価方法	評価割合		評価基準など	
毎回の課題			30%	リアクションペーパーに基づく記述
レポート課題			70%	9.78413E+12
書名	著者	出版社	ISBN	備考
日本倫理思想史	佐藤正英	東京大学出版会		
参考資料・URL	なし			

授業科目名	倫理学Ⅱ			
教員の免許状取得のための科目	選択科目			
担当形態	単独			
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「哲学、倫理学、宗教学」			
担当教員名	桑名法晃			
単位数	2単位			
到達目標	日本の倫理思想史を講義する。日本の倫理思想史についての基礎知識を身につけ(全学DP①把握する力との関連)、現代日本人の行動の基礎にある価値観を理解することを目指す(全学DP④協調する力との関連)。また、日本倫理思想史を学ぶことを通して、現代における自分自身の生き方・あり方を考えるヒントとしていく(全学DP②考え抜く力との関連)。講義内容をノートにまとめさせることで、学生に論理的思考能力や文章能力を身につけさせる(全学DP①把握する力との関連)。			
授業概要	倫理学とは何かについて概観する。まず、本講義における視点を明確にした上で、日本の倫理思想史をたどり、日本人の倫理意識の形成を学んでいく。前期の倫理学Ⅰでは、古代における神をめぐる思想から、仏法をめぐる思想と、中世における思想までを中心としたが、後期倫理学Ⅱでは、天をめぐる思想から、文明をめぐる思想と、近世・近代を中心として時代を追って概説していく。特に「異文化受容」をキーワードとして、よりよい生き方・あり方について考えていく。			
授業計画				
回数	内容			
第1回	講義ガイダンス			
第2回	倫理学とは何か 倫理学と日本倫理思想史、なぜ日本倫理思想史を学ぶのか			
第3回	天をめぐる思想 (1) 武士の思想(中世武士道)①			
第4回	天をめぐる思想 (2) 武士の思想(中世武士道)②			
第5回	天をめぐる思想 (3) 儒学の思想① 中国の儒学 孔子、孟子、荀子、朱子			
第6回	天をめぐる思想 (4) 儒学の思想② 日本の儒学史概説			
第7回	天をめぐる思想 (5) 儒学の思想③ 林羅山 朱子学の移入			
第8回	天をめぐる思想 (6) 儒学の思想④ 将軍・大名による儒学の受容			
第9回	天をめぐる思想 (7) 儒学の思想⑤ 山鹿素行「士道」			
第10回	天をめぐる思想 (8) 儒学の思想⑥ 『葉隠』			
第11回	文明をめぐる思想 (1) 文明開化			
第12回	文明をめぐる思想 (2) 福沢諭吉			
第13回	文明をめぐる思想 (3) 国家神道			
第14回	文明をめぐる思想 (4) 内村鑑三、新渡戸稲造『武士道』			
第15回	全体のまとめ			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合	評価基準など		
レポート課題	70%			
毎回の課題	30%	リアクションペーパーの記述による		
書名	著者	出版社	ISBN	備考
日本倫理思想史 増補改訂版	佐藤正英	東京大学出版会	9784130120609	
参考資料・URL	なし			

授業科目名	宗教と人間 I
教員の免許状取得のための科目	必修科目
担当形態	単独
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「哲学、倫理学、宗教学」
担当教員名	桑名法晃
単位数	2単位
到達目標	世界中に存在するさまざまな宗教のうち、オリエント起源の宗教の教義と歴史とを知ること、それらの宗教文化を理解することを目的とする。それにより、宗教だけでなく歴史文化などの知識も獲得できる。また、社会の中に見られるさまざまな宗教現象を理解することで、異文化理解と宗教問題に対する対応力が身につく。
授業概要	世界中のさまざまな宗教がどのように成立していったのかについて、用意した資料に基づいて講義を行う。各回の講義において、それぞれの宗教の教祖・聖典・教義・歴史などについて説明していく。 この授業は、「宗教学」の一般的包括的な内容を含むものである。

授業計画				
回数	内容			
第1回	講義ガイダンス講義 宗教の意味について調べておくこと。			
第2回	宗教の起源と分類講義 なぜ宗教が誕生したのかについて調べておくこと。			
第3回	宗教の類型講義 仏教・キリスト教・イスラームの違いについて調べておくこと。			
第4回	宗教の儀礼と巡礼講義 聖地巡礼について調べておくこと。			
第5回	教団の成立講義 教祖と信者の役割について調べておくこと。			
第6回	信仰体系講義 自然崇拝と先祖崇拝について調べておくこと。			
第7回	シャーマニズムについて講義 シャーマニズムについて調べておくこと。			
第8回	古代オリエントの宗教講義 古代エジプト・メソポタミアの歴史について調べておくこと。			
第9回	ユダヤ教講義 ユダヤ教の教義・歴史について調べておくこと。			
第10回	キリスト教の成立講義 イエスの生涯について調べておくこと。			
第11回	キリスト教の展開講義 東方教会とプロテスタントについて調べておくこと。			
第12回	イスラームの成立講義 ムハンマドについて調べておくこと。			
第13回	イスラームの展開講義 スンナ派とシーア派について調べておくこと。			
第14回	ペルシャの宗教講義 ゾロアスター教とマニ教について調べておくこと。			
第15回	ラテンアメリカとアフリカの宗教講義 ラテンアメリカとアフリカの歴史について 調べておくこと。			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合		評価基準など	
定期試験	50%			
レポート課題	50%			
書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる宗教学	櫻井義秀・平藤喜久子	ミネルヴァ書房	978-4-623-07275-0	
参考資料・URL	なし			

授業科目名	宗教と人間Ⅱ
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	単独
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「哲学、倫理学、宗教学」
担当教員名	桑名法晃
単位数	2単位
到達目標	世界中に存在するさまざまな宗教のうち、アジアの宗教の教義と歴史とを知ること、それらの宗教文化を理解することを目的とする。それにより、宗教だけでなく歴史文化などの知識も獲得できる。また、社会の中に見られるさまざまな宗教現象を理解することで、異文化理解と宗教問題に対する対応力が身につく。
授業概要	世界中のさまざまな宗教がどのように成立していったのかについて、用意した資料に基づいて講義を行う。各回の講義において、それぞれの宗教の教祖・聖典・教義・歴史などのついて説明していく。

授業計画				
回数	内容			
第1回	講義ガイダンス講義 世界にはどんな宗教があるのか調べておくこと。			
第2回	バラモン教講義 インドの歴史について概観しておくこと。			
第3回	ヒンドゥー教講義 インドの文化について調べておくこと。			
第4回	シク教講義 シク教について概観しておくこと。			
第5回	ジャイナ教講義 ジャイナ教について概観しておくこと。			
第6回	インドの仏教講義 仏教の歴史について調べておくこと。			
第7回	東南アジア仏教講義 上座部仏教について調べておくこと。			
第8回	チベット仏教講義 チベットについて調べておくこと。			
第9回	儒教講義 孔子・孟子について調べておくこと。			
第10回	道教講義 老子・荘子について調べておくこと。			
第11回	中国仏教講義 中国仏教について概観しておくこと。			
第12回	日本仏教講義 日本仏教の各宗派について概観しておくこと。			
第13回	神道講義 神道について概観しておくこと。			
第14回	日本の新宗教講義 日本の新宗教について概観しておくこと。			
第15回	民俗信仰講義 日本の民俗信仰について概観しておくこと。			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合		評価基準など	
定期試験	50%			
レポート課題	50%			
書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる宗教学	櫻井義秀・平藤喜久子	ミネルヴァ書房	978-4-623-07275-0	
参考資料・URL	なし			

授業科目名	社会科教育法
教員の免許状取得のための科目	必修科目
担当形態	単独
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）
担当教員名	後藤賢次郎
単位数	4単位
到達目標	・中学校の学習指導要領に示された社会科の目標と内容、その意義と課題を理解する（法学科DP①把握する力と関連）。 ・社会科における基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける（法学科DP②考え抜く力と関連）。
授業概要	中学校社会科教育の目標・内容・方法に関する科目。中学校の社会科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された社会科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業場面を想定して授業を設計したり、さらに授業を分析評価し改善したりする方法を身に付ける。

授業計画				
回数	内容			
第1回	イントロダクションー「これまで」受けてきた社会科教育を振り返ろうー			
第2回	社会科の歴史ー成立と展開ー			
第3回	社会科授業分析論①ー社会科授業の「良さ」とはー			
第4回	社会科授業分析論②ーケーススタディ「讃岐糖業の父 周慶」の良さとはー			
第5回	社会科授業分析論③ーケーススタディ「熱帯」の良さとはー			
第6回	社会科授業分析論④ーケーススタディ「商店 空き店舗問題」の良さとはー			
第7回	社会科授業分析論⑤ーケーススタディ「私のライフスタイル」の良さとはー			
第8回	社会科授業デザイン論①ー中学校社会科の目標と小学校社会科の基本構成ー			
第9回	社会科授業デザイン論②ー中学校社会科の教科構成：地理・歴史・公民的分野の内容構成ー			
第10回	社会科授業デザイン論③ー目標：市民を育てるとはー			
第11回	社会科授業デザイン論④ー内容：社会の何が、どうなっていることを教えるか、教材のタイプー			
第12回	社会科授業デザイン論⑤ー内容：教材研究の実際ー			
第13回	社会科授業デザイン論⑥ー方法：子どもは社会とどう関わっているか、社会と関わることをどうやって教えるか、ICT活用			
第14回	社会科授業デザイン論⑦ー社会科における評価ー			
第15回	社会科授業の学習指導ー模擬授業体験：授業を実際にするには何が必要かー			
第16回	社会科の授業構成ー学習指導案作成の原理と方法ー			
第17回	社会科授業改善の原理と方法			
第18回	社会科授業の設計と分析・改善ー「世界の様々な地域」の授業計画ー			
第19回	社会科授業の設計と分析・改善ー「日本の地域的特色と地域区分」の授業計画ー			
第20回	社会科授業の設計と分析・改善ー「日本の諸地域」の授業計画ー			
第21回	社会科授業の設計と分析・改善ー「地域の在り方」の授業計画ー			
第22回	社会科授業の設計と分析・改善ー「私たちと歴史」の授業計画ー			
第23回	社会科授業の設計と分析・改善ー「近世までの日本とアジア」の授業計画ー			
第24回	社会科授業の設計と分析・改善ー「近代の日本と世界」の授業計画ー			
第25回	社会科授業の設計と分析・改善ー「現代の日本と世界」の授業計画ー			
第26回	社会科授業の設計と実践ー「身近な地域の歴史」の模擬授業ー			
第27回	社会科授業の設計と実践ー「私たちと現代社会」の模擬授業ー			
第28回	社会科授業の設計と実践ー「私たちと経済」の模擬授業ー			
第29回	社会科授業の設計と実践ー「私たちと政治」の模擬授業ー			
第30回	社会科授業の設計と実践ー私たちと国際社会の諸課題」の模擬授業ー			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合		評価基準など	
前期末のレポート	40%			
後期末のレポート	40%			
授業時の発表・表現等	20%			
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『中学校学習指導要領解説社会編』	文部科学省	東洋館出版社		189円＋税
参考資料・URL	授業中に適宜、資料を配付します。			

授業科目名	社会科・公民科教育法
教員の免許状取得のための科目	必修科目
担当形態	単独
科目名	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）
担当教員名	後藤賢次郎
単位数	4単位
到達目標	・中学校社会科と高等学校公民科の学習指導要領に示された中等公民教育の目標と内容、その意義と課題を理解する（法学科DP①把握する力と関連）。 ・中等公民教育における基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける（法学科DP②考え抜く力と関連）。
授業概要	中等公民教育の目標・内容・方法に関する科目。中学校の社会科公民的分野および高等学校の公民科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中等公民教育の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業場面を想定して授業を設計したり、さらに授業を分析評価し改善したりする方法を身に付ける。

授業計画				
回数	内容			
第1回	イントロダクションー「これまで」受けてきた中等公民教育の振り返りー			
第2回	「市民」を育てるとは：中等公民教育の目標と体系①ー 社会化と 対抗社会化ー			
第3回	「市民」を育てるとは：中等公民教育の目標と体系②ー 社会形成と 正統的周辺参加ー			
第4回	中 学校公民分野の位置づけー総 合領域・活用領域としての公民、 特色の地理歴史と意義の公民ー			
第5回	高校公民科の位置づけ① 政治・経済、倫理の目標と内容構成			
第6回	高校公民科の位置づけ② 公共の目標と内容構成 ー大項目A、Bを中心にー			
第7回	高校公民科の位置づけ③ 公共の目標と内容構成 ー大項目Cを中心にー			
第8回	公民授業の構成① ー目標、教育内容と教材ー			
第9回	公民授業の構成②ー授業過程ー			
第10回	公民授業の構成③ ー学習活動、ICTの活用ー			
第11回	社会に開かれた教育課程 ①ー現実社会とつながる学習の計画を立てようー			
第12回	社会に開かれた教育課程 ②ー現実社会とつながる学習を実践してみようー			
第13回	社会に開かれた教育課程 ③ー現実社会とつながる学習を振り返り改善案を考えようー			
第14回	中等社会科、高校公民科の学習指導と ICT活用			
第15回	中等公民教育における評価			
第16回	授業の設計と分析・改善ー学習指導案作成の目的と方法ー			
第17回	授業の設計と分析・改善ー「公共的な空間を作る私たち」の学習指導ー			
第18回	授業の設計と分析・改善ー「公共的な空間における人間としての在り方生き方」の学習指導ー			
第19回	授業の設計と分析・改善ー「公共的な空間における基本的原理」の学習指導ー			
第20回	授業の設計と分析・改善ー「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」の学習指導ー			
第21回	授業の設計と分析・改善ー「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」の学習指導ー			
第22回	授業の設計と分析・改善ー「人間としての在り方生き方の自覚」の学習指導ー			
第23回	授業の設計と分析・改善ー「国際社会に生きる日本人としての自覚」の学習指導ー			
第24回	授業の設計と分析・改善ー「自然や科学技術に関わる諸課題と倫理」の学習指導ー			
第25回	授業の設計と分析・改善ー「社会と文化に関わる諸課題と倫理」の学習指導ー			
第26回	授業の設計と分析・改善ー「現代日本の政治・経済」の学習指導ー			
第27回	授業の設計と分析・改善ー「現代日本における政治・経済の諸課題の探究」の学習指導ー			
第28回	授業の設計と分析・改善ー「現代の国際政治・経済」の学習指導ー			
第29回	授業の設計と分析・改善ー「グローバル化する国際社会の諸課題の探究」の学習指導ー			
第30回	「これから」の中等公民教育の社会的役割と今日的課題			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合		評価基準など	
前期末のレポート	40%			
後期末のレポート	40%			
授業時の発表・表現等	20%			
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『高等学校学習指導要領解説公民編』	文部科学省	東京書籍		1000 円＋税
参考資料・URL	授業中に適宜、資料を配付します。			

授業科目名	介護等体験実習（事前事後指導を含む）
教員の免許状取得のための科目	必修科目
担当形態	単独
科目名	大学が独自に設定する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目
担当教員名	富永大悟
単位数	2単位
到達目標	①介護等体験の目的と意義が理解でき、障がい児・者や高齢者に対する理解を深めることができる。（大学全体DP① 把握する力） ② 実習にあたっての心構え、社会的常識など留意すべき点について認識を深める。（大学全体DP① 把握する力、大学全体DP⑤ 行動する力） ③ 社会福祉施設や特別支援学校の認識を深めることができる。（大学全体 DP①把握する力） ④ 教員を目指す学生として、個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深め、協調することができる。（大学全体DP⑤協調する力）
授業概要	共生社会の実現のためには、教育に携わる者として障害者や高齢者の個人の尊厳、社会連帯の理念を理解することが重要です。教職を目指す学生として、介護・介助等の体験を通して得られた経験を教育場面で生かすことが期待されます。本授業では、社会福祉施設や特別支援学校で安全で効果的な介護等体験の実習を行うにあたり、この目的や意義、実習の留意点を学び、社会福祉施設や特別支援学校における介護について事前に理解を深めていきます。また、実習では社会福祉や特別支援教育に関する知識、障がい者や高齢者に対する理解を深めるとともに、介護について学びます。実習後には、自分の体験をふり振り返り、実習に対する自己評価を行います。 この授業は、PowerPointなどを用いて視覚的にわかりやすく説明する。また、LMSを利用した事前・事後学修、および、講義内ではクリックカーによる双方向型授業を行う。

授業計画				
回数	内容			
第1回	介護等体験実習とは 介護等体験に臨む準備 事前指導および各種手続きについて 本授業の成績評価基準を、左記【配付資料】に掲載しているため、授業計画に際し必ず確認すること。 LMSを利用して事前・事後学修を行います。			
第2回	介護等体験の目的と意義・ルールとマナー LMSを利用して事前・事後学修を行います。			
第3回	社会福祉と特別支援教育 LMSを利用して事前・事後学修を行います。			
第4回	社会福祉施設での介護 LMSを利用して事前・事後学修を行います。			
第5回	特別支援学校での介護 LMSを利用して事前・事後学修を行います。			
第6回	現職（特別支援学校）教員・職員からの提言 LMSを利用して事前・事後学修を行います。			
第7回	介護等体験の実践例（社会福祉施設職員） LMSを利用して事前・事後学修を行います。			
第8回	介護等体験に際しての留意事項、自己課題の設定 LMSを利用して事前・事後学修を行います。			
第9回	社会福祉施設での介護等体験実習①			
第10回	社会福祉施設での介護等体験実習②			
第11回	社会福祉施設での介護等体験実習③			
第12回	社会福祉施設での介護等体験実習④			
第13回	社会福祉施設での介護等体験実習⑤			
第14回	特別支援学校での介護等体験実習①			
第15回	特別支援学校での介護等体験実習②			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合		評価基準など	
事前指導への取り組み（授業内で指示したレポートや課題提出）	20%			
実習における評価	50%		実習録を評価します	
成果報告（レポートやプレゼンテーション）	30%		指定した課題内容を評価します	
書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護等体験実習録（本学作成）	YGU教職委員会			講義内で配布します
教師をめざす人の介護等体験ハンドブック五訂版	現代教師養成研究会	大修館書店	978-4469268768	
全国特別支援学校長会、全国特別支援教育推進連盟	全国特別支援学校長会、全国特別支援教育推進連盟	ジアース教育新社	978-4863715226	
福祉の職場のマナーガイドブック	立石貴子	全国社会福祉協議会	978-4793513152	
参考資料・ URL				

授業科目名	日本国憲法
教員の免許状取得のための科目	必修科目
担当形態	単独
科目名	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	日本国憲法
担当教員名	原禎嗣
単位数	2単位
到達目標	1 日本国憲法の基本原理と概要を理解し、適切に説明できる。 2 憲法学の基本的な論点とそれに連なる社会問題について自ら考え、説明できる。
授業概要	対面授業を原則としますが、Zoomによる同時双方向授業を併用するハイフレックス形式を用意します。 この科目は、教職課程履修者の必修科目です。そのため、教員採用試験を念頭に置いた講義となりますので、教職課程を履修しない諸君には受講をお薦めしません。教養として、あるいは専門科目として憲法学を学びたい者は、各学部が開講される「憲法」等を履修しなさい。 教科書記載順に従い、日本国憲法の概要と主要な論点を可能な限り平易に、ゆっくりと説明します。なお、教科書の指定範囲を予習、当該範囲の小テスト、講義というプロセスで進む「反転授業」を行い、確実な学修成果到達を目指します。また講義後にUNIPAを用いて出席を兼ねるアンケートを行い、質問があれば翌週に回答します。

授業計画				
回数	内容			
第1回	オリエンテーション 教科書、講義の進め方、予復習等について			
第2回	「憲法の基礎」「選挙と参政権」			
第3回	「国会」			
第4回	「行政と議院内閣制」			
第5回	「司法と裁判」			
第6回	「天皇制」			
第7回	「平和主義」			
第8回	「人権の理念と歴史」			
第9回	「信教の自由と政教分離」			
第10回	「表現の自由」			
第11回	「経済的自由」			
第12回	「人身の自由」			
第13回	「社会権」			
第14回	「幸福追求権と平等」			
第15回	授業のまとめ			
評価方法		評価割合		評価基準など
小テスト		100%		小テストの合計点
書名	著者	出版社	ISBN	備考
憲法【第7版】	芦部信義(高橋和之補訂)	岩波書店		¥ 3,200 + 税
六法				種類は問わない
参考資料・URL	なし			

授業科目名	スポーツ実践(バスケットボール)
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	クラス分け・単独
科目名	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	体育
担当教員名	大崎悟史・伊藤彰
単位数	1単位
到達目標	近年生活の利便化に伴い、体を動かす機会が年々減少してきていることが、運動不足と健康への影響をもたらしています。また「生活習慣病」は「運動不足病」と言っても過言ではなく、喫煙、高血圧に次ぐ第3位で年間約5万人の死者数にあたるとも言われます。心身の健康を維持し、より健康的な状態を得るため運動やスポーツを中心とした行動を通じてその具体的な方法を習得します。
授業概要	授業形態：対面方式 本授業は、レクレーションとしてのスポーツ活動を通して、健康の維持・増進を図るとともにそのために必要な基礎理論の講義を行う。 実技では、バスケットボールを行う。バスケットボールでは、その基礎からはじめ、動作の習得、ルールの理解を経て、実践へと展開していく。

授業計画		
回数	内容	
第1回	ガイダンス(授業内容の説明と諸注意等)自主練習 ストレッチ ウォーミングアップ等	
第2回	個人技術①ドリブル、パス、シュート自主練習 ストレッチ ウォーミングアップ等	
第3回	個人技術②シュート(ジャンプシュート、ドリブルシュート、レイアップ)自主練習 ストレッチ ウォーミングアップ等前回の復習	
第4回	個人技術③1対1オフェンススキル自主練習 ストレッチ ウォーミングアップ等前回の復習	
第5回	個人技術④1対1ディフェンススキル自主練習 ストレッチ ウォーミングアップ等前回の復習	
第6回	集団技術① 2対2ハーフコート自主練習 ストレッチ ウォーミングアップ等前回の復習	
第7回	集団技術②3対3ハーフコート自主練習 ストレッチ ウォーミングアップ等前回の復習	
第8回	集団技術③ 3対3オールコート自主練習 ストレッチ ウォーミングアップ等前回の復習	
第9回	集団技術④ 4対4ハーフコート自主練習 ストレッチ ウォーミングアップ等前回の復習	
第10回	集団技術⑤ 4対4オールコート自主練習 ストレッチ ウォーミングアップ等前回の復習	
第11回	集団技術⑥ 5対5ハーフコート自主練習 ストレッチ ウォーミングアップ等前回の復習	
第12回	集団技術⑦ 5対5オールコート自主練習 ストレッチ ウォーミングアップ等前回の復習	
第13回	ゲーム① 自主練習 ストレッチ ウォーミングアップ等前回の復習	
第14回	ゲーム②自主練習 ストレッチ ウォーミングアップ等	
第15回	ゲーム③自主練習ストレッチ ウォーミングアップ等	
評価方法	評価割合	評価基準など
健康管理	40%	
態度・実行	40%	
運動技能・知識	20%	
参考資料・URL	テキストはなし。適宜、資料を配布する。	

授業科目名	スポーツ実践（バレーボール）
教育の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	単独
科目名	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	体育
担当教員名	伊藤彰
単位数	1 単位
到達目標	1、健康管理が出来た状態で、授業での実技に積極的に取り組むこと 2、専門種目の特性の知識を理解し、運動技能を習得すること ・バレーボールの特性やルールを理解し、必要な技術を習得する。 ・基本技術や応用技術、審判技術を活かして、楽しくゲームを行うことができる。 ・バレーボールの楽しさを通して、仲間との協調性や人間関係能力を養う。 ・基礎体力の保持増進のため、バレーボールを通して自己の健康管理に生かす。
授業概要	・いつでもどこでも、レクリエーションとして行える手軽なスポーツのため、毎時間を楽しむ行うことにより将来にわたって親しめるきっかけとする。 ・パスやレシーブなど基礎技術を身につけ、お互いのレベルでルールを定めてゲームができ、自由に創造的にゲームに興じることができる競技性を体験する。 ・応用技術や連携プレーを習得して、三段攻撃によるラリーができるようにし、相互に信頼し合いグループの中で一人一人が向上し、集団としての機能を高める喜びを味わう。 ・一人一人が生徒を通じて活力ある生活を営むため、スポーツ活動や体力の向上について正しく理解し、個性や能力に応じて運動に親しみ、健康で安全な生活を営む能力や態度を身につけることができるようにする。

授業計画		
回数	内容	
第1回	オリエンテーション	
第2回	基礎技術(1) パス・レシーブ・ミニゲーム	
第3回	基礎技術(2) パス・サーブ・レシーブ・ミニゲーム	
第4回	基礎技術(3) サーブ・レシーブ・トス・ミニゲーム	
第5回	基礎技術(4) トス・スパイク・ミニゲーム	
第6回	基礎技術(5) スパイク・ブロック・ミニゲーム	
第7回	基礎技術(6) スパイクとレシーブ・ミニゲーム	
第8回	三段攻撃(レシーブ・トス・アタック)・ミニゲーム	
第9回	三段攻撃(サーブ・レシーブ・トス・アタック)・ミニゲームゲーム	
第10回	三段攻撃によるラリー・ミニゲーム・技能の構成	
第11回	三段攻撃によるラリー・ミニゲーム・基礎技術の再確認	
第12回	三段攻撃によるラリー・ミニゲーム・応用技術の再確認	
第13回	ゲーム(1) 戦術の理解	
第14回	ゲーム(2) 戦術の立案	
第15回	ゲーム(3) 戦術の立案と実行	
評価方法	評価割合	評価基準など
取組み状況	60%	
期末レポート	20%	
期末テスト	20%	
参考文献・URL	テキストはなし。適宜、資料を配布する。	

授業科目名	スポーツ実践(バドミントン)
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	クラス分け・単独
科目名	教職職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	体育
担当教員名	伊藤彰、高橋侑希
単位数	1 単位
到達目標	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、外出規制による運動不足と健康への影響が懸念されます。その中での「スポーツと健康」の授業の到達目標について 1、健康管理がきっちり出来た状態で、授業での実技に積極的に取り組むこと 2、専門種目の特性の知識を理解し、運動技能を習得すること
授業概要	本講義は、実技実習(バドミントン)とスポーツ科学理論講義と合わせた内容となります。 また、実技講義が80%、理論講義が20%の配分ですが、実技では、授業前半は基礎運動を中心に体づくり、健康維持増進を目指して、ストレッチング、コーディネーショントレーニングを中心に行います。実技実習バドミントンでは、未経験者を対象に基本動作から導入し、徐々にゲーム形式に進み、クラス全員がバドミントンを楽しめることができ、週に1度だが大いに汗をかき、スポーツの醍醐味を体験してほしいです。 講義では、スポーツ科学の観点からスポーツの目的や効果について理解を含めることを理解してほしい。

授業計画		
回数	内容	
第1回	履修種目登録及びオリエンテーション	
第2回	(実技)基礎体力・基本的運動能力 1、ストレッチング 2、姿勢、バランスの協応運動	
第3回	(実技)基礎体力・基本的運動能力 1、ストレッチング 2、姿勢、バランスの協応運動 3、バドミントンの基本 基本ストロークの練習(ラケットさばき、クリアー、ドライブ)	
第4回	(実技)基礎体力・基本的運動能力 1、ストレッチング 2、姿勢、バランスの協応運動 3、バドミントンの基本 基本ストロークの練習(ラケットさばき、クリアー、ドライブ)	
第5回	(実技)基礎体力・基本的運動能力 バドミントンの導入 1、ストレッチング 2、姿勢、バランスの協応運動 3、バドミントンの基本 基本ストロークの練習(クリアー、ドライブ、ヘヤーピン、スマッシュ)	
第6回	(実技)基礎体力・基本的運動能力 バドミントンの導入 1、ストレッチング 2、姿勢、バランスの協応運動 3、バドミントンの基本 基本ストロークの練習(クリアー、ドライブ、ヘヤーピン、スマッシュ)	
第7回	(実技)基礎体力・基本的運動能力 バドミントンの導入 1、ストレッチング 2、姿勢、バランスの協応運動 3、バドミントンの基本 基本ストロークの練習(クリアー、ドライブ、ヘヤーピン、スマッシュ、ドロップ、サービス)	
第8回	(実技)基礎体力・基本的運動能力 バドミントンゲームへの導 入 1、ストレッチング 2、姿勢、バランスの協応運動 3、バドミントンの基本 基本ストロークの練習(クリアー、ドライブ、ヘヤーピン、スマッシュ、ドロップ、サービス)	
第9回	(実技)基礎体力・基本的運動能力 バドミントンゲームへの導 入 1、ストレッチング 2、バドミントンの基本 基本ストロークの練習(クリアー、ドライブ、ヘヤーピン、スマッシュ、ドロップ、サービス) 3、バドミントンの簡易ゲーム(導入)、ダブルスゲームのフォーメーション	
第10回	(実技)基礎体力・基本的運動能力 バドミントンゲーム形式(ルール) 1、ストレッチング 2、バドミントンの基本 基本ストロークの練習(クリアー、ドライブ、ヘヤーピン、スマッシュ、ドロップ、サービス) 3、バドミントンの簡易ゲーム(導入)、ダブルスゲームのフォーメーション	
第11回	(実技)基礎体力・基本的運動能力 バドミントンゲーム形式(ルール) 1、ストレッチング 2、バドミントンの基本 基本ストロークの練習(クリアー、ドライブ、ヘヤーピン、スマッシュ、ドロップ、サービス) 3、バドミントンの簡易ゲーム(導入)、ダブルスゲームのフォーメーション	
第12回	(実技)基礎体力・基本的運動能力 バドミントン(ダブルスゲーム形式(ルール) 1、ストレッチング 2、バドミントンの基本 基本ストロークの練習(クリアー、ドライブ、ヘヤーピン、スマッシュ、ドロップ、サービス) 3、バドミントンの簡易ゲーム(導入)、ダブルスゲームのフォーメーション	
第13回	(講義) 1、健康とは？ 健康の定義、老化現象、 2、健康維持・増進の 三本柱(食事・休養、睡眠)	
第14回	(講義) 1、スポーツの価値、効果及び問題点 2、競技スポーツと生涯スポーツ	
第15回	(講義) 1、スポーツ科学から見た、スポーツトレーニングの方法 2、エネルギーの供給過程(有酸素、無酸素)	
評価方法	評価割合	評価基準など
取組み状況	60%	
期末レポート	20%	
期末テスト	20%	
参考資料・URL	テキストはなし。適宜、資料を配布する。	

授業科目名	スポーツ実践(柔道)
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	単独
科目名	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	体育
担当教員名	西田泰悟
単位数	1 単位
到達目標	柔道の実技授業において、柔道の技の修練や礼儀作法などを身に付けていく。また、実技授業の中で柔道の歴史や特性を講義し、学んでいく。 1、健康管理がきっちり出来た状態で、授業での実技に積極的に取り組むこと(大学DP ⑤「行動する力(発信・表現)」) 2、柔道の特性の知識を理解し、運動技能を習得すること(大学DP ③「挑戦する力(関心・意欲)」)
授業概要	柔道とは「心身の力を最も有効に使用する道である」と定義されています。 柔道の母体となったのは、柔術・和・体術などといわれた徒手格闘の武術です。それが明治15 年（1882）年に嘉納治五郎によって新たに柔道として創始されたものです。 柔道の授業では基本動作・投技・固技及び連絡技等を学習させ個人の体力、能力に応じた安全で効果的な練習方法によって、柔道技術を理解させるとともに楽しい柔道の授業を目指します。

授業計画		
回数	内容	
第1回	オリエンテーション(授業の説明)服装(自由) 柔道着のレンタルを行う	
第2回	基本動作、礼法、柔道着着用について	
第3回	基本動作、礼法、柔道の歴史について	
第4回	組み方、歩き方	
第5回	歩き方(単独)、崩し(単独)	
第6回	歩き方(対人)、崩し(対人)	
第7回	受身(後受身、横受身、前受身)	
第8回	受身(左右の前回り受身)	
第9回	受身、前回り受身(対人)、足技(支釣込足)	
第10回	足技(大内刈、小内刈)	
第11回	腰技(大腰、払腰)	
第12回	手技(背負投、一本背負投)	
第13回	立技の連絡変化、固技(抑込技)	
第14回	立技の連絡変化、固技(関節技、絞技)	
第15回	実技試験(礼法・受身・固技・投技)まとめ	
評価方法	評価割合	評価基準など
授業への取り組み	60%	
実技試験	40%	
参考資料・URL	テキストはなし。適宜、資料を配布する。	

授業科目名	スポーツ実践(軽スポーツⅠ)
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	クラス分け・単独
科目名	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	体育
担当教員名	西田泰信、小島毅
単位数	1単位
到達目標	近年生活の利便化に伴い、体を動かす機会が年々減少してきていることが、運動不足と健康への影響をもたらしています。また「生活習慣病」は「運動不足病」と言っても過言ではなく、喫煙、高血圧に次ぐ第3位で年間約 5 万人の死亡者数にあたるとも言われます。心身の健康を維持し、より健康的な状態を得るため運動やスポーツを中心とした行動を通じてその具体的な方法を習得します。
授業概要	素形態：対面方式 本授業は、レクレーションとしてのスポーツ活動を通して、健康の維持・増進を図るとともにそのために必要な基礎理論の講義を行う。 実技では、バドミントンを行う。バドミントンでは、その基礎からはじめ、動作の習得、ルールの理解を経て、実践へと展開していく。

授業計画		
回数	内容	
第1回	履修説明種目の選択	
第2回	オリエンテーション 基礎理論講義(スポーツ科学、基礎体力養成の理論およびバドミントンの歴史、用具の説明)	
第3回	フィットネス 実技 ・準備体操、ストレッチ ・コーディネーション・トレーニング ・基本的運動能力の向上	
第4回	フィットネス バドミントンの基礎練習実技 ・準備体操、ストレッチ ・コーディネーション・トレーニング ・バドミントンの基本ストローク入門	
第5回	フィットネス バドミントンの基礎練習実技 ・準備体操、ストレッチ ・バドミントン基本ストローク クリアー、ハイクリアー、ドライブショット、ヘヤピン	
第6回	フィットネス バドミントンの基礎練習実技 ・準備体操、ストレッチ ・バドミントン基本ストローク クリアー、ハイクリアー、ドライブショット、ヘヤピン、ドロップ、スマッシュ、サービスショット	
第7回	フィットネス バドミントンゲームへの導入実技 ・準備体操、ストレッチ ・基本ストロークの反復練習 ・ルールの解説 ・基本のフットワーク	
第8回	フィットネス バドミントンゲームへの導入実技 ・準備体操、ストレッチ ・基本ストロークの反復練習 ・ルールの解説 ・基本フォーメーション	
第9回	フィットネス バドミントンゲームへの導入実技 ・準備体操、ストレッチ ・基本ストロークの反復練習 ・ルールの解説 ・簡易ゲーム(シングルス)	
第10回	フィットネス バドミントンゲームへの導入実技 ・準備体操、ストレッチ ・基本ストロークの反復練習 ・ルールの解説 ・簡易ゲーム(ダブルス)	
第11回	フィットネス バドミントンゲーム(リーグ戦)実技 ・準備体操、ストレッチ ・基本ストロークの反復練習 ・審判(ルールの理解) ・リーグ戦形式	
第12回	フィットネス バドミントンゲーム(リーグ戦)実技 ・準備体操、ストレッチ ・基本ストロークの反復練習 ・審判(ルールの理解) ・リーグ戦形式	
第13回	フィットネス バドミントンゲーム(リーグ戦)実技 ・準備体操、ストレッチ ・基本ストロークの反復練習 ・審判(ルールの理解) ・リーグ戦形式	
第14回	フィットネス バドミントンゲーム(リーグ戦)実技 ・準備体操、ストレッチ ・基本ストロークの反復練習 ・審判(ルールの理解) ・リーグ戦形式	
第15回	総括・まとめ バドミントンのルール・歴史・今後もバドミントン、スポーツ全般に興味を持たせる	
評価方法	評価割合	評価基準など
健康管理	40%	
態度・実行	40%	
運動技能・知識	20%	
参考資料・URL	テキストはなし。適宜、資料を配布する。	

授業科目名	スポーツ実践（軽スポーツⅡ）
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	クラス分け・単独
科目名	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	体育
担当教員名	飯島理彰、篠原祐剛
単位数	1 単位
到達目標	近年生活の利便化に伴い、体を動かす機会が年々減少してきていることが、運動不足と健康への影響をもたらしています。また「生活習慣病」は「運動不足病」と言っても過言ではなく、喫煙、高血圧に次ぐ第3位で年間約5万人の死亡者数にあたるとも言われます。心身の健康を維持し、より健康的な状態を得るため運動やスポーツを中心とした行動を通じてその具体的な方法を習得します。
授業概要	授業形態：対面方式 ※コロナ感染状況により、双方向型及びオンデマンドによるオンライン授業に変更する場合があります。新型コロナウイルス感染拡大に伴い外出規制による運動不足と健康への影響がされます。 本授業では実技授業として基本対面方式にて行い、山梨学院大学樹徳館武道場を利用し軽スポーツを行う。 卓球を中心に実技を進めていく。卓球の基礎から始め、基本姿勢などを習得したのち動作の習得、基本的なルールなどの理解を経て試合形式実践へと展開していく。

授業計画		
回数	内容	
第1回	授業オリエンテーション 年間授業計画の説明 受講の注意事項	
第2回	グループアイスブレイクゲーム ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第3回	準備運動 基本姿勢：ラケット持ち方、打ち方、壁打ちをグループで行う ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第4回	準備運動 ラリーグループゲーム ゲームルール説明 ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第5回	準備運動 ラリー 卓球シングルルール説明 グループトレーニング※トレーニングウェア、シューズを用意	
第6回	準備運動 ラリー グループトレーニング シングルス戦ミニゲーム① ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第7回	準備運動 ラリー グループトレーニング シングルス戦ミニゲーム② ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第8回	準備運動 ラリー グループトレーニング シングルス戦グループリーグ戦① ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第9回	準備運動 ラリー グループトレーニング シングルス戦グループリーグ戦② ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第10回	準備運動 ラリー グループトレーニング シングルス戦グループリーグ戦③ ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第11回	準備運動 ラリー 卓球ダブルスルール説明 グループトレーニング※トレーニングウェア、シューズを用意	
第12回	準備運動 ラリー グループトレーニング ダブルス戦ミニゲーム ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第13回	準備運動 ラリー グループトレーニング ダブルス戦グループリーグ戦① ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第14回	準備運動 ラリー グループトレーニング ダブルス戦グループリーグ戦② ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第15回	準備運動 ラリー グループトレーニング フリー対戦 まとめ ※トレーニングウェア、シューズを用意	
評価方法	評価割合	評価基準など
健康管理（毎回の授業）	40%	
態度、実行	40%	
運動技能、知識	20%	
参考資料・URL	テキストはなし。適宜、資料を配布する。	

授業科目名	スポーツ実践(トレーニング実践)
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	クラス分け・単独
科目名	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	体育
担当教員名	篠原祐剛、高橋侑希
単位数	1 単位
到達目標	近年生活の利便化に伴い、体を動かす機会が年々減少してきていることが、運動不足と健康への影響をもたらしています。また「生活習慣病」は「運動不足病」と言っても過言ではなく、喫煙、高血圧に次ぐ第3位で年間約5万人の死亡者数にあたるとも言われます。心身の健康を維持し、より健康的な状態を得るため運動やスポーツを心とした行動を通じてその具体的な方法を習得します。
授業概要	授業形態：対面方式 ※コロナ感染状況により、双方向型及びオンデマンドによるオンライン授業に変更する場合があります。新型コロナウイルス感染拡大に伴い外出規制による運動不足と健康への影響がされます。 本授業では実技授業として基本対面方式にて行い、山梨学院大学 カレッジスポーツセンター 1F トレーニング ルームを利用し、ウエイトトレーニングを中心としたトレーニング実践を行う。トレーニングではウエイトトレーニングの基礎から始め、基本姿勢などを習得したのち動作の習得、またトレーニングルームでの利用ルールなどの理解を経て実践へと展開していく。

授業計画		
回数	内容	
第1回	授業オリエンテーション 年間授業計画の説明 受講の注意事項	
第2回	トレーニング機器の説明 フリーウエイト基本動作 ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第3回	トレーニング機器の説明 フリーウエイト基本動作 マシン基本操作動作 ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第4回	ウエイトトレーニングの基本 下半身トレーニングの基本動作 4人1グループ ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第5回	ウエイトトレーニングの基本 上半身トレーニングの基本動作 4人1グループ ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第6回	ウエイトトレーニングの基本 マシン器具の説明、基本動作 グループ説明 ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第7回	フリーウエイト 下半身、上半身を交互に行う① 4人1グループ ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第8回	フリーウエイト 下半身、上半身を交互に行う② 4人1グループ ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第9回	フリーウエイト 下半身中心プログラム 4人1グループ ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第10回	フリーウエイト 上半身中心プログラム 4人1グループ ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第11回	下半身ウエイト測定 4人1グループ ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第12回	上半身ウエイト測定 4人1グループ ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第13回	サーキットトレーニング 補強トレーニング ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第14回	ラダートレーニング 補強トレーニング ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第15回	メディシンボールトレーニング補強トレーニング まとめ ※トレーニングウェア、シューズを用意	
評価方法	評価割合	評価基準など
健康管理(毎回の授業)	40%	
態度、実行	40%	
運動技能、知識	20%	
参考資料・URL	テキストはなし。適宜、資料を配布する。	

授業科目名	スポーツ実践(卓球)
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	単独
科目名	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	体育
担当教員名	小島毅
単位数	1 単位
到達目標	近年生活の利便化に伴い、体を動かす機会が年々減少してきていることが、運動不足と健康への影響をもたらしています。また「生活習慣病」は「運動不足病」と言っても過言ではなく、喫煙、高血圧に次ぐ第3位で年間約 5 万人の死亡者数にあたるとも言われます。心身の健康を維持し、より健康的な状態を得るため運動やスポーツを中心とした行動を通じてその具体的な方法を習得します。
授業概要	授業形態：対面方式 ※コロナ感染状況により、双方向型及びオンデマンドによるオンライン授業に変更する場合があります。新型コロナウイルス感染拡大に伴い外出規制による運動不足と健康への影響がされます。 本授業では実技授業として基本対面方式にて行い、山梨学院大学樹徳館武道場を利用し軽スポーツを行う。 卓球を中心に実技を進めていく。卓球の基礎から始め、基本姿勢などを習得したのち動作の習得、基本的なルールなどの理解を経て試合形式実践へと展開していく。

授業計画		
回数	内容	
第1回	授業オリエンテーション 年間授業計画の説明 受講の注意事項	
第2回	グループアイスブレイクゲーム ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第3回	準備運動 基本姿勢：ラケット持ち方、打ち方、壁打ちをグループで行う ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第4回	準備運動 ラリーグループゲーム ゲームルール説明 ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第5回	準備運動 ラリー 卓球シングルルール説明 グループトレーニング※トレーニングウェア、シューズを用意	
第6回	準備運動 ラリー グループトレーニング シングルス戦ミニゲーム① ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第7回	準備運動 ラリー グループトレーニング シングルス戦ミニゲーム② ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第8回	準備運動 ラリー グループトレーニング シングルス戦グループリーグ戦① ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第9回	準備運動 ラリー グループトレーニング シングルス戦グループリーグ戦② ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第10回	準備運動 ラリー グループトレーニング シングルス戦グループリーグ戦③ ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第11回	準備運動 ラリー 卓球ダブルスルール説明 グループトレーニング※トレーニングウェア、シューズを用意	
第12回	準備運動 ラリー グループトレーニング ダブルス戦ミニゲーム ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第13回	準備運動 ラリー グループトレーニング ダブルス戦グループリーグ戦① ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第14回	準備運動 ラリー グループトレーニング ダブルス戦グループリーグ戦② ※トレーニングウェア、シューズを用意	
第15回	準備運動 ラリー グループトレーニング フリー対戦 まとめ ※トレーニングウェア、シューズを用意	
評価方法	評価割合	評価基準など
健康管理(毎回の授業)	40%	
態度、実行	40%	
運動技能、知識	20%	
参考資料・URL	テキストはなし。適宜、資料を配布する。	

授業科目名	総合英語Ⅰ
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	クラス分け・単独
科目名	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション
担当教員名	石毛 修子、野澤里栄、HALVERSON Edward、内田光枝、小野勝、田代葉子、MARKLE David Neil、酒井喜和子
単位数	2単位
到達目標	① コミュニケーションの場で活用できる重要文法項目を、使用される文脈の中で理解できる。 ② コミュニケーションの場で活用できる語彙や表現を、使用される文脈の中で理解できる。 ③ 授業で扱った題材に関連した英語を読んだり、聞いたりしたとき、内容を理解できる。 ④ 授業で扱った題材に関連した英語を書いたり、発話したりしたとき、的確に表現できる。
授業概要	この授業では、コミュニケーションの場で活用できる重要文法項目や語彙・表現を、高校までに学んだ内容を再整理しながら理解を深め、英語の理解力を向上させます。さらに、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能をバランスよく練習し、英語運用能力を高めていきます。 本科目では教科書のUNIT 1～7を扱います。各ユニットには「語彙」「聴解」「スピーキング」「文法」「読解」「ライティング」の学習活動があり、それらの活動を通じて英語力を総合的に伸ばしていきます。理解度を確認するために、各課終了後には復習小テストをおこないます。また、複数課ごとにオーラルパフォーマンスを確認する発話カテストも行い、より実践的な発話力を身につけます。 【履修上の注意】本科目履修について大切な事項が、このシラバス下記の「特記事項」にあります。必ず確認してください。

授業計画				
回数	内容			
第1回	オリエンテーション Ice Break			
第2回	UNIT 1 : Meeting People ①			
第3回	UNIT 1: Meeting People ②			
第4回	UNIT 1: Meeting People ③			
第5回	UNIT 1 復習小テスト UNIT 2: Time to Eat①			
第6回	UNIT 2 : Time to Eat②			
第7回	UNIT 2: Time to Eat③			
第8回	UNIT 2 復習小テスト UNIT 1 ・ 2 復習			
第9回	UNIT 3 : Living with Technology①			
第10回	UNIT 3: Living with Technology②			
第11回	UNIT 3: Living with Technology③			
第12回	UNIT 3 復習小テスト UNIT 1 ～ 3 復習			
第13回	発話カテスト (UNIT 1 ～ 3) UNIT 4: Shopping for Clothes ①			
第14回	UNIT 4: Shopping for Clothes ②			
第15回	UNIT 4: Shopping for Clothes ③			
第16回	UNIT 4 復習小テスト 前半 (UNIT1 4) 総復習			
第17回	中間試験(文法・語彙表現・読解・聴解) UNIT 5: A Helping Hand at Home①			
第18回	UNIT 5: A Helping Hand at Home②			
第19回	UNIT 5: A Helping Hand at Home③			
第20回	UNIT 5 復習小テスト UNIT 4 ・ 5 復習			
第21回	発話カテスト (UNIT 4 ・ 5) UNIT 6: Going Places ①			
第22回	UNIT 6: Going Places ②			
第23回	UNIT 6: Going Place s③			
第24回	UNIT 6 復習小テスト UNIT 7: Not Feeling So Good ①			
第25回	UNIT 7: Not Feeling So Good ②			
第26回	UNIT 7: Not Feeling So Good ③			
第27回	UNIT 7 復習小テスト 後半 (UNIT 5 ～ 7) 総復習			
第28回	発話カテスト (UNIT 6-7) 既習学習内容の総復習 (UNIT 1 ～ 7)			
第29回	期末試験(文法・語彙表現・読解・聴解)			
第30回	今学期の総括、フィードバック			
評価方法	評価割合			評価基準など
中間試験、期末試験	50%			
各ユニットの復習小テスト	20%			
発話カテスト	20%			
課題提出(作文)	10 %			
書名	著者	出版社	ISBN	備考
NEW Connection Book 1	Teruhiko Kado yama他	成美堂	978-4- 7919-3411-9	
参考資料・URL	なし			

授業科目名	総合英語Ⅱ
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	クラス分け・単独
科目名	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション
担当教員名	石毛 修子、野澤里栄、HALVERSON Edward、内田光枝、小野勝、田代葉子、MARKLE David Neil、酒井喜和子
単位数	2単位
到達目標	①コミュニケーションの場で活用できる重要文法項目を、使用される文脈の中で理解できる。 ② コミュニケーションの場で活用できる語彙や表現を、使用される文脈の中で理解できる。 ③ 授業で扱った題材に関連した英語を読んだり、聞いたりしたとき、内容を理解できる。 ④ 授業で扱った題材に関連した英語を書いたり、発話したりしたとき、的確に表現できる。
授業概要	この授業は「総合英語Ⅰ」の続編です。「総合英語Ⅰ」で学んだことを活用して、さらに学習を進めていきます。 授業では、コミュニケーションの場で活用できる重要文法項目や語彙・表現を、高校までに学んだ内容を再 整理しながら理解を深め、英語の理解力を向上させます。さらに、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4 技能をバランスよく練習し、英語運用能力を高めていきます。 本科目では教科書のUNIT 8 ～ 14を扱います。各ユニットには「語彙」「聴解」「スピーキング」「文法」「読解」「ライティング」の学習活動があり、それらの活動を通じて英語力を総合的に伸ばしていきます。理解度を確認するために、各課終了後には復習小テストをおこないます。また、複数課ごとにオールパフォーマンスを確認する発話カテストも行い、より実践的な発話を身につけます。 【履修上の注意】本科目履修について大切な事項が、このシラバス下記の「特記事項」にあります。必ず確認してください。

授業計画				
回数	内容			
第1回	オリエンテーション Ice Break			
第2回	UNIT 8: The Big Screen ①			
第3回	UNIT 8: The Big Screen ②			
第4回	UNIT 8: The Big Screen ③			
第5回	UNIT 8 復習小テスト UNIT 9 : How Do You Feel?①			
第6回	UNIT 9 : How Do You Feel?②			
第7回	UNIT 9: How Do You Feel?③			
第8回	UNIT 9 復習小テスト UNIT 9 ・ 10復習			
第9回	UNIT10. All in Good Fun①			
第10回	UNIT10. All in Good Fun②			
第11回	UNIT10. All in Good Fun③			
第12回	UNIT10 復 習小テスト UNIT10 ～ 10 復習			
第13回	発話カテスト (UNIT 8 ～10) UNIT11 : Game Time①			
第14回	UNIT11:Game Time②			
第15回	UNIT11:Game Time③			
第16回	UNIT11 復習小テスト 前半 (UNIT 8 - 11) 総復習			
第17回	中間試験(文法・語彙表現・読解・聴解) UNIT12: Rain or Shine①			
第18回	UNIT12: Rain or Shine②			
第19回	UNIT12: Rain or Shine③			
第20回	UNIT12 復習小テスト UNIT11 ・ 12復習			
第21回	発話カテスト (UNIT11 ・ 12) UNIT13 Eating Out ①			
第22回	UNIT13. Eating Out ②			
第23回	UNIT13: Eating Out ③			
第24回	UNIT13 復習小テスト UNIT14:School Life①			
第25回	UNIT14:School Life②			
第26回	UNIT14 . School Life③			
第27回	UNIT14 復習小テスト 後半 (UNIT12 ～ 14) 総復習			
第28回	発話カテスト (UNIT13 ・ 14) 既習学習内容の総復習 (UNIT 8 ～ 14)			
第29回	期末試験(文法・語彙表現・読解・聴解)			
第30回	今学期の総括、フィードバック			
評価方法	評価割合			評価基準など
中間試験、期末試験	50%			
各ユニットの復習小テスト	20%			
発話カテスト	20%			
課題提出(作文)	10%			
書名	著者	出版社	ISBN	備考
NEW Connection Book 1	Teruhiko Kadoyama 他	成美堂	978-4- 7919-3411-9	
参考資料・URL	なし			

授業科目名	コミュニケーション基礎英語A
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	単独
科目名	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション
担当教員名	ALBUQUERQUE Alberto
単位数	2単位
到達目標	① 授業で扱うトピックについて英語で理解し、その内容に関連した質問をしたり、質問に答えたりすることができる。 ② 授業で扱うトピックについて、英語で自分の意見や経験について述べることができる。 ③ ②に必要な、基礎的な文法や語彙・表現を理解し、適切に運用できる。 ④ 自律的に英語学習を進めることができる。
授業概要	「コミュニケーション英語」は、「コミュニケーション基礎英語」「コミュニケーション初級英語」「コミュニケーション中級英語」の3レベルの科目があります。この科目は【コミュニケーション基礎英語】です。 この授業は、これまでに学んだ文法・語彙・表現を用いて、英語での理解力を伸ばすとともに、英語の発話力を高めることを目的とする科目です。口頭でのやりとり(話す・聞く)に重点を置きますが、他の技能(読む・書く)も強化します。 本科目では教科書のUNIT1～7を扱います。授業では、ユニットごとに1つのトピックに対して、①内容を理解するための活動、②トピックに関連する語彙や表現を身につける活動、③トピックに関するコミュニケーションタスクに取り組みます。学生間、教員学生間のコミュニケーションを重視しており、英語でやりとりをする十分な機会が与えられるため、徐々に英語でのやりとり慣れていくことができます。 また、1学期に2回英語での発表(スピーキングテスト)に挑戦します。学んだ文法や語彙・表現を活かして、英語で自分の考えや経験を話せるようになることを目指します。 その他、授業外でEnglish Cafe Lessonを半期で8回活用し、より早く、自信を持って英語が使えるようになることを目指します。6回は授業で学習した内容に対応した題材で実践練習を行い、残りの2回は発表(スピーキングテスト)の練習を行います。 授業は基本的に英語で行います。まずは勇気を持って、英語を話すことに慣れましょう。ただし、日本語での質問にも日本語で対応します。 ※状況に応じて内容や進度等、変更する可能性があります。その際は、授業時に随時連絡・指示します。 【履修上の注意】 本科目履修について大切な事項が、このシラバス下記の「特記事項」にあります。必ず確認してください。

授業計画	
回数	内容
第1回	オリエンテーション 自己紹介、グループ活動、口頭レベルチェック
第2回	Unit 1 : Cross-Cultural Understanding ・トピック内容理解 ・語彙・表現
第3回	Unit 1 : Cross-Cultural Understanding ・リスニング ・コミュニケーションタスク Ⅰ
第4回	Unit 1 : Cross-Cultural Understanding ・リーディング ・コミュニケーションタスク Ⅱ
第5回	Unit 1 : Cross-Cultural Understanding ・語彙クイズ ・まとめと復習
第6回	Unit 2 : Foods ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスクⅠ
第7回	Unit 2 : Foods ・リスニング ・コミュニケーションタスクⅡ
第8回	Unit 2 : Foods ・語彙クイズ ・リーディング ・まとめと復習
第9回	Unit 3 : Foreign Language Learning ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク Ⅰ
第10回	Unit 3 : Foreign Language Learning ・リスニング ・コミュニケーションタスク Ⅱ
第11回	Unit 3 : Foreign Language Learning ・語彙クイズ ・リーディング ・まとめと復習
第12回	プレゼンテーションスキルの紹介①スピーキングテストⅠの練習
第13回	スピーキングテストⅠの練習 スピーキングテストⅠの実施
第14回	スピーキングテストⅠのふりかえり、フィードバック
第15回	Unit 4 : Sports ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク Ⅰ
第16回	Unit 4 : Sports ・語彙クイズ ・リスニング ・コミュニケーションタスク Ⅱ
第17回	Unit 4 : Sports ・リーディング ・まとめと復習
第18回	Unit 5 : Fashion ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク Ⅰ
第19回	Unit 5 : Fashion ・語彙クイズ ・リスニング ・コミュニケーションタスクⅡ
第20回	Unit 5 : Fashion ・リーディング ・まとめと復習

第21回	Unit 6 : Living Things ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク I			
第22回	Unit 6 : Living Things ・語彙クイズ ・リスニング ・コミュニケーションタスク II			
第23回	Unit 6 : Living Things ・リーディング ・まとめと復習			
第24回	Unit 7 : Art ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク I			
第25回	Unit 7 : Art ・リスニング ・コミュニケーションタスクII			
第26回	Unit 7 : Art ・語彙クイズ ・リーディング ・まとめと復習			
第27回	既習課の復習 プレゼンテーションスキルの紹介②スピーキングテストII の練習			
第28回	スピーキングテストII の練習スピーキングテスト II の実施			
第29回	スピーキングテスト II の練習スピーキングテストII の実施			
第30回	スピーキングテストII のふりかえり、フィードバック授業のまとめ、ふりかえり			
評価方法	評価割合		評価基準など	
スピーキングテスト (2回)			40%	
各ユニットの語彙クイズ			20%	
授業中の発言(回数・内容)			20%	
授業外学習 (English Cafe Lesson)			20%	
書名	著者	出版社	ISBN	備考
AMBITIONS Beginner 4 技能統合型で 学ぶ英語コース: 入門編	VELC 研究教材開発グループ、 静哲人／望月正道／熊澤孝昭編著	金星堂	9784764741195	
参考資料・URL	なし			

授業科目名	コミュニケーション基礎英語B
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	単独
科目名	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション
担当教員名	ALBUQUERQUE Alberto
単位数	2単位
到達目標	① 授業で扱うトピックについて英語で理解し、その内容に関連した質問をしたり、質問に答えたりすることができる。 ② 授業で扱うトピックについて、英語で自分の意見や経験について述べるができる。 ③ ②に必要な、基礎的な文法や語彙・表現を理解し、適切に運用できる。 ④ 自律的に英語学習を進めることができる。
授業概要	「コミュニケーション英語」は、「コミュニケーション基礎英語」「コミュニケーション初級英語」「コミュニケーション中級英語」の3レベルの科目があります。この科目は【コミュニケーション基礎英語】です。この授業は、これまでに学んだ文法・語彙・表現を用いて、英語での理解力を伸ばすとともに、英語の発話力を高めることを目的とする科目です。口頭でのやりとり(話す・聞く)に重点を置きますが、他の技能(読む、書く)も強化します。 本科目では教科書のUNIT8～15を扱います。授業では、ユニットごとに1つのトピックに対して、①内容を理解するための活動、②トピックに関連する語彙や表現を身につける活動、③トピックに関するコミュニケーションタスクに取り組みます。学生間、教員学生間のコミュニケーションを重視しており、英語でやりとりをする十分な機会が与えられるため、徐々に英語でのやりとり慣れていくことができます。 また、1学期に2回英語での発表(スピーキングテスト)に挑戦します。学んだ文法や語彙、表現を活かして、英語で自分の考えや経験を話せるようになることを目指します。 その他、授業外でEnglish Cafe Lessonを半期で8回活用し、より早く、自信を持って英語が使えるようになることを目指します。6回は授業で学習した内容に対応した題材で実践練習を行い、残りの2回は発表(スピーキングテスト)の練習を行います。 授業は基本的に英語で行います。まずは勇気を持って、英語を話すことに慣れましょう。ただし、日本語での質問にも日本語で対応します。 ※状況に応じて内容や進度等、変更する可能性があります。その際は、授業時に随時連絡、指示します。 【履修上の注意】 本科目履修について大切な事項が、このシラバス下記の「特記事項」にあります。必ず確認してください。

授業計画	
回数	内容
第1回	オリエンテーション 自己紹介、グループ活動、口頭レベルチェック
第2回	Unit 8 : Global Issues ・トピック内容理解 ・語彙・表現
第3回	Unit 8 : Global Issues ・リスニング ・コミュニケーションタスク Ⅰ
第4回	Unit 8 : Global Issues ・リーディング ・コミュニケーションタスクⅡ
第5回	Unit 8 : Global Issues ・語彙クイズ ・まとめと復習
第6回	Unit 9 : Japanese Culture ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスクⅠ
第7回	Unit 9 : Japanese Culture ・リスニング ・コミュニケーションタスクⅡ
第8回	Unit 9 : Japanese Culture ・語彙クイズ ・リーディング ・まとめと復習
第9回	Unit10 : Human Rights ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク Ⅰ
第10回	Unit10 : Human Rights ・リスニング ・コミュニケーションタスクⅡ
第11回	Unit10 : Human Rights ・語彙クイズ ・リーディング ・まとめと復習
第12回	プレゼンテーションスキルの紹介①スピーキングテストⅠの練習
第13回	スピーキングテストⅠの練習 スピーキングテストⅠの実施
第14回	スピーキングテストⅠのふりかえり、フィードバック
第15回	Unit11 : Health & Medical Issues ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク Ⅰ
第16回	Unit11 : Health & Medical Issues ・語彙クイズ ・リスニング ・コミュニケーションタスクⅡ
第17回	Unit11 : Health & Medical Issues ・リーディング ・まとめと復習
第18回	Unit12 : Environmental Issues ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスクⅠ
第19回	Unit12 : Environmental Issues ・語彙クイズ ・リスニング ・コミュニケーションタスクⅡ
第20回	Unit12 : Environmental Issues ・リーディング ・まとめと復習

第21回	Unit13 : Economy & Industry ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスクⅠ			
第22回	Unit13 : Economy & Industry ・語彙クイズ ・リスニング ・コミュニケーションタスクⅡ			
第23回	Unit13 : Economy & Industry ・リーディング ・まとめと復習			
第24回	Unit15 : Science & Technology ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスクⅠ			
第25回	Unit15 : Science & Technology ・リスニング ・コミュニケーションタスクⅡ			
第26回	Unit15 : Science & Technology ・語彙クイズ ・リーディング ・まとめと復習			
第27回	既習課の復習 プレゼンテーションスキルの紹介②スピーキングテストⅡの練習			
第28回	スピーキングテストⅡの練習スピーキングテストⅡの実施			
第29回	スピーキングテストⅡの練習スピーキングテストⅡの実施			
第30回	スピーキングテストⅡのふりかえり、フィードバック授業のまとめ、ふりかえり			
評価方法	評価割合		評価基準など	
スピーキングテスト（2回）			40%	
各ユニットの語彙クイズ			20%	
授業中の発言（回数・内容）			20%	
授業外学習（English Cafe Lesson）			20%	
書名	著者	出版社	ISBN	備考
AMBITIONS Beginner 4 技能統合型で学ぶ英語コース: 基基礎編	VELC 研究教材開発グループ、 静哲人／望月正道／熊澤孝昭編著	金星堂	9784764741195	
参考資料・URL	なし			

授業科目名	コミュニケーション初級英語A
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	単独
科目名	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション
担当教員名	ALBUQUERQUE Alberto
単位数	2単位
到達目標	① 授業で扱うトピックについて英語で理解し、その内容に関連した質問をしたり、質問に答えたりすることができる。 ② 授業で扱うトピックについて、英語で自分の意見や経験について述べることができる。 ③ ②に必要な、初級レベルの文法や語彙・表現を理解し、適切に運用できる。 ④ 自律的に英語学修を進めることができる。
授業概要	「コミュニケーション英語」は、「コミュニケーション基礎英語」「コミュニケーション初級英語」「コミュニケーション中級英語」の3レベルの科目があります。この科目は【コミュニケーション初級英語】です。(学年不問。1年生から履修可能です。) この授業は、これまでに学んだ文法・語彙・表現を用いて、英語での理解力を伸ばすとともに、英語の発話力を高めることを目的とする科目です。口頭でのやりとり(話す・聞く)に重点を置きますが、他の技能(読む、書く)も強化します。 本科目では教科書のUNIT 1～7を扱います。授業では、ユニットごとに1つのトピックに対して、①内容を理解するための活動、②トピックに関連する語彙や表現を身につける活動、③トピックに関するコミュニケーションタスクに取り組みます。学生間、教員学生間のコミュニケーションを重視しており、英語でやりとりをする十分な機会が与えられるため、徐々に英語でのやりとり慣れていくことができます。 また、1学期に2回英語での発表(スピーキングテスト)に挑戦します。学んだ文法や語彙、表現を活かして、英語で自分の考えや経験を話せるようになることを目指します。 その他、授業外でEnglish Cafe Lessonを半期で8回活用し、より早く、自信を持って英語が使えるようになることを目指します。6回は授業で学習した内容に対応した題材で実践練習を行い、残りの2回は発表(スピーキングテスト)の練習を行います。 授業は基本的に英語で行います。まずは勇気を持って、英語を話すことに慣れましょう。ただし、日本語での質問にも日本語で対応します。 ※状況に応じて内容や進度等、変更する可能性があります。その際は、授業時に随時連絡、指示します。 【履修上の注意】 本科目履修について大切な事項が、このシラバス下記の「特記事項」にあります。必ず確認してください。

授業計画	
回数	内容
第1回	オリエンテーション 自己紹介、グループ活動、口頭レベルチェック
第2回	Unit 1 : Cross-Cultural Understanding ・トピック内容理解 ・語彙・表現
第3回	Unit 1 : Cross-Cultural Understanding ・リスニング ・コミュニケーションタスク Ⅰ
第4回	Unit 1 : Cross-Cultural Understanding ・リーディング ・コミュニケーションタスク Ⅱ
第5回	Unit 1 : Cross-Cultural Understanding ・語彙クイズ ・まとめと復習
第6回	Unit 2 : Foods ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク Ⅰ
第7回	Unit 2 : Foods ・リスニング ・コミュニケーションタスク Ⅱ
第8回	Unit 2 : Foods ・語彙クイズ ・リーディング ・まとめと復習
第9回	Unit 3 : Foreign Language Learning ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスクⅠ
第10回	Unit 3 : Foreign Language Learning ・リスニング ・コミュニケーションタスクⅡ
第11回	Unit 3 : Foreign Language Learning ・語彙クイズ ・リーディング ・まとめと復習
第12回	プレゼンテーションスキルの紹介 ①スピーキングテストⅠの練習
第13回	スピーキングテストⅠの練習 スピーキングテストⅠの実施
第14回	スピーキングテストⅠのふりかえり、フィードバック
第15回	Unit 4 : Sports ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク Ⅰ
第16回	Unit 4 : Sports ・語彙クイズ ・リスニング ・コミュニケーションタスク Ⅱ
第17回	Unit 4 : Sports ・リーディング ・まとめと復習
第18回	Unit 5 : Fashion ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク Ⅰ
第19回	Unit 5 : Fashion ・語彙クイズ ・リスニング ・コミュニケーションタスク Ⅱ

第20回	Unit 5 : Fashion ・リーディング ・まとめと復習			
第21回	Unit 6 : Living Things ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク Ⅰ			
第 22回	Unit 6 : Living Things ・語彙クイズ ・リスニング ・コミュニケーションタスク Ⅱ			
第23回	Unit 6 : Living Things ・リーディング ・まとめと復習			
第24回	Unit 7 : Art ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク			
第25回	Unit 7 : Art ・リスニング ・コミュニケーションタスク Ⅱ			
第26回	Unit 7 : Art ・語彙クイズ ・リーディング ・まとめと復習			
第27回	既習課の復習 プレゼンテーションスキルの紹介②スピーキングテストⅡの練習			
第28回	スピーキングテストⅡの練習スピーキングテストⅡの実施			
第29回	スピーキングテストⅡの練習スピーキングテストⅡの実施			
第30回	スピーキングテストⅡのふりかえり、フィードバック授業のまとめ、ふりかえり			
評価方法	評価割合		評価基準など	
スピーキングテスト（2回）	40%			
各ユニットの語彙クイズ	20%			
授業中の発言（回数・内容）	20%			
授業外学習（English Cafe Lesson）	20%			
書名	著者	出版社	ISBN	備考
AMBITIONS Elementary 4技能統合型で学ぶ英語コース:初級編	VELC 研究教 材開発グループ、静哲人／望月正道／熊澤孝昭編著	金星堂	9784764740549	
参考資料・URL	なし			

授業科目名	コミュニケーション初級英語B
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	単独
科目名	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション
担当教員名	ALBUQUERQUE Alberto
単位数	2単位
到達目標	① 授業で扱うトピックについて英語で理解し、その内容に関連した質問をしたり、質問に答えたりすることができる。 ② 授業で扱うトピックについて、英語で自分の意見や経験について述べるができる。 ③ ②に必要な、初級レベルの文法や語彙・表現を理解し、適切に運用できる。 ④ 自律的に英語学修を進めることができる。
授業概要	「コミュニケーション英語」は、「コミュニケーション基礎英語」「コミュニケーション初級英語」「コミュニケーション中級英語」の3レベルの科目があります。この科目は【コミュニケーション初級英語】です。(学年不問。1年生から履修可能です。) この授業は、これまでに学んだ文法・語彙・表現を用いて、英語での理解力を伸ばすとともに、英語の発話力を高めることを目的とする科目です。口頭でのやりとり(話す・聞く)に重点を置きますが、他の技能(読む、書く)も強化します。 本科目では教科書のUNIT8～15を扱います。授業では、ユニットごとに1つのトピックに対して、①内容を理解するための活動、②トピックに関連する語彙や表現を身につける活動、③トピックに関するコミュニケーションタスクに取り組みます。学生間、教員学生間のコミュニケーションを重視しており、英語でやりとりをする十分な機会が与えられるため、徐々に英語でのやりとりになれることができます。 また、1学期に2回英語での発表(スピーキングテスト)に挑戦します。学んだ文法や語彙・表現を活かして、英語で自分の考えや経験を話せるようになることを目指します。 この他、授業外でEnglish Cafe Lessonを半期で8回活用し、より早く、自信を持って英語が使えるようになることを目指します。6回は授業で学習した内容に対応した題材で実践練習を行い、残りの2回は発表(スピーキングテスト)の練習を行います。 授業は基本的に英語で行います。まずは勇気を持って、英語を話すことに慣れましょう。ただし、日本語での質問にも日本語で対応します。 ※状況に応じて内容や進度等、変更する可能性があります。その際は、授業時に随時連絡、指示します。 【履修上の注意】 本科目履修について大切な事項が、このシラバス下記の「特記事項」にあります。必ず確認してください。

授業計画	
回数	内容
第1回	オリエンテーション 自己紹介、グループ活動、口頭レベルチェック
第2回	Unit 8 : Global Issues ・トピック内容理解 ・語彙・表現
第3回	Unit 8 : Global Issues ・リスニング ・コミュニケーションタスク Ⅰ
第4回	Unit 8 : Global Issues ・リーディング ・コミュニケーションタスク Ⅱ
第5回	Unit 8 : Global Issues ・語彙クイズ ・まとめと復習
第6回	Unit 9 : Japanese Culture ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク Ⅰ
第7回	Unit 9 : Japanese Culture ・リスニング ・コミュニケーションタスク Ⅱ
第8回	Unit 9 : Japanese Culture ・語彙クイズ ・リーディング ・まとめと復習
第9回	Unit10 : Human Rights ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスクⅠ
第10回	Unit10 : Human Rights ・リスニング ・コミュニケーションタスク Ⅱ
第11回	Unit10 : Human Rights ・語彙クイズ ・リーディング ・まとめと復習
第12回	プレゼンテーションスキルの紹介①スピーキングテスト Ⅰ の練習
第13回	スピーキングテスト Ⅰ の練習 スピーキングテスト Ⅰ の実施
第14回	スピーキングテスト Ⅰ のふりかえり、フィードバック
第15回	Unit11 : Health & Medical Issues ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク Ⅰ
第16回	Unit11 : Health & Medical Issues ・語彙クイズ ・リスニング ・コミュニケーションタスク Ⅱ
第17回	Unit11 : Health & Medical Issues ・リーディング ・まとめと復習
第18回	Unit12 : Environmental Issues ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク Ⅰ
第19回	Unit12 : Environmental Issues ・語彙クイズ ・リスニング ・コミュニケーションタスク Ⅱ
第20回	Unit12 : Environmental Issues ・リーディング ・まとめと復習

第21回	Unit13 : Economy & Industry ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク Ⅰ				
第22回	Unit13 : Economy & Industry ・語彙クイズ ・リスニング ・コミュニケーションタスク Ⅱ				
第23回	Unit13 : Economy & Industry ・リーディング ・まとめと復習				
第24回	Unit15 : Science & Technology ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク Ⅰ				
第25回	Unit15 : Science & Technology ・リスニング ・コミュニケーションタスク Ⅱ				
第26回	Unit15 : Science & Technology ・語彙クイズ ・リーディング ・まとめと復習				
第27回	既習課の復習 プレゼンテーションスキルの紹介②スピーキングテストⅡの練習				
第28回	スピーキングテストⅡの練習 スピーキングテストⅡの実施				
第29回	スピーキングテストⅡの練習 スピーキングテストⅡの実施				
第30回	スピーキングテストⅡのふりかえり、フィードバック 授業のまとめ、ふりかえり				
評価方法		評価割合		評価基準など	
スピーキングテスト（2回）		40%			
各ユニットの語彙クイズ		20%			
授業中の発言（回数・内容）		20%			
授業外学習（English Cafe Lesson）		20%			
書名	著者	出版社	ISBN	備考	
AMBITIONS Elementary 4技能統合型で学ぶ英語コース: 初級編	VELC 研究教材開発グループ、静哲人／望月正道／熊澤孝昭編著	金星堂	9784764740549		
参考資料・URL	なし				

授業科目名	コミュニケーション中級英語A
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	単独
科目名	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション
担当教員名	ALBUQUERQUE Alberto
単位数	2単位
到達目標	① 授業で扱うトピックについて英語で理解し、その内容に関連した質問をしたり、質問に答えたりすることができる。 ② 授業で扱うトピックについて、英語で自分の意見や経験について述べるができる。 ③ ②に必要な、中級レベルの文法や語彙・表現を理解し、適切に運用できる。 ④ 自律的に英語学修を進めることができる。
授業概要	「コミュニケーション英語」は、「コミュニケーション基礎英語」「コミュニケーション初級英語」「コミュニケーション中級英語」の3レベルの科目があります。この科目は【コミュニケーション中級英語】です。(学年不問。1年生から履修可能です。) この授業は、これまでに学んだ文法・語彙・表現を用いて、英語での理解力を伸ばすとともに、英語の発話力を高めることを目的とする科目です。口頭でのやりとり(話す・聞く)に重点を置きますが、他の技能(読む、書く)も強化します。 本科目では教科書のUNIT1～7を扱います。授業では、ユニットごとに1つのトピックに対して、①内容を理解するための活動、②トピックに関連する語彙や表現を身につける活動、③トピックに関するコミュニケーションタスクに取り組みます。学生間、教員学生間のコミュニケーションを重視しており、英語でやりとりをする十分な機会が与えられるため、徐々に英語でのやりとり慣れていくことができます。 また、1学期に2回英語での発表(スピーキングテスト)に挑戦します。学んだ文法や語彙、表現を活かして、英語で自分の考えや経験を話せるようになることを目指します。 その他、授業外でEnglish Cafe Lessonを半期で8回活用し、より早く、自信を持って英語が使えるようになることを目指します。6回は授業で学習した内容に対応した題材で実践練習を行い、残りの2回は発表(スピーキングテスト)の練習を行います。 授業は基本的に英語で行います。まずは勇気を持って、英語を話すことに慣れましょう。ただし、日本語での質問にも日本語で対応します。 ※状況に応じて内容や進度等、変更する可能性があります。その際は、授業時に随時連絡、指示します。 【履修上の注意】 本科目履修について大切な事項が、このシラバス下記の「特記事項」にあります。必ず確認してください。

授業計画	
回数	内容
第1回	オリエンテーション 自己紹介、グループ活動、口頭レベルチェック
第2回	Unit 1 : Cross-Cultural Understanding ・トピック内容理解 ・語彙・表現
第3回	Unit 1 : Cross-Cultural Understanding ・リスニング ・コミュニケーションタスク 1
第4回	Unit 1 : Cross-Cultural Understanding ・リーディング ・コミュニケーションタスク II
第5回	Unit 1 : Cross-Cultural Understanding ・語彙クイズ ・まとめと復習
第6回	Unit 2 : Foods ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク I
第7回	Unit 2 : Foods ・リスニング ・コミュニケーションタスク II
第8回	Unit 2 : Foods ・語彙クイズ ・リーディング ・まとめと復習
第9回	Unit 3 : Foreign Language Learning ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク 1
第10回	Unit 3 : Foreign Language Learning ・リスニング ・コミュニケーションタスク II
第11回	Unit 3 : Foreign Language Learning ・語彙クイズ ・リーディング ・まとめと復習
第12回	プレゼンテーションスキルの紹介 ①スピーキングテスト 1 の練習
第13回	スピーキングテスト 1 の練習 スピーキングテスト 1 の実施
第14回	スピーキングテスト 1 のふりかえり、フィードバック
第15回	Unit 4 : Sports ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク I
第16回	Unit 4 : Sports ・語彙クイズ ・リスニング ・コミュニケーションタスク II
第17回	Unit 4 : Sports ・リーディング ・まとめと復習
第18回	Unit 5 : Fashion ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク 1
第19回	Unit 5 : Fashion ・語彙クイズ ・リスニング ・コミュニケーションタスク II
第20回	Unit 5 : Fashion ・リーディング ・まとめと復習

第21回	Unit 6 : Living Things ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク 1			
第22回	Unit 6 : Living Things ・語彙クイズ ・リスニング ・コミュニケーションタスク II			
第23回	Unit 6 : Living Things ・リーディング ・まとめと復習			
第24回	Unit 7 : Art ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク			
第25回	Unit 7 : Art ・リスニング ・コミュニケーションタスク II			
第26回	Unit 7 : Art ・語彙クイズ ・リーディング ・まとめと復習			
第27回	既習課の復習 プレゼンテーションスキルの紹介②スピーキングテスト II の練習			
第28回	スピーキングテスト II の練習スピーキングテスト II の実施			
第29回	スピーキングテスト II の練習スピーキングテスト II の実施			
第30回	スピーキングテスト II のふりかえり、フィードバック授業のまとめ、ふりかえり			
評価方法	評価割合		評価基準など	
スピーキングテスト（2回）	40%			
各ユニットの語彙クイズ	20%			
授業中の発言（回数・内容）	20%			
授業外学習（English Cafe Lesson）	20%			
書名	著者	出版社	ISBN	備考
AMBITIONS Pre-intermediate 4 技能統合型で学ぶ英語コース: 準中級編	VELC 研究教 材開発グループ、静哲人／望月正道／熊澤孝昭編著	金星堂	9784764740556	
参考資料・URL	なし			

授業科目名	コミュニケーション中級英語B
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	単独
科目名	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション
担当教員名	ALBUQUERQUE Alberto
単位数	2単位
到達目標	① 授業で扱うトピックについて英語で理解し、その内容に関連した質問をしたり、質問に答えたりすることができる。 ② 授業で扱うトピックについて、英語で自分の意見や経験について述べるができる。 ③ ②に必要な、中級レベルの文法や語彙・表現を理解し、適切に運用できる。 ④ 自律的に英語学習を進めることができる。
授業概要	「コミュニケーション英語」は、「コミュニケーション基礎英語」「コミュニケーション初級英語」「コミュニケーション中級英語」の3レベルの科目があります。この科目は【コミュニケーション中級英語】です。(学年不問。1年生から履修可能です。) この授業は、これまでに学んだ文法・語彙・表現を用いて、英語での理解力を伸ばすとともに、英語の発話力を高めることを目的とする科目です。口頭でのやりとり(話す・聞く)に重点を置きますが、他の技能(読む、書く)も強化します。 本科目では教科書のUNIT8～15を扱います。授業では、ユニットごとに1つのトピックに対して、①内容を理解するための活動、②トピックに関連する語彙や表現を身につける活動、③トピックに関するコミュニケーションタスクに取り組みます。学生間、教員学生間のコミュニケーションを重視しており、英語でやりとりをする十分な機会与えられるため、徐々に英語でのやりとり慣れていくことができます。 また、1学期に2回英語での発表(スピーキングテスト)に挑戦します。学んだ文法や語彙、表現を活かして、英語で自分の考えや経験を話せるようになることを目指します。 その他、授業外でEnglish Cafe Lessonを半期で8回活用し、より早く、自信を持って英語が使えるようになることを目指します。6回は授業で学習した内容に対応した題材で実践練習を行い、残りの2回は発表(スピーキングテスト)の練習を行います。 授業は基本的に英語で行います。まずは勇気を持って、英語を話すことに慣れましょう。ただし、日本語での質問にも日本語で対応します。 ※状況に応じて内容や進度等、変更する可能性があります。その際は、授業時に随時連絡、指示します。 【履修上の注意】 本科目履修について大切な事項が、このシラバス下記の「特記事項」にあります。必ず確認してください。

授業計画	
回数	内容
第1回	オリエンテーション 自己紹介、グループ活動、口頭レベルチェック
第2回	Unit 8 : Global Issues ・トピック内容理解 ・語彙・表現
第3回	Unit 8 : Global Issues ・リスニング ・コミュニケーションタスク Ⅰ
第4回	Unit 8 : Global Issues ・リーディング ・コミュニケーションタスク Ⅱ
第5回	Unit 8 : Global Issues ・語彙クイズ ・まとめと復習
第6回	Unit 9 : Japanese Culture ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク Ⅰ
第7回	Unit 9 : Japanese Culture ・リスニング ・コミュニケーションタスク Ⅱ
第8回	Unit 9 : Japanese Culture ・語彙クイズ ・リーディング ・まとめと復習
第9回	Unit10 : Human Rights ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスクⅠ
第10回	Unit10 : Human Rights ・リスニング ・コミュニケーションタスク Ⅱ
第11回	Unit10 : Human Rights ・語彙クイズ ・リーディング ・まとめと復習
第12回	プレゼンテーションスキルの紹介①スピーキングテストⅠの練習
第13回	スピーキングテストⅠの練習 スピーキングテストⅠの実施
第14回	スピーキングテストⅠのふりかえり、フィードバック
第15回	Unit11 : Health & Medical Issues ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスクⅠ
第16回	Unit11 : Health & Medical Issues ・語彙クイズ ・リスニング ・コミュニケーションタスクⅡ
第17回	Unit11 : Health & Medical Issues ・リーディング ・まとめと復習
第18回	Unit12 : Environmental Issues ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスクⅠ
第19回	Unit12 : Environmental Issues ・語彙クイズ ・リスニング ・コミュニケーションタスクⅡ
第20回	Unit12 : Environmental Issues ・リーディング ・まとめと復習

第21回	Unit13 : Economy & Industry ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク 1			
第22回	Unit13 : Economy & Industry ・語彙クイズ ・リスニング ・コミュニケーションタスク II			
第23回	Unit13 : Economy & Industry ・リーディング ・まとめと復習			
第24回	Unit15 : Science & Technology ・トピック内容理解 ・語彙・表現 ・コミュニケーションタスク 1			
第 25回	Unit15 : Science & Technology ・リスニング ・コミュニケーションタスク II			
第26回	Unit15 : Science & Technology ・語彙クイズ ・リーディング ・まとめと復習			
第27回	既習課の復習 プレゼンテーションスキルの紹介②スピーキングテスト II の練習			
第28回	スピーキングテスト II の練習スピーキングテスト II の実施			
第29回	スピーキングテスト II の練習スピーキングテスト II の実施			
第30回	スピーキングテスト II のふりかえり、フィードバック授業のまとめ、ふりかえり			
評価方法		評価割合		評価基準など
スピーキングテスト（2回）		40%		
各ユニットの語彙クイズ		20%		
授業中の発言（回数・内容）		20%		
授業外学習（English Cafe Lesson）		20%		
書名	著者	出版社	ISBN	備考
AMBITIONS Pre-Intermediate 4 技能統合型で学ぶ英語コース：準中級編	VELC 研究教材開発グループ、静哲人／望月正道／熊澤孝昭編著	金星堂	9784764740556	
参考資料・URL	なし			

授業科目名	ICT リテラシー A
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	クラス分け・単独
科目名	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作
担当教員名	伊藤栄一郎、金子勝一、清水智、内藤統也、原敏、船木繁、佐藤友香
単位数	2単位
到達目標	・コンピュータの基礎的な技術について理解していること。 ・文書作成ソフトの一般的な資格試験に合格できる。
授業概要	この授業では、大学での実習室PCの使い方、コンピュータとインターネットの基礎的な知識について学びます。また、コンピュータの文字入力法であるタイピングの技術を学びます。さらに、授業でのレポート作成や卒業論文の作成などで使う文書作成アプリケーションソフトの利用方法を学びます。 この授業は、複数の教員が開講します。クラスは事前に登録されます。登録されたクラスを受講するようにしてください。 なお、授業内容や評価方法はクラス間で統一されています。

授業計画	
回数	内容
第1回	大学のPCの使い方1 ※入学時に配布された「学生用コンピュータメールシステム等利用マニュアル」を持ってくること ・実習室PCのログイン・シャットダウン ・大学のPC特有の注意事項 （データを守る上での留意事項を含む） ・使用できるアプリケーションソフト ・LMSへのログイン、使い方
第2回	前回授業内容に関する小テスト(実施済みの場合は振り回り) 大学のPCの使い方 2 ※入学時に配布された「学生用コンピュータメールシステム等利用マニュアル」を持ってくること ・電子メールの送り方・受け取り方 ・電子メールの使い方（CC、添付、署名など） ・電子メールのマナー （データを守る上での留意事項を含む） ・大学の無線LANの使い方
第3回	前回授業内容に関する小テスト(実施済みの場合は振り回り) Windows の操作方法 ・マウスの操作 ・ファイルやフォルダの操作 ・拡張子 ・ファイルやフォルダの圧縮 キーボードタイピング ・タッチタイピングについて ・タイピング練習 キーボードタイピングの小テスト（1回目）
第4回	前回授業内容に関する小テスト(実施済みの場合は振り回り) コンピュータの仕組み ・コンピュータの構成（ハードウェア、ソフトウェア） ・データの単位 インターネットの仕組み ・インターネット上のアドレス ・LAN と無線LAN（携帯電話回線との違い）
第5回	前回授業内容に関する小テスト(実施済みの場合は振り回り) インターネットの使い方 ・ウェブサイトを開覧する ・ウェブサイト利用時の注意点 （データを守る上での留意事項を含む） ・インターネットを使った情報検索の方法 ・Microsoft 365（Office 365）サイトの使い方 IT関係の資格について
第6回	前回授業内容に関する小テスト(実施済みの場合は振り回り) ※必ず教科書を用意し、この回以降、毎回持ってきてください。 ＜文書の管理＞ ・文書内を移動する ・文書の書式を設定する
第7回	前回授業内容に関する小テスト(実施済みの場合は振り回り) ＜文書の作成と管理＞ ・文書を保存する、共有する ・文書を検査する キーボードタイピングの小テスト（2回目）
第8回	前回授業内容に関する小テスト(実施済みの場合は振り回り) ＜文字、段落、セクションの書式設定＞ ・文字列や段落を挿入する ・文字列や段落の書式を設定する ・文書にセクションを作成する、設定する
第9回	前回授業内容に関する小テスト(実施済みの場合は振り回り) ＜表やリストの管理＞ ・表を作成する ・表を変更する ・リストを作成する、変更する
第10回	前回授業内容に関する小テスト(実施済みの場合は振り回り) ＜参考資料の作成と管理＞ ・参照のための要素を作成する、管理する ・標準のための一覧を作成する、管理する
第11回	前回授業内容に関する小テスト(実施済みの場合は振り回り) ＜グラフィック要素の挿入と書式設定＞ ・図やテキストボックスを挿入する キーボードタイピングの小テスト(3回目)
第12回	前回授業内容に関する小テスト(実施済みの場合は振り回り) ＜グラフィック要素の挿入と書式設定＞ ・図やテキストボックスを書式設定 ・グラフィック要素にテキストを追加する ・グラフィック要素を変更する
第13回	前回授業内容に関する小テスト(実施済みの場合は振り回り) ＜文章の共同作業の管理＞ ・コメントを追加する、管理する ・変更履歴を管理する

第14回	前回授業内容に関する小テスト(実施済みの場合は振り返り) <予備> 出題範囲の演習の予備 <授業のまとめ> ・評価について ・キーボードタイピングテスト(最終) ・Word 到達度確認テストの練習			
第15回	<授業のまとめ> ・Word 到達度確認テスト ・解説			
評価方法	評価割合		評価基準など	
各回の小テスト	50%			
技能に関する課題	50%			
書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4-86510-430-1	定価: 本体 2,100 円 + 税(購入必須)
参考資料・URL	なし			

授業科目名	ICTリテラシーB
教員の免許状取得のための科目	選択科目
担当形態	クラス分け・単独
科目名	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作
担当教員名	伊藤栄一郎、金子勝一、清水智、内藤統也、船木繁、佐藤友香、両川晃子
単位数	2単位
到達目標	①表計算ソフトの基本的な操作を行うことができる。 ②社会におけるデータ活用の重要性について説明できる。 ③表計算ソフトを用いて身の回りのデータを分析できる。
授業概要	情報化社会といわれる今日では、コンピューターは社会のあらゆる分野で使用されるようになっており、ビジネスの分野でも多くのコンピューターが導入されています。社会に出た場合には職務上でコンピューターを使用することが要求されます。また、いろいろなデータがコンピューターで処理されています。データ処理のアプリケーションソフトの1つに表計算ソフトがあります。 この授業では、表計算ソフトの1つである「Excel」を使用して、ソフトの操作方法や表の作成やグラフの作成を学びます。最初は基本的な操作方法から始め、応用的な段階まで進んでいきます。 また、現代社会では、ビジネス・仕事を離れた様々な場面においても、表計算ソフトを使用することで効率化が図れます。例を挙げると、町内会（マンションの管理組合）の予算管理、PTA・子ども会の活動、スポーツやダンス・音楽イベントの主催・実施、同窓会の開催における会員管理や会計処理などがあります。 この授業は、複数の教員が開講します。クラスは事前に登録されます。登録されたクラスを受講するようにしてください。 なお、授業内容や評価方法はクラス間で統一されています。

授業計画				
回数	内容			
第1回	＜ガイダンス＞ ・講義内容、授業の運営方法、予習・復習の方法の説明			
第2回	＜ Excelの基本操作とワークシートやブックの 管理＞ ・ Excelの起動・終了、Excel の基本要素 ・ Excelの画面構成 ・ブック内を移動する			
第3回	＜ ワークシートやブックの管理＞ ・ワークシートやブックの書式を設定する ・オプションと表示をカスタマイズする			
第4回	＜ ワークシートやブックの管理＞ ・共同作 業のためにコンテンツを設定する ・ブックにデータをインポートする			
第5回	＜ セルやセル範囲のデータの管理＞ ・シートの データを操作する ・セルやセル範囲の書式を設定する (1)			
第6回	＜ セルやセル範囲のデータの管理＞ ・セルやセル 範囲の書式を設定する(2) ・名前付き範囲を定義する、参照する ・データを視覚的にまとめる			
第7回	＜テーブルとテーブルのデータ管理＞ ・テーブルを作成する、書式設定する ・テーブルを変更する ・テーブルのデータをフィルターする、並び換える			
第8回	＜表(テーブル)の作成＞ ・表を作成する、管理する ・表のスタイルと設定オプションを管理する			
第9回	＜数式や関数を使用した演算の実行＞ ・参照を追加する ・データを計算する、加工する			
第10回	＜数式や関数を使用した演算の実行＞ ・文字列を変更する、書式設定する			
第11回	＜グラフの管理＞ ・グラフを作成する ・グラフを変更する ・グラフを書式設定する			
第12回	＜操作技能のまとめ＞ ・操作技能到達度テスト			
第13回	＜基本統計量の理解＞ ・基本統計量について知る ・身の回りのデータや活用例について考える			
第14回	＜ データの分析＞ ・身の回りのデータを分析する			
第15回	＜ データの分析のまとめ＞ ・データ活用・分析到達度テスト(レポート) ・授業のまとめと振り返り			
評価方法	評価割合	評価基準など		
授業内小テストまたは 授業課題	30%			
操作技能到達度テスト	30%			
データ活用・分析到達度テスト(レポート)	40%			
書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Excel 365&2019 対策テキスト&問題集	富士通エフ・オー・エム 株式会社	FOM出版	978-4-86510-429-5	定価:本体 2,100 円＋税(購入必須)
はじめてのデータサイエンス	滋賀大学データサイエンス学部・山梨学院大学ICT リテラシー教育チーム共編	学術図書出版社	978-4-7806-1102-1	定価:本体 1,900円＋ 税(購入必須)
参考資料・URL	なし			

授業科目名	学校と教育の歴史			
教員の免許状取得のための科目	必修科目			
担当形態	単独			
科目名	教育の基礎的理解に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想			
担当教員名	河野誠哉			
単位数	2単位			
到達目標	1. 教育および人間形成の基礎的な理念を習得すること。 2. 学校教育の沿革についての基礎的な教養を身に付けること。 3. 教育思想の特徴を思想的に把握すること。			
授業概要	この授業では、教育の基礎的な理念や人間形成において不可欠な理念について学ぶとともに、日本における教育の歴史について概観し、教育の現状を歴史的に考察できる力を育成する。また、主な世界的な教育思想家について取り上げ、それぞれの教育思想の特徴を把握し、現在の教育を思想的に考察できる力を養う。 主に講義形式ではあるが、ワークシートや小テスト、リアクション・ペーパーを積極的に活用しながら進めていく。			
授業計画				
回数	内容			
第1回	教育の理念①（公教育の成り立ち）			
第2回	教育の理念②（公教育の基本原理）			
第3回	教育の理念③（教育制度の基本構造）			
第4回	日本の教育の歴史①（江戸時代教育状況）			
第5回	日本の教育の歴史②（近代公教育制度の幕開け）			
第6回	日本の教育の歴史③（明治期の展開）			
第7回	日本の教育の歴史④（大正期の展開）			
第8回	日本の教育の歴史⑤（戦後教育改革）			
第9回	日本の教育の歴史⑥（戦後教育の展開）			
第10回	教育の思想史①（コメニウス・ルソー）			
第11回	教育の思想史②（コンドルセ・ベスタロッチ・ヘルバルト）			
第12回	教育の思想史③（フレーベル・デュイ）			
第13回	人間形成の理念①（歴史の中の子ども）			
第14回	人間形成の理念②（育児としつけ）			
第15回	まとめ			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合			評価基準など
授業内ペーパー課題	40%			
授業内小テスト	30%			
期末試験	30%			
書名	著者	出版社	ISBN	備考
図説教育の歴史	横須賀葉ほか編	河出書房新社		2008年、1,800円
教育思想史	今井康夫編	有斐閣		2009年、2,000円
参考文献・URL	なし			

授業科目名	教職概論
教員の免許状取得のための科目	必修科目
担当形態	単独
科目名	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)
担当教員名	高嶋江
単位数	2単位
到達目標	1. 教育制度や教員養成のしくみ、教員免許制度等、学校教員をとりまく制度的な事項についての基礎的な知識を身につけること。(大学全体DP① 把握する力と関連) 2. 教職の意義や教員の役割、チーム学校運営への対応等も含めた職務内容について理解し、教職に就くにあたっての自覚を高めること。(大学全体DP① 把握する力、④協調する力と関連) 3. 学校ならびに教員の置かれた現状について理解を深めるとともに、近時の教職志望者の前に待ち受ける様々な状況に対処できる心構えを形成すること。(大学全体 DP②考え抜く力、⑤行動する力と関連)
授業概要	教職課程履修プログラムの最初のステップとして、「教職入門」ないし「教職への招待」を意識した内容の授業を進めていく。すなわち、教育制度や教員養成のしくみ、教員免許制度等、学校教員をとりまく制度的な事項についての基礎的な事項を学ぶとともに、学校や教員の置かれた現状について考えていくための素材を提供していく。特に、教育界の最新事情に触れてもらうべく、主に講義形式ながらも、新聞記事やビデオ映像資料等を積極的に活用した授業を展開していく。なお、事前・事後学修については LMSの活用も積極的に取り入れていく予定である。

授業計画				
回数	内容			
第1回	教職の意義			
第2回	ありうべき教員像とは			
第3回	教育制度の概要			
第4回	教員養成の歴史			
第5回	教員養成の現状			
第6回	教員免許制度			
第7回	教育実習			
第8回	教員採用のしくみ			
第9回	教員採用の現状			
第10回	「チームとしての学校」運営と学校組織			
第11回	教員の身分と服務			
第12回	教員の研修と職務			
第13回	教員の仕事①(多忙化の現実)			
第14回	教員の仕事②(教員の不祥事を考える)			
第15回	まとめ			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合		評価基準など	
平常点	40%			
期末レポート	60%			
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『教職概論 第5次改訂版』	佐藤晴雄	学陽書房		
参考資料・URL	その他の文献・参考資料は授業のなかで紹介していく。また、資料プリントを適宜配布する。			

授業科目名	教育社会学(中・高)
教員の免許状取得のための科目	必修科目
担当形態	単独
科目名	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)
担当教員名	保坂克洋
単位数	2単位
到達目標	社会学的な視点から教育を捉えるという分析視角を身につけ、固定観念や社会通念にとらわれない柔軟な分析力を養うこと、ならびに学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する基礎的知識を身に付けることを目標とする。 (大学全体DP①把握する力、②考え抜く力、⑤行動する力と関連)
授業概要	教育という営みは、往々にしてナイーブな観点から、しかも情緒的な反応を伴いつつ捉えられがちである。しかしながらその一方で、近現代社会におけるそれが社会現象としての側面を有していることもまた確かである。教育という営みのまさにそうした側面に対して社会学的な冷徹な視点でもってアプローチしていくのが、教育社会学という学問である。この授業では、教育社会学という枠組のもとで行なわれてきた研究テーマのなかのいくつかを取り上げ、そこで明らかにされてきた知見に触れながら、教育という社会的現象をめぐる諸問題について考えていく。またそのうえで、学校現場に携わる者に求められる現実的対応について考えていく。主に講義形式であるが、配布プリントや映像資料を積極的に活用しながら進めていく。また、事前・事後学修についてはLMSの活用も積極的に取り入れていく予定である。

授業計画				
回数	内容			
第1回	学校と社会			
第2回	進学をめぐる状況			
第3回	教育拡大がもたらしたもの			
第4回	学校から職業への移行			
第5回	学校と社会移動			
第6回	教育の不平等			
第7回	教育の格差			
第8回	再生産のメカニズム			
第9回	教育とジェンダー			
第10回	教員社会の現状			
第11回	少年非行の現状			
第12回	不登校といじめ問題			
第13回	部活動について考える			
第14回	学校と地域社会			
第15回	学校安全と危機管理			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合		評価基準など	
平常点	40%			
期末レポート	60%			
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『よくわかる教育社会学』	酒井朗・多賀太・中村高康編	ミネルヴァ書房		
参考資料・URL	その他の文献・参考資料は授業のなかで紹介していく。また、資料プリントを適宜配布する。			

授業科目名	教育心理学(中・高)
教員の免許状取得のための科目	必修科目
担当形態	単独
科目名	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
担当教員名	富永大悟
単位数	2単位
到達目標	この講義は、教師にとって必要な心理学の知識や、教育現場で生かせる有効な教授・学習方法など学習活動を支える基本的な考え方について理解と実践力の習得を目的とする。 ①心身の発達について、発達の過程や特徴を理解する。 (大学全体 DP①把握する力) ②発達概念および教育における発達理解の意義を理解する。 (大学全体DP①把握する力，大学全体DP②考え抜く力) ③子どもの発達の観点から、様々な学習の形態や概念および代表的理論を理解する。 (大学全体DP①把握する力，大学全体DP②考え抜く力)
授業概要	教育心理学とは、教育活動に関わる児童生徒の発達や学習過程を心理学の視点から学び、教育実践上の課題解決に役立てる学問である。この講義では、児童生徒の発達過程や、様々な学習の形態や概念を平易に解説し、その内容ごとに具体的な事例を挙げながら、教育心理学の基礎的な理論および実践的知識・技能の習得を図る。この講義は、PowerPoint や動画などを用いて視覚的にわかりやすく説明する。また、LMSを利用した事前・事後学修を行っている。また、クリックによる双方向型授業を行っている。

授業計画				
回数	内容			
第1回	教育心理学とは何か、教育心理学の研究法 本授業の成績評価基準を、【添付資料】に掲載しているため、授業計画に際し必ず確認すること。			
第2回	子どもの成長と発達（1）発達の原理と概念、新生 児期・乳児期の特徴			
第3回	子どもの成長と発達（2）幼児期の特徴			
第4回	子どもの成長と発達（3）児童期の特徴			
第5回	子どもの成長と発達（4）青年期の特徴			
第6回	子どもの学習の基礎（1）知覚			
第7回	子どもの学習の基礎（2）記憶			
第8回	子どもの学習の基礎（3）学習			
第9回	子どもの学習の基礎（4）言語			
第10回	子どもの学習の基礎（5）動機づけ			
第11回	子どもの学習の基礎（6）感情とパーソナリティ			
第12回	教育実践の心理（1）知能と学力			
第13回	教育実践の心理（2）学級集団の心理			
第14回	子ども達の心の理解とその支援 ― 学校不適応と発達障害			
第15回	まとめ			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合		評価基準など	
講義内で指示した小テストなど	50%			
定期試験課題	50%		定期試験は、3分の2の出席が条件	
書名	著者	出版社	ISBN	備考
教職をめざすひとのための発達と教育の心理学			ナカニシヤ出版	参考書：2,420 円
よくわかる教育心理学			ミネルヴァ書房	参考書：2,750 円
よくわかる発達心理学			ミネルヴァ書房	参考書：2,750円
参考資料・URL	指定したテキスト以外に、必要に応じて資料を配布することがある。			

授業科目名	特別支援教育概論			
教員の免許状取得のための科目	必修科目			
担当形態	単独			
科目名	教育の基礎的理解に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			
担当教員名	富永大悟			
単位数	1 単位			
到達目標	身体障害や発達障害などの特別な支援を必要とする児童生徒及び学生が、学習上または日常生活上で感じる困難に対して、適切な支援を行うための知識や方法について理解することを目的とする。 ① 特別支援教育の理念と課題について理解する。 （大学全体DP①把握する力、④協調する力に関連） ② 障害の特性及び心身の発達を理解する。 （大学全体DP①把握する力に関連） ③ 特別的教育的ニーズのある児童生徒及び学生の困難と支援方法を理解する。 （大学全体DP①把握する力、④協調する力、⑤行動する力に関連）			
授業概要	特別支援教育の理念と基本的な考え方を概説する。それを踏まえ、特別支援教育の現状と課題を概観し、対象となる児童生徒及び学生への支援・指導の在り方について学ぶ。特別な教育的支援が必要な児童生徒及び学生に携わる際に、必要な知識・技能、態度を培う。 この授業では、スライド資料などを用いて視覚的に分かりやすく説明する。また、講義内でクリックカーによる双方向型授業を行っている。			
授業計画				
回数	内容			
第1回	特別支援教育の理念			
第2回	特別支援教育の現状			
第3回	障害のある子どもの理解（1） 視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱			
第4回	障害のある子どもの理解（2） 発達障害・知的障害			
第5回	障害のある子どもの理解（3） 具体的な支援、ICTの活用、困難の疑似体験			
第6回	小・中・特別支援学校等における特別支援教育、校内外との連携			
第7回	特別な教育的ニーズへの支援とインクルーシブ教育、指導支援の充実			
第8回	まとめ			
評価方法		評価割合		評価基準など
理解度テスト		80%		
レポート課題		20%		
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特別支援教育総論: インクルーシブ時代の理論と実践	田合紀宗 他	北大路書房	4762829498	2,420円
特別支援教育の基礎・基本 2020	独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	4863712979	2,970円
参考資料・URL	なし			

授業科目名	教育課程論			
教員の免許状取得のための科目	必修科目			
担当形態	単独			
科目名	教育の基礎的理解に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)			
担当教員名	百瀬光一			
単位数	2単位			
到達目標	1.「教育課程の意義」(学校教育における教育課程が有する役割・機能・意義) (1)学習指導要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解することができる。 (2)学習指導要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解することができる。 (3)教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解することができる。 2.「教育課程の編成の方法」(教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法) (1)教育課程編成の基本原理を理解することができる。 (2)教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。 (3)単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解することができる。 3.「カリキュラム・マネジメント」(教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校の教育課程全体をマネジメントすることの意義) (1)学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解することができる。 (2)カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。			
授業概要	本授業では、学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解することを主たる目的とする。 具体的には、「教育課程の意義」、「教育課程の編成の方法」、「カリキュラム・マネジメント」の3つのテーマを中心に進める。まず、「教育課程の意義」では、①学習指導要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的、②学習指導要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景、③教育課程が社会において果たしている役割や機能、の3点について扱う。次に「教育課程の編成の方法」では、①教育課程編成の基本原理、②教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法、③単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性、の3点について扱う。最後に、「カリキュラム・マネジメント」では、①学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性、②カリキュラム評価の基礎的な考え方、の2点について扱う。 なお、本授業では、ペア・ディスカッションやグループ・ディスカッションなどを積極的に導入していく。そのために、ディスカッションに必要な準備とディスカッション後のまとめが重要となる。			
授業計画				
回数	内容			
第1回	教育課程の意義(1) (学習指導要領の性格とその位置付け及び教育課程編成の目的) ・LMSを利用した事前・事後学修を行う。 ・本授業の成績評価基準を、左記[配付資料]に掲載しているため、授業計画に際し必ず確認すること。			
第2回	教育課程の意義(2) (学習指導要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景①: 1947年版~ 1958 年版の学習指導要領) ・LMS を利用した事前・事後学修を行う。			
第3回	教育課程の意義(3) (学習指導要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景②: 1968年版~ 1989年版の学習指導要領) ・LMS を利用した事前・事後学修を行う。			
第4回	教育課程の意義(4) (学習指導要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景③: 1998年版~ 2008 年版の学習指導要領) ・LMS を利用した事前・事後学修を行う。			
第5回	教育課程の意義(5) (現行の学習指導要領の特徴と改訂の社会的背景) ・LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第6回	教育課程の意義(6) (教育課程が社会において果たしている役割や機能) ・LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第7回	教育課程の編成の方法(1) (教育課程編成の基本原理) ・LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第8回	教育課程の編成の方法(2) (『主体的・対話的で深い学び』 (アクティブ・ラーニング)を実現するための教育課程の編成と指導計画の作成) ・LMS を利用した事前・事後学修を行う。			
第9回	教育課程の編成の方法(3) (教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法①: 「クロスカリキュラム」の理論とその実践事例の分析) ・LMS を利用した事前・事後学修を行う。			
第10回	教育課程の編成の方法(4) (教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法②: 新潟県上越市教育委員会による「視覚的カリキュラム」の考え方と作成方法の分析) ・LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第11回	教育課程の編成の方法(5) (単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性①: 山梨県甲府市立A 中学校の教育課程及び指導計画の事例分析) ・LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第12回	教育課程の編成の方法(6) (単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性②: 山梨県立B 高等学校の教育課程及び指導計画の事例分析) ・LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第13回	カリキュラム・マネジメント(1) (学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性) ・LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第14回	カリキュラム・マネジメント(2) (カリキュラム評価の基礎的な考え方) ・LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第15回	カリキュラム・マネジメント(3) (田村知子の「カリキュラムマネジメント・モデル」とその活用 事例の分析) ・LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合			評価基準など
事前課題レポート	50%			
定期試験	50%			
書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1558-0	326円＋ 税
高等学校学習指導要領	文部科学省	文部科学省		
中学校学習指導要領解説 総則編	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1559-7	251円＋ 税
高等学校学習指導要領解説総則編	文部科学省	文部科学省	978-4-491-03639-7	380円＋ 税
参考資料・URL	なし			

授業科目名	道徳教育指導論(中)
教員の免許状取得のための科目	必修科目
担当形態	単独
科目名	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法
担当教員名	百瀬光一
単位数	2単位
到達目標	1.「道徳の理論」(道徳の意義や原理等、それらを踏まえた学校における道徳教育の目標や内容) (1)道徳の本質(道徳とは何か)を説明することができる。 (2)道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題(いじめ・情報モラル等)を理解することができる。 (3)子供の心の成長と道徳性の発達について理解することができる。 (4)学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解することができる。 2.「道徳の指導法」(学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を道徳科における指導計画や指導方法) 3.「道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解することができる。 (1)学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解することができる。 (2)道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解することができる。 (3)道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。 (4)授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。 (5)道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解することができる。 (6)模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けることができる。
授業概要	道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。 本授業では、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付けることを主たる目的とする。 具体的には、「道徳の理論」、「道徳の指導法」の2つのテーマを中心に進める。「道徳の理論」では、①道徳の本質(道徳とは何か)、②道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題(いじめ・情報モラル等)、③子供の心の成長と道徳性の発達、④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容、の4点について扱う。「道徳の指導法」では、①学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性、②道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴、③道徳科における教材の特徴を踏まえた授業設計、④授業のねらいや指導過程を明確化した道徳科の学習指導案の作成、⑤道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方、⑥模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点、の6点について扱う。 なお、本授業では、ペア・ディスカッションやグループ・ディスカッションなどを積極的に導入していく。そのために、ディスカッションに必要な準備とディスカッション後のまとめが重要となる。

授業計画				
回数	内容			
第1回	道徳の理論 (1)道徳の本質：「道徳とは何か」 ・LMSを利用した事前・事後学習を行う。 ・本授業の成績評価基準を、左記[配付資料]に掲載しているため、授業計画に際し必ず確認すること。			
第2回	道徳の理論 (2)道徳教育の歴史) ・LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第3回	道徳の理論 (3)現代社会における道徳教育の課題：「いじめ・情報モラル等」) ・LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第4回	道徳の理論 (4)子供の心の成長と道徳性の発達) ・LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第5回	道徳の理論 (5)学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容) ・LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第6回	道徳の指導法 (1)学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性) ・LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第7回	道徳の指導法 (2)道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴①：「考え、議論する」道徳授業と「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)を実現するための道徳授業との関係性) ・LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第8回	道徳の指導法 (3)道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴②：インカレーション、価値の明確化、モラル・ディレンマ) ・LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第9回	道徳の指導法 (4)道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴③：総合単元的な道徳学習、統合的道徳教育、問題解決的な道徳学習、体験的な活動を導入した道徳学習など) ・LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第10回	道徳の指導法 (5)道徳科における教材の特徴を踏まえた授業設計) ・LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第11回	道徳の指導法 (6)授業のねらいや指導過程を明確化した道徳科の学習指導案の作成) ・LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第12回	道徳の指導法 (7)道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方：「エピソード評価法」など) ・LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第13回	道徳の指導法 (8)模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点①：模擬授業事前検討会「作成した学習指導案と授業の見所の説明」) ・LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第14回	道徳の指導法 (9)模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点②：模擬授業の実施と授業批評会) ・LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第15回	道徳の指導法 (10)模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点③：模擬授業の振り返りと次なる授業改善) ・LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
評価方法	評価割合		評価基準など	
事前・事後課題レポート	50%			
定期試験	50%			
書名	著書	出版社	ISBN	備考
四訂 道徳教育を学ぶ人のために	小野寺正一・藤森芳純	世界思想社	978-4-7907-1688-4	1,900円＋税
中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1558-0	826円＋税
中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編	文部科学省	教育出版	978-4-316-30084-9	136円＋税
参考資料・URL	なし			

授業科目名	総合的な学習・探究の時間の指導法
教員の免許状取得のための科目	必修科目
担当形態	単独
科目名	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法 総合的な探究の時間の指導法
担当教員名	下崎 聖
単位数	1 単位
到達目標	1.「総合的な学習・探究の時間の意義と原理」(総合的な学習・探究の時間の意義、各学校において目標及び内容を定める際の考え方) (1)総合的な学習・探究の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から理解することができる。 (2)学習指導要領における総合的な学習・探究の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解することができる。 2.「総合的な学習・探究の時間の指導計画の作成」(総合的な学習・探究の時間の指導計画作成の考え方、その実現のために必要な基礎的な能力) (1)各教科等との関連性を図りながら総合的な学習・探究の時間の年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な事例を理解することができる。 (2)主体的・対話的で深い学びを実現するよう、総合的な学習・探究の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を理解することができる。 3.「総合的な学習・探究の時間の指導と評価」(総合的な学習・探究の時間の指導と評価の考え方及び実践上の留意点) (1)探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てを理解することができる。 (2)総合的な学習・探究の時間における生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解することができる。
授業概要	総合的な学習・探究の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。 本授業では、総合的な学習・探究の時間において、生徒が各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、総合的な学習・探究の時間の指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付けることを主たる目的とする。 具体的には、「総合的な学習・探究の時間の意義と原理」、「総合的な学習・探究の時間の指導計画の作成」、「総合的な学習・探究の時間の指導と評価」の3つのテーマを中心に進める。まず、「総合的な学習・探究の時間の意義と原理」では、①総合的な学習・探究の時間の意義と教育課程において果たす役割、②学習指導要領における総合的な学習・探究の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、の2点について扱う。次に、「総合的な学習・探究の時間の指導計画の作成」では、①各教科等との関連性を図りながら総合的な学習・探究の時間の指導計画を作成することの重要性とその具体的な事例、②主体的・対話的で深い学びを実現するための総合的な学習・探究の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例、の2点について扱う。最後に、「総合的な学習・探究の時間の指導と評価」では、①探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、②総合的な学習・探究の時間における生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点、の2点について扱う。 なお、本授業では、ペア・ディスカッションやグループ・ディスカッションなどを積極的に導入していく。そのために、ディスカッションに必要な準備とディスカッション後のまとめが重要となる。

授業計画				
回数	内容			
第1回	・ 総合的な学習・探究の時間の意義と原理(1) (総合的な学習・探究の時間の意義と教育課程において果たす役割:「教科を越えて必要となる資質・能力の育成」) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。 ・ 本授業の成績評価基準を、左記[配付資料]に掲載しているため、授業計画に際し必ず確認すること。			
第2回	・ 総合的な学習・探究の時間の意義と原理(2) (学習指導要領における総合的な学習・探究の時間の 目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第3回	・ 総合的な学習・探究の時間の指導計画の作成(1) (各教科等との関連性を図りながら総合的な学習・探究の時間の指導計画を作成することの重要性とその具体的事例の分析) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第4回	・ 総合的な学習・探究の時間の指導計画の作成(2) (「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)を実現するための総合的な学習・探究の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的事例の分析) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第5回	・ 総合的な学習・探究の時間の指導と評価(1) (探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て:①「課題の設定」、②「情報の収集」、③「整理・分析」、④「まとめ・表現」の各段階における具体的な指導の手だてと留意点) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第6回	・ 総合的な学習・探究の時間の指導と評価(2) (各自作成した 探究的な学習の過程を踏まえた「単元計画」のプレゼンテーションと批評検討会、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三視点による次なる授業改善) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第7回	・ 総合的な学習・探究の時間の指導と評価(3) (総合的な学習・探究の時間における生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点:ルーブリックを基にしたパフォーマンス評価、ポートフォリオ評価など) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第8回	・ 総合的な学習・探究の時間の指導と評価(4) (カリキュラム・マネジメントの視点からの評価) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合		評価基準など	
事前事後課題レポート	50%			
定期試験	50%			
書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1561-0	209円＋ 税
高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編	文部科学省	学校図書	978-4-7625-0536-2	270円＋ 税
参考資料・URL	なし			

授業科目名	特別活動論
教員の免許状取得のための科目	必修科目
担当形態	単独
科目名	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別活動の指導法
担当教員名	下崎聖
単位数	2単位
到達目標	1.「特別活動の意義、目標及び内容」(特別活動の意義、目標、内容) (1)学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解することができる。 (2)教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解することができる。 (3)学級活動・ホームルーム活動の特質を理解することができる。 (4)生徒会活動、学校行事の特質を理解することができる。 2.「特別活動の指導法」(特別活動の指導の在り方) (1)教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解することができる。 (2)特別活動における取組の評価・改善活動の重要性を理解することができる。 (3)合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 (4)特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解することができる。
授業概要	特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々な行われる活動の総体である。 本授業では、学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付けることを主たる目的とする。 具体的には、「特別活動の意義、目標及び内容」、「特別活動の指導法」の2つのテーマを中心に進める。「特別活動の意義、目標及び内容」では、①学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容と「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点、②教育課程における特別活動の意義と位置付け及び各教科等との関連、③学級活動・ホームルーム活動の特質と学年の違いによる活動の変化、④生徒会活動、学校行事の特質と学年の違いによる活動の変化、の4点について扱う。「特別活動の指導法」では、①教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方と「チームとしての学校」の視点、②特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、③合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方、④特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方、の4点について扱う。 なお、本授業では、ペア・ディスカッションやグループ・ディスカッションなどを積極的に導入していく。そのために、ディスカッションに必要な準備とディスカッション後のまとめが重要となる。

授業計画				
回数	内容			
第1回	特別活動の意義、目標及び内容 (1) (学習指導要領の改訂における特別活動の目標及び主な内容と特別活動における「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。 ・ 本授業の成績評価基準を、左記[配付資料]に掲載しているため、授業計画に際し必ず確認すること。			
第2回	特別活動の意義、目標及び内容 (2) (特別活動における「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の実現) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第3回	特別活動の意義、目標及び内容 (3) (教育課程における特別活動の意義と位置付け及び各教科等との往還的な関連) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第4回	特別活動の意義、目標及び内容 (4) (学級活動・ホームルーム活動の特質と学年の違いによる活動の変化とその事例分析) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第5回	特別活動の意義、目標及び内容 (5) (生徒会活動の特質と学年の違いによる活動の変化とその事例分析) ・ LMSを利用した事前・事 後学修を行っている。 ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第6回	特別活動の意義、目標及び内容 (6) (学校行事の特質と学年の違いによる活動の変化とその事例分析) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第7回	特別活動の指導法 (1) (教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方①:「人間形成と特別活動」) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第8回	特別活動の指導法 (2) (教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方②:「学校の教育課程全体で取り組む特別活動の指導の意義」) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第9回	特別活動の指導法 (3) (教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方 ③:「特別活動の内容相互の関連」) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第10回	特別活動の指導法 (4) (教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方④:「特別活動と各教科、道徳科及び総合的な学習の時間との関連的な指導(クロスカリキュラム)」) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第11回	特別活動の指導法 (5) (教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方⑤: 特別活動における「チームとしての学校」の視点) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第12回	特別活動の指導法 (6) (特別活動における取組の評価・改善活動の重要性) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第13回	特別活動の指導法 (7) (合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導の実践事例の分析) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第14回	特別活動の指導法 (8) (集団活動の意義や指導の在り方と実践事例の分析) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第15回	特別活動の指導法 (9) (特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合		評価基準など	
事前・事後課題レポート	50%			
定期試験	50%			
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領	文部科学省	東洋館出版	978-4-491-03460-7	201円+ 税
中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1558-0	326円+税
高等学校学習指導要領	文部科学省	文部科学省		
小学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東洋館出版	978-4-491-03469-0	141円+ 税
中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1562-7	256円+税
高等学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東京書籍	978-4-487-28635-5	900円+税
参考資料・URL	なし			

授業科目名	教育方法論(中・高)
教員の免許状取得のための科目	必修科目
担当形態	単独
科目名	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の方法及び技術
担当教員名	百瀬光一
単位数	2単位
到達目標	1.「教育の方法論」(これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法) (1)教育方法の基礎的理論と実践を理解することができる。 (2)これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解することができる。 (3)学級・生徒・教員・教室・教材など授業を構成する基礎的な要件を理解することができる。 (4)学習評価の基礎的な考え方を理解することができる。 2.「教育の技術」(教育の目的に適した指導技術) (1)話法・板書など、授業を行う上での基礎的な技術を身に付けることができる。 (2)基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教員、授業展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。 (3)「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現させる上で必要となる基礎的な考え方及び技術を身に付けることができる。
授業概要	本授業では、教育の方法及び技術では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを主たる目的とする。 具体的には、「教育の方法論」、「教育の技術」の2つのテーマを中心に進める。まず、「教育の方法論」では、①教育方法の基礎的理論と実践、②これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)、③学級・生徒・教員・教室・教材など授業を構成する基礎的な要件、④学習評価の基礎的な考え方、の4点について扱う。次に、「教育の技術」では、①話法・板書などの授業を行う上での基礎的な技術、②基礎的な学習指導理論を踏まえた、目標・内容、教材・教員、授業展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案の作成、③「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現させる上で必要となる基礎的な考え方及び技術、の3点について扱う。 なお、本授業では、ペア・ディスカッションやグループ・ディスカッションなどを積極的に導入していく。そのために、ディスカッションに必要な準備とディスカッション後のまとめが重要となる。

授業計画				
回数	内容			
第1回	教育の方法論 (1)(教育方法の基礎的理論と実践:「教育方法とは?」、「教育方法の史的変遷の概観と現在の動向」) ・ LMSを利用した事前・事後学習を行う。 ・ 本授業の成績評価基準を、左記[配付資料]に掲載しているため、授業計画に際し必ず確認すること。			
第2回	教育の方法論 (2)(これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方:「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の実現するための教育方法の在り方) ・ LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第3回	教育の方法論 (3) (学級・生徒・教員・教室・教材など授業を構成する基礎的な要件) ・ LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第4回	教育の方法論 (4)(学習評価の基礎的な考え方と具体的な方法例) ・ LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第5回	教育の技術 (1)(話法・板書などの授業を行う上での基礎的な技術) ・ LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第6回	教育の技術 (2)(基礎的な学習指導理論:「問題解決学習」等を中心に) ・ LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第7回	教育の技術 (3) (目標・内容・教材・教具・授業展開・学習形態・評価規準等の視点を含めた学習指導案の作成①:「単元計画」の作成) ・ LMS を利用した事前・事後学習を行う。			
第8回	教育の技術 (4)(目標・内容・教材・教具・授業展開・学習形態・評価規準等の視点を含めた学習指導案の作成②:「学習指導案」の作成) ・ LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第9回	教育の技術 (5) (目標・内容・教材・教具・授業展開・学習形態・評価規準等の視点を含めた学習指導案の作成③ :「単元計画」の発表と批評検討会) ・ LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第10回	教育の技術 (6) (目標・内容・教材・教具・授業展開・学習形態・評価規準等の視点を含めた学習指導案の作成 ④:「学習指導案」の発表と批評検討会) ・ LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第11回	教育の技術 (7) (目標・内容・教材・教具・授業展開・学習形態・評価規準等の視 点を含めた学習指導案の作成⑤ :模擬授業の実施・授業批評会) ・ LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第12回	教育の技術 (8) (目標・内容・教材・教具・授業展開・学習形態・評価規準等の視点を含めた学習指導案の作成 ⑥ :模擬授業の振り返りと次なる授業改善) ・ LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第13回	教育の技術 (9)(「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現①:意義と授業実践例) ・ LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
第14回	教育の技術(10)(「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現②:「学習指導案」の作成) ・ LMSを利用した 事前・事後学習を行う。			
第15回	教育の技術(11)(「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現③:「学習指導案」の発表と批評検討会) ・ LMSを利用した事前・事後学習を行う。			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合		評価基準など	
事前・事後課題レポート	30%			
模擬授業	20%			
定期試験	50%			
書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領	文部科学省	康山書房	978-4-8278-1558-0	326円＋税
高等学校学習指導要領	文部科学省	文部科学省		
中学校学習指導要領解説 社会編	文部科学省	康洋館出版社	978-4-491-03471-3	189円＋税
中学校学習指導要領解説 保健体育編	文部科学省	康山書房	978-4-8278-1560-3	416円＋ 税
高等学校学習指導要領解説 公民編	文部科学省	東京書籍	978-4-487-28633-1	1,000円＋ 税
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1568-9	502円＋ 税
高等学校学習指導要領解説 商業編	文部科学省	実況出版	978-4-407-34863-7	1,350円＋ 税
参考資料・URL	なし			

授業科目名	教育におけるICT活用
教員の免許状取得のための科目	必修科目
担当形態	単独
科目名	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法
担当教員名	両川晃子
単位数	1単位
到達目標	①個別最適な学びと協働的な学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業化以前など、情報通信技術の活用の意義と在り方を理解し、児童生徒の特性に応じた活用の留意点、外部人材や外部連携を含めた環境整備について理解する。 ②情報通信技術を効果的に活用した指導事例を通して、基礎的な指導法や学習評価を理解する。 ③生徒の学習や日常生活で必要な情報活用能力(情報モラルを含む)を育成する基礎的な知識や指導法を理解する。
授業概要	教育におけるICT活用では、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能について学ぶ。

授業計画				
回数	内容			
第1回	・オリエンテーション ・教育の情報化に関する理論と社会的背景			
第2回	・ICT活用におけるデジタルコンテンツとソフトウェア			
第3回	・情報モラルや情報セキュリティ教育(デジタル・シティズンシップ教育)の重要性			
第4回	・学びの個別最適化・協働化と教科等におけるICT活用			
第5回	・学校生活と教科等横断的な情報活用能力の育成 ・特別支援教育におけるICT活用			
第6回	・ICT活用における遠隔・オンライン教育の意義とシステム活用法			
第7回	・校務支援システムおよびICT環境整備の意義と在り方 ・教育データの活用の推進			
第8回	・情報通信技術を活用によるこれからの教育 ・まとめとふりかえり			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合		評価基準など	
授業内テスト	30%		授業後にテストを実施する	
授業内課題	15%		授業内でワークシート等を提出する	
レポート課題	30%		授業内容に関するレポートを3回提出する	
プレゼンテーション	25%		授業内容に関するプレゼンテーションを行う	
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ICT活用の理論と実践Ⅰ	稲垣忠・佐藤和紀編著	北大路書房	9784762831805	参考書
デジタル・シティズンシップ	坂本旬・芳賀高洋・豊福晋平・今度珠美・林一真著	大月書店	9784272412594	参考書
参考資料・URL	その他の文献は授業のなかで紹介していく。また、資料等を適宜配布する。			

授業科目名	生徒指導・教育相談			
教員の免許状取得のための科目	必修科目			
担当形態	オムニバス			
科目名	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法			
担当教員名	田沼朗、阿部美穂子			
単位数	2単位			
到達目標	①生徒指導・教育相談の基礎理論を学ぶ(大学全体のDP①と関連)。 ②それを踏まえて、戦後の生徒指導の歴史をたどり(大学全体のDP①と関連)、 現代直面する諸課題とその解決に向けた試みを理解する(大学全体のDP③、⑤と関連)			
授業概要	授業形態：対面授業を原則としますが、コロナ感染状況によっては、オンライン授業を併用します。(同時双方向型、オンデマンド型) 使用ツール：UNIPA、LINE 生徒指導・教育相談は、教科教育とならんで学校教育の重要な柱である。本授業では、まず生徒指導を原理的に考察し、戦後の生徒指導の理論と実践の足跡を辿る。それから現在の子どもが直面する諸問題を検討する。それを踏まえ、教育相談(カウンセリングを含む)の基礎理論及び具体的方法、事例を学んでいく。			
授業計画				
回数	内容			
第1回	オリエンテーション (担当：田沼朗) 授業計画及び成績評価に際しては、ルーブリックを参照します。			
第2回	生徒指導の意義と原理 (担当：田沼朗)			
第3回	児童・生徒理解の重要性 (担当：田沼朗)			
第4回	戦後の生徒指導・生活指導をめぐる理論と実践(概論) (担当：田沼朗)			
第5回	非行問題の歴史と課題 (担当：田沼朗)			
第6回	戦後第三の非行、校内暴力 (担当：田沼朗)			
第7回	管理主義教育(校則、体罰) (担当：田沼朗)			
第8回	教師の懲戒権と体罰 (担当：田沼朗)			
第9回	教育相談の理論と方法 (担当：阿部美穂子)			
第10回	カウンセリングの基礎理論と方法 (担当：阿部美穂子)			
第11回	不登校の理解と対応及び地域の専門機関等との連携(担当：阿部美穂子)			
第12回	発達障害の特性の理解と対応及び地域の専門機関等との連携(担当：阿部美穂子)			
第13回	いじめ問題の時期区分とその特徴 (担当：田沼朗)			
第14回	いじめ克服の視点と学校運営体制の確立 (担当：田沼朗)			
第15回	子どもの権利条約の思想と生徒指導・教育相談の課題及び地域の専門機関等との連携の意義と必要性 (担当：田沼朗、阿部美穂子)			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合			評価基準など
期末試験	70%			
確認レポート	30%			授業ごとに実施
書名	著者	出版社	ISBN	備考
山びこ学校	無着成恭			
生徒指導提要改訂版	文部科学省			
子どもの自分くずしと自分づくり	竹内常一	東京大学出版会		
いじめ問題をどう克服するか	尾木直樹	岩波書店		
子ども白書各年版	日本子どもを守る会	かもがわ出版		
教師のたまごのための教育相談	会沢信彦・安斉順子			
参考資料・URL	・文部科学省『生徒指導提要』改訂版 ・日本子どもを守る会編『子ども白書 2020 』かもがわ出版 ・無着成恭編『山びこ学校』岩波文庫 ・竹内常一『子どもの自分くずしと自分づくり 』東京大学出版会 ・竹内常一『おとなが子どもと出会うとき、子どもが世界を立ち上げるとき』桜井書店 ・尾木直樹『いじめ問題をどう 克服するか』岩波書店 ・会沢信彦、安斉順子『教師のたまごのための教育相談』北樹出版			

授業科目名	進路指導論
教員の免許状取得のための科目	必修科目
担当形態	単独
科目名	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法
担当教員名	田沼朗
単位数	2単位
到達目標	①生徒の社会的・職業的自立に向けた指導を行う進路指導やキャリア教育の理論と実践について学習する(大学全体のDP①と関連)。 ②現代学校における進路指導・キャリア教育の意義、その理論と実践について学習する(大学全体のDP①、⑤と関連)。 ③生徒が主人公となる権利としての進路指導について創造的に考えることができるようになる(大学全体のDP②、③と関連)。
授業概要	授業形態: 対面授業を原則としますが、コロナ感染状況によってはオンライン授業を併用します。(同時双方向型、オンデマンド型) 使用ツール: UNIPA、Line、Zoomは適宜使用。 学校教育の重要な柱である進路指導の原理と歴史、特に近年急速に重視されつつあるキャリア教育の理論と実践、直面する課題について学習する。まずは、子ども・青年の進路状況、労働実態を学び、キャリア教育が必要とされる背景を学ぶ。そしてキャリア教育の理論と方法、実践例を学び、最後に生徒が生きること、働くこと、学ぶことを統一的に把握できる進路指導、キャリア教育のありかたを学ぶ。

授業計画	
回数	内容
第1回	オリエンテーション 授業計画及び成績評価に際して、ルーブリックを参照します。
第2回	学校教育における進路指導の歴史的位置と理論
第3回	中学校、高等学校卒業生の進路状況
第4回	若者の「学校から仕事」への移行プロセスの変容
第5回	不登校、社会的ひきこもり、ニート、フリーター、生活の困難
第6回	キャリア・エデュケーション運動の登場(アメリカの事例から)
第7回	日本におけるキャリア教育政策の登場と展開・・・進路指導の改革として
第8回	キャリア教育政策の内容
第9回	キャリア教育の実践例(1)ワークルールを学ぶ
第10回	キャリア教育の実践例(2)職場体験学習、インターンシップ
第11回	キャリア教育の実践例(3)キャリアガイダンス、キャリアカウンセリング(ロールプレイング)
第12回	権利としての進路指導の創造へ(1)キャリア教育を子ども・青年の権利に
第13回	権利としての進路指導の創造へ(2)キャリア教育の内容の構想・・・文部科学省および民間教育での提言
第14回	生きること、働くこと、学ぶことを統一的に保障するキャリア教育の内実
第15回	まとめ

学生に対する評価				
評価方法	評価割合		評価基準など	
定期試験	70%			
確認レポート	30%		授業ごとに実施	
書名	著者	出版社	ISBN	備考
権利としてのキャリア教育	児美川孝一郎	明石書店		
働くことを学ぶー職場体験・キャリア教育	全国進路指導研究会	明石書店		
高等学校キャリア教育の手引き	文部科学省			
参考資料・URL	・竹内常一『生活指導と教科外教育』(上・下)東京大学出版会 ・児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』明石書店 ・全国進路指導研究会編『働くことを学ぶ・・・職場体験・キャリア教育』明石書店 ・『中学校キャリア教育の手引き』文部科学省 ・『高等学校キャリア教育の手引き』文部科学省			

授業科目名	教育実習研修			
教員の免許状取得のための科目	必修科目			
担当形態	単独			
科目名	教育実践に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育実習			
担当教員名	八木悟			
単位数	2単位			
到達目標	1、教育実習を前に教育現場に向けた心構えと責任を持つことができる。 2、教材研究や学習指導案の作成、授業展開の基礎的な方法を理解して、授業実践を行うことができる。 3、特別活動や総合的な学習（探究）の時間の両者の関連（共通性と相違性）を理解した上で授業実践を行うことができる。 4、学修や現職教員のアドバイスに基づき、教員として求められる事項について議論することができる。			
授業概要	模擬授業及びグループ・ディスカッション等を通して、教育実習の実践に向けた事前指導と教育実習を振り返る事後指導を行う。実習生としての立場や責任について自覚を高め、教職課程で学んだ教科指導や教科外指導などを教育現場で生かすことができるようにする。このため、実習に向かう自己課題を設定し、教壇に立つ基礎的な準備として教材研究や学習指導案の作成、授業づくり、教科外指導など実践的な学習を行う。また、現職教員からの報告・提言など教育現場の具体事例に基づいた実践的な研修も組み入れ、学校教育全般にわたって幅広い実践的指導力を養う。終了後は体験報告や体験に基づく反省と課題について討議し、実習に対する自己評価を行う。なお、事前・事後学修についてはLMSの活用も積極的に取り入れていく予定である。			
授業計画				
回数	内容			
第1回	教育実習の意義と目的 ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。 ・ 本授業の成績評価基準を、左記[配付資料]に掲載しているため、授業計画に際し必ず確認すること。			
第2回	教育実習生の心得、自己課題の設定 ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第3回	教師の仕事と求められる資質・能力 ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第4回	中学・高校生の理解、意見交換 ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第5回	学校の組織と運営 ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第6回	現職教員からの報告・提言① 教育現場の現状と実習生へのアドバイス(都合上、授業回が変更する場合も有る) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第7回	学習指導要領の教科指導と教科外指導 ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第8回	教科書の役割や内容と教材づくり ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第9回	教材研究と学習指導案の作成①授業づくり ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第10回	教材研究と学習指導案の作成②ICTの活用 ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第11回	研究授業の実践例、意見交換 ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第12回	教科外指導の実践例 ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第13回	教科外指導の実践に関する意見交換 ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第14回	現職教員からの報告・提言②効果的な教科指導と教科外指導(都合上、授業回が変更する場合も有る) ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
第15回	まとめ、教員への心構え ・ LMSを利用した事前・事後学修を行う。			
学生に対する評価				
評価方法	評価割合	評価基準など		
授業への取り組み	40%			
発表・討議等	30%			
課題レポート	30%			
書名	著者	出版社	ISBN	備考
テキスト中等教育実習「事前・事後指導」教育実習	土井進	ジダイ社	978-4-909124-04-3	1,500円＋税
中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	東洋館出版	978-4-491-03471-3	189円＋ 税
高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	東京書籍	978-4-487-28633-1	1,000円＋税
中学校学習指導要領解説保健体育編	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1560-3	416円＋ 税
高等学校学習指導要領解説	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1568-9	502円＋ 税
教育実習録	山梨学院大学			
参考資料・URL	なし			

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習		単位数：2単位		担当教員名：八木 悟	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取 (※2)	○
受講者数 20名					
教員の連携・協力体制					
本学所属教員、本学出身の現職教員、併設中学校・高等学校教員などとの連携を軸に、山梨県教育庁や県内の教育実習校と連携をとり、授業計画の立案を行う。授業は、山梨県教育庁や県内の教育実習校と本学の教職センターとの間で事前協議を行った上で実施する。ここで、地域の実情に合わせて、必要とされる授業内容を織り込む。授業実施の後、年度末に山梨県教育庁や県内の教育実習校に対して結果を報告し、成果と反省点を共有するとともに積極的な意見聴取を行い、次年度の授業計画に反映させる。山梨県・教育事務所・中学校・高等学校など関係機関職員の協力を得て、かつ教育現場の協力体制を整え、より現場での教育に即した教職実践演習とする。					
授業のテーマ及び到達目標					
1、教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学び、共に成長しようとする姿勢を持つことができる。 2、教職員、保護者・地域の関係者と連協・協働しながら職務を遂行しようとすることができる。 3、子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い、規律ある学級経営を行おうとすることができる。 4、教科等の知識と技能や授業を行う上での基本的な表現力及びICT活用能力を身に付け、授業を行うことができる。					
授業の概要					
本演習は、教職課程の授業科目の履修や教育実習、教職課程外での様々な活動を通じて、一人一人が身に付けた資質・能力が、教員として最小限必要なものとして有機的に統合され形成されたかを、グループ討議、模擬授業・ロールプレイング・プレゼンテーションなどを通して最終的な確認を行う。更に、教員になる上で何が課題かを自覚し、必要に応じて不足している知識及び技能を補い、その定着を図る。なお、各回の授業の準備及びまとめはLMSを利用するものとする。					
授業計画					
第1回：オリエンテーション 教職の意義、学校教育の現状と課題 ・LMSを利用した事前・事後学修を行う。 ・本授業の成績評価基準を、左記[配付資料]に掲載しているため、授業計画に際し必ず確認すること。 第2回：履修状況の振り返りと教育課題の確認 グループ討議 (1)教科指導 ・LMSを利用した事前・事後学修を行う。 第3回：履修状況の振り返りと教育課題の確認 グループ討議 (2)学級経営等 ・LMSを利用した事前・事後学修を行う。 第4回：現職教員からの課題提言及び意見交換					

・LMSを利用した事前・事後学修を行う。

第5回：教職の使命、教員の役割、社会性や対人関係能力の醸成について グループ討議

・LMSを利用した事前・事後学修を行う。

第6回：教科指導及び生徒理解や学級経営等の事例研究 グループ討議

・LMSを利用した事前・事後学修を行う。

第7回：教育課題の解決に向けた研究準備

・LMSを利用した事前・事後学修を行う。

第8回：学校見学 教科指導及び生徒理解や学級経営についてのフィールドワーク

・LMSを利用した事前・事後学修を行う。

第9回：現職教員・関係機関職員からの課題提言及び意見交換

・LMSを利用した事前・事後学修を行う。

第10回：生徒理解や生徒相談に関するロールプレイング

・LMSを利用した事前・事後学修を行う。

第11回：ICTを活用した模擬授業の実施・討議 (1)教科指導

・LMSを利用した事前・事後学修を行う。

第12回：ICTを活用した模擬授業の実施・討議 (2)学級経営等

・LMSを利用した事前・事後学修を行う。

第13回：教育課題の解決に向けた研究発表と協議 (1)教科指導

・LMSを利用した事前・事後学修を行う。

第14回：教育課題の解決に向けた研究発表と協議 (2)学級経営等

・LMSを利用した事前・事後学修を行う。

第15回：教員として求められる事項 教職実践のまとめ

・LMSを利用した事前・事後学修を行う。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

- ・中学校学習指導要領解説 社会編（東洋館出版）
- ・高等学校学習指導要領解説 公民編（東京書籍）
- ・中学校学習指導要領解説 保健体育編（東山書房）
- ・高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（東山書房）
- ・高等学校学習指導要領解説 商業編（実教出版）

学生に対する評価

グループ討議への参加状況(30%)、模擬授業・ロールプレイング・プレゼンテーション(30%)、
期末レポート(40%)により総合的な見地から最終評価を行う。